

※ポリシーとの関連性 アジアの経済発展は、大きく変化している講義を通して、アジア各国の相違点や特徴について学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい アジア経済は1960年代以降大きな変化を遂げてきた。その成長は今後とも進むと思われ、シンガポールの一人当たりGDPは日本を上回り発展し続けている。アジア各国の経済発展を分析し、その要因について考える。	メッセージ 講義受講時間中は、常にテキストやパソコンに登録されている共通ファイルに目を通して臨むようようようにして下さい。 また講義はパワーポイントを使いますので、よく聞く事に重点を置いて受講して下さい。
	到達目標 本講義を通して アジア諸国の発展過程及び現在各国が抱えている問題点について明らかにし、分析すると共に、問題解決を考える。 また、日本企業の対外投資による県連製についても考えていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 韓国経済発展の軌跡	テキストの予習・復習
	2	第2週 1MF危機とは何だったのか	同上
	3	第3週 展望	同上
	4	第4週 台湾戦後の発展過程	同上
	5	第5週 受託製造を支柱とする産業構造	同上
	6	第6週 資金という新しい力	同上
	7	第7週 民主化と経済・中国との関係	同上
8	第8週 中間テスト		
9	第9週 香港経済の高度成長	テキストの予習・復習	
10	第10週 構造転換	同上	
11	第11週 サービス経済・経済政策	同上	
12	第12週 シンガポール独立以来の経済発展	同上	
13	第13週 産業構造	同上	
14	第14週 開発体制	同上	
15	第15週 都市国家の課題	同上	
16	第16週 期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・参考文献・資料など テキスト 渡辺利夫編『アジア経済読本』第4版 東洋経済 参考文献 アジア動向年報（図書館）・日本経済新聞（図書館）・		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡下さい。 2. テキストの予習・復習を十分に行うこと。 3. 質問があれば、いつでも手を挙げて下さい。 4. 質問が多い人は評価が高くなります。		
	評価 1. 中間テスト（40%） 2. 期末テスト（60%） 3. 欠席が1/3を超える学生は単位を認定しない。 4. 評価は総合点をもって行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 国際経済論 2. 日本経済論
-------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシーに基づきアジアにおけるビジネスや経済情報を学び実社会で活躍できる人材を育成する専門科目を提供する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアビジネス事情	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい テキストを読んで内容を理解できる。アジアを代表する情報通信系企業に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。県系IT企業の海外進出や県のアジア経済戦略を理解できる。	メッセージ 毎回、プリントを配布します。なお、テストに対応できる練習問題を配って、授業中に解答します。
	到達目標 初歩的なアジアビジネスの実際を理解できる。現実のIT産業の概況について自分で調べ、レポートを作成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	県内企業のアジア圏取引の現状と課題について	プリント読み
	2	台湾香港の情報化と人材育成	テキスト① 1 3章
	3	シンガポールにおける経済およびIT政策&東南アジアの概況	テキスト① 1 2章& 1 0章
	4	沖縄の情報産業の展開&沖縄スマートハブの形成	テキスト② 2-3章
	5	沖縄先端医療のアジア展開&タイの医療ツーリズム	テキスト① 6章& テキスト② 2章
	6	ベトナムにおけるIT政策と人材育成	テキスト① 1 1章
	7	サンスムの二番手商法	プリント読み
	8	中国の暗転&中国のIT事情	プリント読み
9	台湾IT企業の戦略（鴻海とSHARPの崩壊）	プリント読み	
10	華人ビジネスと沖縄（華人ネットワークの秘密 華人国家シンガポール）	参考書読み	
11	華人ビジネスと沖縄（華南経済圏&トライアングル経済圏の可能性）	テキスト② 2章& 参考書読み	
12	アジア各国の市場今後の見通し&沖縄発展の可能性	テキスト② 1章& プリント読み	
13	アジアビジネスの展開と今後の展望	テキスト② 2章& 6章	
14	国際旅客ハブ&沖縄リゾートウェディングの課題	テキスト① 4章& テキスト② 3章	
15	国際物流ハブ（食品産業連携の可能性）	テキスト② 2章	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト① 沖縄国際大学公開講座（2015）沖縄国際大学産業総合研究所『沖縄の観光・環境・情報産業の展開』泉文堂 テキスト② 富川盛武（2018）『アジアのダイナミズムと沖縄の発展』琉球新報社		
	学びの手立て ①テキストは各自で購入する②レポート提出前に、関連する授業プリントを再確認しておくこと。		
	評価 レポート・期末テストと平常点で総合的に評価する。レポート&期末テスト70点・平常点30点の割合で評価する。平常点は意欲・表現度・授業態度を確認する。出席による加点・減点は行わない。詳細は初回講義時に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「国際経済学」、「アジア経済論」 次のステージ：授業で学んだ知識は現実のビジネス世界に応用できる。ITビジネス、沖縄経済について、全般に知識を高められる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連し、社会人に必要なビジネスマナーやスキル等を学ぶ。 [ / ]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員 1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル	ガイダンスの振り返り
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性	ガイダンスの振り返り
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編	ガイダンスの振り返り
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など  
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て  
**【応募資格】**①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）  
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
**【注意事項】**①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価  
**【出席について】**出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等）20%

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連し、社会人に必要なビジネスマナーやスキル等を学ぶ。 [ / ]

科目基本情報	科目名 インターンシップⅡ	期別	曜日・時限	単位 4
	担当者 LC 教員1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル	ガイダンスの振り返り
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性	ガイダンスの振り返り
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編	ガイダンスの振り返り
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など  
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て  
**【応募資格】**①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）  
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
**【注意事項】**①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価  
**【出席について】**出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等）20%

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブデザイン演習	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	1年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、Adobe社のPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、HTMLの構成（タグ、フレーム、ページ移動等）について学ぶ。	メッセージ 本演習で習得する事項は、ウェブ構築ならびにウェブデザインを行う上で必要な技術であるだけでなく、画像処理やデザインに関連する知識は様々な就業においても必要とされる基礎的な知識となる。本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
	到達目標 ・ウェブ構築に必要な画像処理技術および視覚情報の扱いについて理解を深める。 ・演習を通してウェブデザインに必要な技術を習得し活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	ガイダンスの理解
	2	Photoshopの基本操作	教科書の理解・課題の提出
	3	Photoshopのペイントツール	教科書の理解・課題の提出
	4	Photoshopによる選択ツール	教科書の理解・課題の提出
	5	Photoshopによる画像補正と色調補正	教科書の理解・課題の提出
	6	Photoshopによる画像合成とフィルタ	教科書の理解・課題の提出
	7	Photoshopによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	8	Illustratorの基本操作および図形の描画とパスの作成	教科書の理解・課題の提出
9	Illustratorによるオブジェクトの編集	教科書の理解・課題の提出	
10	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成	教科書の理解・課題の提出	
11	Illustratorによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出	
12	Illustratorによるシンボルマークの作成	教科書の理解・課題の提出	
13	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（1）	教科書の理解・課題の提出	
14	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用（2）	教科書の理解・課題の提出	
15	課題プレゼンテーション1	課題の提出	
16	課題プレゼンテーション2	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。 ・講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。 ・質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。		
	評価 評価は、平常点(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で習得した、画像処理およびデザインに関する技術は、2年次以降の専門的な学びと連携・活用し、より深い理解を得るためにもしっかりと取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ウェブデザイン演習	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、Adobe社のPhotoshop、Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、HTMLの構成（タグ、フレーム、ページ移動等）について学ぶ。	本演習で習得する事項は、ウェブ構築ならびにウェブデザインを行う上で必要な技術であるだけでなく、画像処理やデザインに関連する知識は様々な就業においても必要とされる基礎的な知識となる。本演習を通してしっかり身につけて欲しい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブ構築に必要な画像処理技術および視覚情報の扱いについて理解を深める。</li> <li>演習を通してウェブデザインに必要な技術を習得し活用できるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	ガイダンスの理解
	2	Photoshopの基本操作	教科書の理解・課題の提出
	3	Photoshopのペイントツール	教科書の理解・課題の提出
	4	Photoshopによる選択ツール	教科書の理解・課題の提出
	5	Photoshopによる画像補正と色調補正	教科書の理解・課題の提出
	6	Photoshopによる画像合成とフィルタ	教科書の理解・課題の提出
	7	Photoshopによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	8	Illustratorの基本操作および図形の描画とパスの作成	教科書の理解・課題の提出
	9	Illustratorによるオブジェクトの編集	教科書の理解・課題の提出
	10	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成	教科書の理解・課題の提出
	11	Illustratorによるロゴの作成	教科書の理解・課題の提出
	12	Illustratorによるシンボルマークの作成	教科書の理解・課題の提出
	13	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用 (1) Web素材作成	教科書の理解・課題の提出
14	IllustratorとPhotoshopとの連携、HTMLへの応用 (2) アニメーション	教科書の理解・課題の提出	
15	課題プレゼンテーション1	課題の提出	
16	課題プレゼンテーション2	課題の提出	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。</li> <li>講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> <li>質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。</li> </ul>		
評価	評価は、平常点 (25%) と課題 (75%) の合計の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習で習得した、画像処理およびデザインに関する技術は、2年次以降の専門的な学びと連携・活用し、より深い理解を得るためにもしっかりと取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 ウェブプログラミング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平良 直之	前期	金 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい インターネットの普及とともに、我々はHPの閲覧だけでなくメール、インターネットショッピング、SNSといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。	メッセージ 本講義は、プログラミング概論およびプログラミング I を履修済みであることが望ましい。また本講義での学習内容は情報システム開発に関する基礎技術であり、専門演習基礎の所属クラスに限らず、履修することを強くお勧めします。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。
	到達目標 インターネット上の情報システムの仕組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	PHPの基礎①に関する予習
	2	PHPの開発環境およびPHPの基礎①（記述ルール、定数、配列）	講義課題演習／PHPの基礎②の予習
	3	PHPの基礎②（制御文、ユーザ定義関数）	講義課題演習
	4	演習：PHPの基礎	組込関数①の予習
	5	PHPの組込関数①（文字列・配列の操作）	講義課題演習／組込関数②の予習
	6	PHPの組込関数②（ファイルの操作、メール送信）	講義課題演習
	7	演習：PHPの組込関数	WebでのPHP①の予習
	8	WebでのPHP①（テキスト・ボタンの利用）	講義課題演習／WebでのPHP②の予習
	9	WebでのPHP②（認証、セッション、外部コマンド）	講義課題演習
	10	演習：WebでのPHP	PHPにおけるクラスの予習
	11	PHPにおけるクラス	講義課題演習／MySQLの基本①の予習
	12	MySQLの基本①（データの挿入、検索、更新、削除）	講義課題演習／MySQLの基本②の予習
	13	MySQLの基本②（テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除）	講義課題演習／DB利用①の予習
	14	PHPにおけるDB利用①（データベース接続とデータの検索）	講義課題演習／DB利用②の予習
15	PHPにおけるDB利用②（データの挿入・更新・削除）	講義課題演習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・たにぐちまこと「よくわかるPHPの教科書」マイナビ出版 ・山田祥寛「独習PHP」翔泳社		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 予習レポート(2割)と演習課題(3割)、試験(5割)の総得点で評価する。総得点の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可とし6割未満不可とする。また、出席率が2/3に満たないものは不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報処理システム論」および「専門演習基礎」がある。
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 ウェブプログラミング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平良 直之	前期	月 4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい インターネットの普及とともに、我々はHPの閲覧だけでなくメール、インターネットショッピング、SNSといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。	メッセージ 本講義は、プログラミング概論およびプログラミング I を履修済みであることが望ましい。また本講義での学習内容は情報システム開発に関する基礎技術であり、専門演習基礎の所属クラスに限らず、履修することを強くお勧めします。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。
	到達目標 インターネット上の情報システムの仕組みを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	PHPの基礎①に関する予習
	2	PHPの開発環境およびPHPの基礎①（記述ルール、定数、配列）	講義課題演習／PHPの基礎②の予習
	3	PHPの基礎②（制御文、ユーザ定義関数）	講義課題演習
	4	演習：PHPの基礎	組込関数①の予習
	5	PHPの組込関数①（文字列・配列の操作）	講義課題演習／組込関数②の予習
	6	PHPの組込関数②（ファイルの操作、メール送信）	講義課題演習
	7	演習：PHPの組込関数	WebでのPHP①の予習
	8	WebでのPHP①（テキスト・ボタンの利用）	講義課題演習／WebでのPHP②の予習
	9	WebでのPHP②（認証、セッション、外部コマンド）	講義課題演習
	10	演習：WebでのPHP	PHPにおけるクラスの予習
	11	PHPにおけるクラス	講義課題演習／MySQLの基本①の予習
	12	MySQLの基本①（データの挿入、検索、更新、削除）	講義課題演習／MySQLの基本②の予習
	13	MySQLの基本②（テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除）	講義課題演習／DB利用①の予習
	14	PHPにおけるDB利用①（データベース接続とデータの検索）	講義課題演習／DB利用②の予習
15	PHPにおけるDB利用②（データの挿入・更新・削除）	講義課題演習	
16	試験・総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：未定（第一回目の講義で周知します） 参考資料： ・たにぐちまこと「よくわかるPHPの教科書」マイナビ出版 ・山田祥寛「独習PHP」翔泳社		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 予習レポート(2割)と演習課題(3割)、試験(5割)の総得点で評価する。総得点の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可とし6割未満不可とする。また、出席率が2/3に満たないものは不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報処理システム論」および「専門演習基礎」がある。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エグゼクティブ・セミナー	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 哲	3年	st-uechi@hkg.odn.ne.jp	

学びの準備	ねらい 産業社会の成り立ちと現状を理解し、県内外でビジネスを展開する経営者をゲストに招き話を聞くことで、自分自身の進路・就職・仕事、そして生き方を考える機会を提供する。	メッセージ 県内外で活躍する企業経営者やビジネスマンから直接体験を聞き、質問、議論することで、将来の進路や仕事、生き方に向き合ってもらいたい。
	到達目標 将来の生き方の方向性を設定できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、産業社会の概論	ガイダンスの理解
	2	産業社会の成り立ち（歴史）と現在社会。沖縄の産業の実情。	当該講義の復習
	3	沖縄におけるICTの活用（NTT地域支援室）	当該講義の復習
	4	広告業界から見る沖縄の産業界	当該講義の復習
	5	地域特産品の全国展開	当該講義の復習
	6	沖縄の独自性を商品化	当該講義の復習
	7	eコマースのメリットとデメリット	当該講義の復習
	8	離島の優位性	当該講義の復習
9	世界に誇る沖縄のものづくり	当該講義の復習	
10	建築業界の現状	当該講義の復習	
11	アパレル業界でも沖縄らしさを	当該講義の復習	
12	伝統工芸の産業化	当該講義の復習	
13	空手のビジネス	当該講義の復習	
14	六次産業	当該講義の復習	
15	ウェルネス産業	最終試験に向けて試験範囲の総復習	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。その都度参考文献は紹介します。			
学びの手立て 履修の心構え 無断欠席はしないこと。 居眠り、私語は退席してもらいます。			
評価 評価点 出席：50 レポート：40 テスト：10			

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講終了後、気になったゲストで話した企業との関係を作ってもらいたい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学Ⅰ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	2年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業は、マクロ経済学の知識と理論を用いてマクロ経済分析ができるようになることを目的とします。授業の位置付けは経済原論Ⅱの復習と発展であり、修得後は応用マクロ経済学Ⅱを履修することを前提とします。	経済原論Ⅱの修得者を対象としますが、理解促進のために復習を多く設定しているため、マクロ経済学に苦手意識を持つ学生は積極的に受講し、克服に努めてください。また、応用マクロ経済学Ⅱの履修を希望する学生は必ず受講してください。
到達目標	①マクロ経済学に関する用語と理論を理解し、説明することができる（確認テストと期末試験で評価） ②授業で取り上げた事例に対して、マクロ経済学の観点から妥当な持論を述べるることができる（授業での発表と討論レポートで評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／マクロ経済学の基礎知識	授業内容の復習をしておく
	2	GDPの概念と三面等価	授業内容の復習をしておく
	3	インフレとデフレ	ディスカッション①準備をしておく
	4	ディスカッション①「インフレ・デフレは経済成長をもたらすか」	授業内容の復習をしておく
	5	確認テスト／市場メカニズム	授業内容の復習をしておく
	6	生産関数	授業内容の復習をしておく
	7	貯蓄と投資	ディスカッション②準備をしておく
	8	ディスカッション②「貯金をすれば老後は安泰か」	授業内容の復習をしておく
	9	確認テスト／貨幣市場	授業内容の復習をしておく
	10	中央銀行の役割	授業内容の復習をしておく
	11	失業	ディスカッション③準備をしておく
	12	ディスカッション③「カネを大量に印刷すれば景気は良くなるか」	授業内容の復習をしておく
	13	経済成長の要因	授業内容の復習をしておく
	14	人的資本	授業内容の復習をしておく
15	総括／確認テストと解説	定期試験に向けた復習をしておく	
16	期末試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。 ①井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2015年4月 ②木暮太一『落ちこぼれでもわかるマクロ経済学の本』マトマ出版、2010年4月

学びの手立て	●開講期間中に確認テストとディスカッションを3回実施します。確認テストは、その回までの授業範囲を対象とするため、範囲の重複があります。一方、ディスカッションは、議論の結果をチームごとに発表してもらい、受講者に相互評価してもらいます。また、ディスカッションの結果はチームごとに「討論レポート」にまとめ、発表後に提出してもらいます。この発表と討論レポートも成績評価の対象とします。ディスカッションを行うためには事前の調査が必要となるため、授業外学習で準備をしておいてください。これを怠った場合、深い議論が行えないため、相応の減点をします。なお、ディスカッションのテーマは最新の時事問題に差し替える可能性があります。●この授業では期末試験を行います。期末試験は、授業とディスカッションで取り扱ったすべての範囲が対象であり、「持ち込み不可」なので、しっかりと復習を行い、内容の理解に努めてください。
--------	---

評価	①発表15%（受講者による相互評価） ②討論レポート15%（教員による評価） ③確認テスト20%（第5、9、15回の授業内） ④期末試験50%（授業で取り扱ったすべての範囲が対象。持ち込み不可）
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：経済原論Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅱ 次のステージ：応用マクロ経済学Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	2年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業は、マクロ経済学の知識と理論を用いてマクロ経済分析ができるようになることを目的とします。授業の位置付けは応用マクロ経済学Ⅰの発展であるため、ⅠとⅡの両科目を修得することを奨励します。	応用マクロ経済学Ⅰの修得者が対象であるため、受講に先立って修得しておいてください。当然ながら、Ⅰで取り扱う部分の解説は「復習」という位置付けになるため、この科目を先に履修する場合、不明な箇所は自習するか、履修後にⅠを受講して下さい。

学びの準備	到達目標
	①マクロ経済学に関する用語と理論を理解し、説明することができる（確認テストと期末試験で評価） ②授業で取り上げた事例に対して、マクロ経済学の観点から妥当な持論を述べる（授業での発表と討論レポートで評価）

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／マクロ経済の短期成長モデル	授業内容の復習をしておく
	2	景気循環	授業内容の復習をしておく
	3	乗数効果	ディスカッション①準備をしておく
	4	ディスカッション①「穴を掘って埋める作業を繰り返すと景気はどうか」	授業内容の復習をしておく
	5	確認テスト／IS曲線の性質	授業内容の復習をしておく
	6	LM曲線の性質	授業内容の復習をしておく
	7	IS-LMモデル	ディスカッション②準備をしておく
	8	ディスカッション②「コストを下げ続けると利益はどうか」	授業内容の復習をしておく
	9	確認テスト／総需要曲線と総供給曲線	授業内容の復習をしておく
	10	財政の役割	授業内容の復習をしておく
	11	金融政策	ディスカッション③準備をしておく
	12	ディスカッション③「軽減税率は消費者の負担軽減になるか」	授業内容の復習をしておく
	13	確認テスト／比較優位の原則	授業内容の復習をしておく
	14	為替変動と円高・円安	授業内容の復習をしておく
15	総括／確認テストと解説	定期試験に向けた復習をしておく	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。 ①井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2015年4月 ②木暮太一『落ちこぼれでもわかるマクロ経済学の本』マトマ出版、2010年4月

学びの実践	学びの手立て
	●開講期間中に確認テストとディスカッションを3回実施します。確認テストは、その回までの授業範囲を対象とするため、範囲の重複があります。一方、ディスカッションは、議論の結果をチームごとに発表してもらい、受講者に相互評価してもらいます。また、ディスカッションの結果はチームごとに「討論レポート」にまとめ、発表後に提出してもらいます。この発表と討論レポートも成績評価の対象とします。ディスカッションを行うためには事前の調査が必要となるため、授業外学習で準備をしておいてください。これを怠った場合、深い議論が行えないため、相応の減点をします。なお、ディスカッションのテーマは最新の時事問題に差し替える可能性があります。●この授業では期末試験を行います。期末試験は、授業とディスカッションで取り扱ったすべての範囲が対象であり、「持ち込み不可」なので、しっかりと復習を行い、内容の理解に努めてください。

学びの実践	評価
	①発表15%（受講者による相互評価） ②討論レポート15%（教員による評価） ③確認テスト20%（第5、9、15回の授業内） ④期末試験50%（授業で取り扱ったすべての範囲が対象。持ち込み不可）

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：経済原論Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅱ 次のステージ：応用マクロ経済学Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用ミクロ経済学Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	授業後に教室で受けます。それ以外は、研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 経済学は限られた資源（土地、労働力、設備やお金など）で財・サービスを生産し、それを分配し、消費して生活をするという人間の経済活動について研究します。ミクロ経済学は、売り手と買い手が市場の価格を通じて意志決定を行うという市場メカニズムについて取り上げます。講義では主に「家計の経済活動における意志決定」、「企業の経済活動における意志決定」を理解します。	メッセージ 家計や企業の経済活動は複雑に見えますが、経済学の基本概念を用いて家計や企業の行動原理を学習します。
	到達目標 ①家計の経済行動を説明する無差別曲線、予算線、効用最大化の基本概念を理解できる ②企業の経済行動を説明する生産関数、費用関数について学び、利潤最大の原理を理解できる ③消費者行動、企業行動の事例を基に経済現象の理解を深める	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ミクロ経済学とは	配布資料を復習する
	2	家計の経済活動：効用と選好	参考文献①P126-P144を読む
	3	無差別曲線の性質	参考文献①P126-P144を読む
	4	予算の制約	参考文献①P126-P144を読む
	5	価格と需要量の決定①	参考文献①P126-P144を読む
	6	価格と需要量の決定②	参考文献①P126-P144を読む
	7	所得変化・価格変化の効果	配布資料を読む
	8	講義の総括①	講義の復習
9	企業の生産活動について	参考文献①P148-P166を読む	
10	生産関数と費用曲線①	参考文献①P62-P85を読む	
11	生産関数と費用曲線②	参考文献①P62-P85を読む	
12	価格と産出量の決定①	参考文献①P176-P204を読む	
13	価格と産出量の決定②	参考文献①P176-P204を読む	
14	供給変化の効果①	配布資料を復習	
15	供給変化の効果②	配布資料を復習	
16	講義の総括②	講義の総復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は特に指定しません。参考文献は下記の通りです。 ①伊藤元重、『ミクロ経済学』日本評論社 ②ポールクルーグマン、ロビン・ウェル『ミクロ経済学』東洋経済 ③N・G・マンキュー著、足立ほか訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編』、東洋経済新報社		
	学びの手立て ①授業中の私語および携帯電話の使用はやめてください。 ②選択科目の「経済原論Ⅰ」「経済原論Ⅱ」、共通科目の「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」で経済学の基本的な考え方を学んでおいてください。また、新聞の経済欄などにも目を通して経済の実際を知ることも重要です。		
	評価 授業参加度30%、レポート提出20%、定期試験50%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 応用ミクロ経済学Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用ミクロ経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は、研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>応用ミクロ経済学Ⅰで学習した家計と企業の経済行動の知識を基に、市場の資源配分についてさらに学習します。まず、完全競争市場における資源配分の効率性についてふれ、次に独占市場や寡占市場、独占的競争市場について学びます。さらに、市場がうまく機能しない市場の失敗を取り上げ、不完全な情報の下では経済行動に問題が生じ、資源配分がうまくいかないことを学習します。</p>	<p>複雑そうに見える市場の働きを経済学の基本的考え方で説明します。ミクロ経済学を学習することにより、私たちが日常関わる市場や経済活動に理解が深められます。</p>
到達目標	<p>①市場について、完全競争、独占、寡占、独占的競争に類型して理解できる ②市場による資源配分は十分ではなく、「市場の失敗」が存在すること、その対応について理解できる ③市場における情報は不完全であり、これを補う家計や企業、市場の対応について理解する</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	応用ミクロ経済学Ⅱの概要説明	配布資料を復習する
	2	完全競争市場と資源配分①	参考文献①P88-P120を読む
	3	完全競争市場と資源配分②	参考文献①P88-P120を読む
	4	独占市場について①	参考文献①P234-254を読む
	5	独占市場について②	参考文献①P234-P254を読む
	6	寡占市場について①	参考文献②P438-P463を読む
	7	寡占市場について②	参考文献②P438-P463を読む
	8	独占的競争市場について①	参考文献②P470-P486を読む
	9	独占的競争市場について②	参考文献②P470-P486を読む
	10	市場の失敗①	参考文献①P292-P315を読む
	11	市場の失敗②	参考文献①P292-P315を読む
	12	不完全情報①	参考文献①P340-P361を読む
	13	不完全市場②	参考文献①P340-P361を読む
14	情報財の経済学①	参考文献②情報財の経済学を読む	
15	情報財の経済学②	参考文献②情報財の経済学を読む	
16	講義の総括	講義の総復習をする	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しません。参考文献を以下にあげます。 ①伊藤元重『ミクロ経済学』、日本評論社 ②ポールクルーグマン、ロビン・ウェルス『ミクロ経済学』東洋経済 ③マンキュー『ミクロ経済学』東洋経済新報社</p>		
実践	<p>学びの手立て</p> <p>①授業中の私語、携帯電話の使用はやめてください。 ②選択科目の「経済原論Ⅰ」「経済原論Ⅱ」、また共通科目の「経済学Ⅰ」「経済学Ⅱ」を履修して経済学の基本概念を学んでおいてください。また新聞の経済欄などにも目を通して、実際の経済状況を知ること重要で す。</p>		
実践	<p>評価</p> <p>授業参加度30%、レポート課題の提出20%、定期試験50%の割合で評価します。 試験は返却し、解説を行います。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>応用マクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅱ</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、企業の現状と課題を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄型企業戦略特別講義	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大森 洋介	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光に次ぐリーディング産業となったIT市場について、企業の戦略と最先端のテクノロジーを学習します。IT市場の求める人材像やスキルを講話から探り、地域振興の課題と可能性を捉えます。	グローバルにも通ずるIT市場のトレンドを学習することで、身の回りにおける変化を正確に把握できる人材を育成します。ITの魅力を一人でも多くの学生にお伝えし、産業人材育成に寄与します。 【実務経験】プロジェクトマネージャーとしての経験を生かし、企業戦略の重要性についても解説する。 ※受講対象：産業情報学科3年次
到達目標	デジタルマーケティングやITサービスなどテクノロジーを活用した社会の仕組みを理解し、施策を立案できるようになる事。ITスキルの重要性に気づき、さまざまな分野でIT技術を活かせる人材の育成。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	IT社会に関する調査
	2	IT社会の現状と今後	本時の内容整理/課題レポート作成
	3	IT企業戦略1	本時の内容整理/課題レポート作成
	4	IT企業戦略2	本時の内容整理/課題レポート作成
	5	IT企業戦略3	本時の内容整理/課題レポート作成
	6	マーケティングの変容理解	本時の内容整理/課題レポート作成
	7	ITを活用した社会と働き方1	本時の内容整理/課題レポート作成
8	ITを活用した社会と働き方2	本時の内容整理/課題レポート作成	
9	ITを活用した社会と働き方3	本時の内容整理/課題レポート作成	
10	今後起こりうる変化1	本時の内容整理/課題レポート作成	
11	今後起こりうる変化2	本時の内容整理/課題レポート作成	
12	今後起こりうる変化3	本時の内容整理/課題レポート作成	
13	求められるスキル2	本時の内容整理/課題レポート作成	
14	求められるスキル3	本時の内容整理/課題レポート作成	
15	試験・総括	本時の内容整理/課題レポート作成	
16			
テキスト・参考文献・資料など	各回の講義ごとに、講師から準備された資料が配布されます。また、この講義に関する参考書はありません。適宜指示します。		
学びの手立て	授業は、講義と対話/ケーススタディ等の組み合わせで構成されます。感じたことをその場でオープンに発言していただくことを期待しています。また、課題レポートの作成を通して、沖縄経済・人材育成についての課題を整理し、どのような取り組みが必要かの提案も考察すること。		
評価	課題レポート(40%)と試験(60%)の総得点で評価する。総得点の90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可とし、60%未満は不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして、卒業論文演習がある。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の航空事業と地域振興	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名 渡山 秋彦	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県における航空産業は地理的特性から今後の発展可能性が注目される中、観光客の入域が5年連続で記録更新し、国際航空貨物基地として国際物流の拠点づくりや、航空機整備事業の立ち上げなどを中心とした地域振興策が進捗しており、非常に重要な位置づけとなっている。航空産業の学びを通しグローバル・地域の視点で地方創生・地域の活性化を担う人材の育成を目指します。</p>	<p>航空産業の理解を深めつつ地方創生・地域の活性化を担う人材の育成をめざして、沖縄に在する日本トランスオーシャン航空にて航空産業の運営に携わってきた実務経験者が寄付講座として実施するものです。</p>
到達目標	<p>1) 航空産業の基礎的な知識を習得し理解できる (専門性) 2) 航空産業による地域振興をグローバル・地域の視点から捉えられる (地域・国際性) 3) 沖縄における航空による地域振興策や必要な課題を発見し、振興や課題解決に向けて提案をすることができる (コミュニケーション・スキル、問題解決力)</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、イントロダクション	
2	航空事業の現状	WEB公開の授業資料にて学習。	
3	沖縄における航空の現状と課題	WEB公開の授業資料にて学習。	
4	離島航空政策	WEB公開の授業資料にて学習。	
5	沖縄の空港事情	WEB公開の授業資料にて学習。	
6	沖縄の観光戦略	WEB公開の授業資料にて学習。	
7	沖縄の観光インフラ	WEB公開の授業資料にて学習。	
8	航空物流と沖縄	WEB公開の授業資料にて学習。	
9	運航のしくみ (JTA運航乗務員、運航管理者による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
10	航空の安全、保安、サービス (JTA客室乗務員による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
11	整備事業の展開 (JTA航空整備士による講義)	WEB公開の授業資料にて学習。	
12	那覇空港見学 (航空事業の現状把握)		
13	那覇空港見学 (航空事業の現状把握)		
14	うちなへの翼・JTAの経営戦略	WEB公開の授業資料にて学習。	
15	まとめ	WEB公開の授業資料にて学習。	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回、パワーポイント資料による講座を進行する。学生がインターネットにより閲覧可能な様にし、振り返りが行える様にする。 日本トランスオーシャン航空 (JTA) ホームページ <a href="https://jta-okinawa.com/">https://jta-okinawa.com/</a> 琉球エアークommunicuter (RAC) ホームページ <a href="http://www.churashima.net/rac/index.html">http://www.churashima.net/rac/index.html</a> その他、必要に応じて紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>①授業中の私語、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②講義で使用する授業資料等はWebで共有するので、予習・復習に活用して下さい。</p>		
評価	<p>「評価方法・割合」 「期末試験35%、レポート60% (12回)、那覇空港見学レポート5%」 ※ただし、6回以上欠席した者は試験を受けることはできません。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (関連科目) グローバル観光ビジネス、観光マーケティング
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境資源経済論 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	3年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域における産業経済活動と環境資源問題との相互関係について理解を深め、環境資源経済分析に関わる理論的・実践的知識を学ぶ。	メッセージ 現代社会における重要な課題である環境資源問題の実状、環境政策、環境の価値評価などについて、関心のある学生を歓迎し、共に考えよう。
	到達目標 ①環境資源問題の実状について理解を深める。 ②環境資源問題と経済発展との関係、代表的な環境政策の基礎的理論、環境資源評価の基礎的理論を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	環境資源問題の諸相	当日内容の復習
	3	経済発展と環境資源問題	当日内容の復習
	4	環境資源と経済	当日内容の復習
	5	市場の機能	当日内容の復習
	6	市場の失敗	当日内容の復習
	7	環境政策の原則と手段	当日内容の復習
	8	前半内容の課題演習	前半内容の復習
	9	中間まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検
	10	コマンド・アンド・コントロール戦略：環境基準	当日内容の復習
	11	誘因に依拠する政策戦略：排出課徴金と補助金	当日内容の復習
	12	誘因に依拠する政策戦略：排出権	当日内容の復習
	13	環境資源評価の経済理論	当日内容の復習
	14	環境資源価値の評価方法	当日内容の復習
	15	後半内容の課題演習	後半内容の復習
	16	期末テスト	期末テスト結果の点検
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材や資料はプリントまたはPDFファイルで配布する。		
	学びの手立て ①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②PC教室で講義を行うため、講義中に講義内容と無関係なこと（スマートフォンの操作、講義内容と無関係なサイトの閲覧など）を行った場合は減点となる。		
	評価 平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境資源経済論Ⅱ、専門演習ⅠⅡ、卒業論文演習ⅠⅡ
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境資源経済論Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	3年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域における産業経済活動と環境資源問題との相互関係について理解を深め、環境資源経済分析に関わる理論的・実践的知識を学ぶ。具体的に前半では、地域環境資源問題および地域環境資源の利用と保全に関わる基礎的内容について理解を深め、後半では地域活性化を図る地域資源や地域環境の活用について理論的・実践的に学ぶ。	観光資源、観光経済および地域発展戦略などに関心のある学生を歓迎し、共に考えよう。
	到達目標	
	①環境資源問題に関する基礎的理論の習得。 ②地域資源や地域環境を活用した地域活性化の方策について理解を深める。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	環境資源問題とは	
	2	資源問題と資源経済学	当日内容の復習
	3	資源問題の展開とその根源	当日内容の復習
	4	資源問題の基本概念（1）	当日内容の復習
	5	資源問題の基本概念（2）	当日内容の復習
	6	再生可能資源の経済学	当日内容の復習
	7	枯渇生資源の経済学	当日内容の復習
	8	前半内容の課題演習	前半内容の復習
	9	中間まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検
	10	地域資源の特性と活用	当日内容の復習
	11	地域資源の再評価	当日内容の復習
	12	観光資源の開発と活用	当日内容の復習
	13	観光資源の評価（1）	当日内容の復習
14	観光資源の評価（2）	当日内容の復習	
15	後半内容の課題演習	後半内容の復習	
16	期末テスト	期末テスト結果の点検	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材や資料はプリントまたはPDFファイルで配布する。		
	学びの手立て ①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②PC教室で講義を行うため、講義中に講義内容と無関係なこと（スマートフォンの操作、講義内容と無関係なサイトの閲覧など）を行った場合は減点となる。		
	評価 平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境資源経済論Ⅰ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業情報論 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ITの急速な発展を背景として、企業におけるIT活用的高度化はとどまることを知りません。次々と出現する技術あるいはコンセプトにより、この傾向はさらに加速度的に進行するものと思われます。本講義では、企業経営におけるITの役割に着目し、その段階的な進歩過程と各フェイズにおける企業サイドからのITへの期待の変容などを論理的に考察しながらより定性的な理解を目指します。	情報技術の基本的な理解の上に、企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。 【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、企業における実務レベルの問題解決をIT活用の面から解説・講義する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。</li> <li>② 情報通信技術そして情報システムが企業経営に与える影響を理解する。</li> <li>③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。</li> <li>④ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	情報の特質と価値	ガイダンスの理解
2	情報技術の進化	当該講義の復習/次回講義の予習	
3	通信ネットワーク技術の進化	配布資料の熟読	
4	セキュリティシステムと暗号化技術	当該講義の復習/次回講義の予習	
5	インターネットと企業	配布資料の熟読	
6	ケーススタディー (1): 情報化の歴史	類似事例の検索	
7	情報の産業化: 情報産業の発展	当該講義の復習/次回講義の予習	
8	企業の情報化: 企業における情報技術の活用	配布資料の熟読	
9	情報技術と競争優位の戦略①	当該講義の復習/次回講義の予習	
10	情報技術と競争優位の戦略②	配布資料の熟読	
11	知的財産権と競争優位	当該講義の復習/次回講義の予習	
12	ケーススタディー (2): 特許権と競争優位	類似事例の検索	
13	ケーススタディー (3): 著作権と競争優位	類似事例の検索	
14	デファクト・スタンダードと競争優位	当該講義の復習/次回講義の予習	
15	ケーススタディー (4): デファクト・スタンダード	類似事例の検索	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。</p>		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。</li> <li>② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。</li> <li>③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。</li> <li>④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解決してください。</li> </ol>		
評価	<p>成績評価については、学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題レポート(20%)、学期末試験(60%)の総合評価とします。 また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいと思います。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本講義において習得した、情報技術そして企業における活用といった基本的理解の展開として、続く「企業情報論II」の受講を推奨します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業情報論Ⅱ	後期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ITの発展は企業の高度情報化を促し、その構造を根本的に変革する重要なファクターとなっている。本講義では、企業情報論Ⅰで取り上げた企業と情報技術の多層的な関係を十分に理解したとの前提に基づき、企業における情報システムのマネジメントに着目しながら、様々なビジネスモデルにおける競争戦略上の優位性について解説する。また近年注目されているCGMなどについても取り上げる。</p> <p>到達目標</p> <p>① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。                  ② 情報通信技術そして情報システムが企業経営に与える影響を理解する。                  ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。                  ④ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。</p>	<p>情報技術の基本的な理解の上に、企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。                  【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、企業における実務レベルの問題解決をIT活用の面から解説・講義する。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																			
	<p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経営情報システムの進化</td> <td>ガイダンスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報システムマネジメントの原理①</td> <td>当該講義の復習/次回講義の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>情報システムマネジメントの原理②</td> <td>配布資料の熟読</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>情報システムのマネジメントモデル</td> <td>当該講義の復習/次回講義の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ITマネジメントとアウトソーシング</td> <td>配布資料の熟読</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>通信ネットワークを活用したアウトソーシング</td> <td>当該講義の復習/次回講義の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ケーススタディ(1): アウトソーシング</td> <td>類似事例の検索</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中小企業の情報システム</td> <td>当該講義の復習/次回講義の予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ECの現状</td> <td>配布資料の熟読</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ケーススタディ(2): EC向けASP</td> <td>類似事例の検索</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ECにおける法的課題</td> <td>当該講義の復習/次回講義の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ビジネスモデル特許</td> <td>配布資料の熟読</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>遠隔地域における情報技術の戦略的活用</td> <td>当該講義の復習/次回講義の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ロジスティックシステムとSCM</td> <td>配布資料の熟読</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ケーススタディ(3): 物流の情報化</td> <td>類似事例の検索</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	経営情報システムの進化	ガイダンスの理解	2	情報システムマネジメントの原理①	当該講義の復習/次回講義の予習	3	情報システムマネジメントの原理②	配布資料の熟読	4	情報システムのマネジメントモデル	当該講義の復習/次回講義の予習	5	ITマネジメントとアウトソーシング	配布資料の熟読	6	通信ネットワークを活用したアウトソーシング	当該講義の復習/次回講義の予習	7	ケーススタディ(1): アウトソーシング	類似事例の検索	8	中小企業の情報システム	当該講義の復習/次回講義の予習	9	ECの現状	配布資料の熟読	10	ケーススタディ(2): EC向けASP	類似事例の検索	11	ECにおける法的課題	当該講義の復習/次回講義の予習	12	ビジネスモデル特許	配布資料の熟読	13	遠隔地域における情報技術の戦略的活用	当該講義の復習/次回講義の予習	14	ロジスティックシステムとSCM	配布資料の熟読	15	ケーススタディ(3): 物流の情報化	類似事例の検索	16	期末試験	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	経営情報システムの進化	ガイダンスの理解																																																	
2	情報システムマネジメントの原理①	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
3	情報システムマネジメントの原理②	配布資料の熟読																																																		
4	情報システムのマネジメントモデル	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
5	ITマネジメントとアウトソーシング	配布資料の熟読																																																		
6	通信ネットワークを活用したアウトソーシング	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
7	ケーススタディ(1): アウトソーシング	類似事例の検索																																																		
8	中小企業の情報システム	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
9	ECの現状	配布資料の熟読																																																		
10	ケーススタディ(2): EC向けASP	類似事例の検索																																																		
11	ECにおける法的課題	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
12	ビジネスモデル特許	配布資料の熟読																																																		
13	遠隔地域における情報技術の戦略的活用	当該講義の復習/次回講義の予習																																																		
14	ロジスティックシステムとSCM	配布資料の熟読																																																		
15	ケーススタディ(3): 物流の情報化	類似事例の検索																																																		
16	期末試験																																																			
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。</p>																																																				
<p>学びの手立て</p> <p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。                  ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。                  ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。                  ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解決してください。</p>																																																				
<p>評価</p> <p>成績評価については、学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題レポート(20%)、学期末試験(60%)の総合評価とします。                  また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいと思います。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義において習得した、情報技術そして企業における活用といった基本的理解の展開として、続く「卒業論文演習Ⅰ」そして「卒業論文演習Ⅱ」における卒業論文の作成に役立ててもらえればと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。特に、プログラミングの基礎である逐次、分岐、反復について学ぶ。	メッセージ スクラッチのブロックプログラミングを通して論理力を身につけ、さらに簡単なJavaプログラムでコードプログラミングを通して、プログラミングを体感してほしい。
	到達目標 1. スクラッチによるプログラミングができる。 2. スクラッチによる簡単なシステムの企画・開発ができる。 3. 簡単なJavaプログラミングができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	スクラッチとは	ガイダンス
	2	イベントドリブン・プログラミングとフロードリブン・プログラミング	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	プログラムとアルゴリズム	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	スクラッチの基本操作（1）スプライトの動き	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	スクラッチの基本操作（2-1）制御命令（順次、分岐、反復）	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	スクラッチの基本操作（2-2）制御命令（順次、分岐、反復）	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	スクラッチの基本操作（2-3）制御命令（順次、分岐、反復）	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	スクラッチの基本操作（3）サウンド制御	当該演習の復習/次回演習の予習
学びの実践	9	スクラッチの最終課題提出	課題提出
	10	ゲームの作成（1）基本システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	ゲームの作成（2）応用システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	Javaプログラミングについて（プログラム、コンパイル、実行）	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	制御命令（順次）のプログラミング	当該演習の復習/次回演習の予習
	14	制御命令（分岐）のプログラミング	当該演習の復習/次回演習の予習
	15	制御命令（反復）のプログラミング	当該演習の復習/次回演習の予習
	16	Javaの最終課題提出	課題提出
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回、授業の内容のパワーポイントをポータルにアップロードします。それが、テキストとなります。それに加えて、画像・動画の提示して、授業を進めます。 参考文献 ・杉浦学, 阿部和広「Scratchではじめよう! プログラミング入門」日経BP社 (2015) ・中植正剛, 太田和志, 鴨谷真知子「Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本」日経BP社 (2015)		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則。 ・パソコン教室での実習形式の講義。 ・学生は、学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。 ・この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため注意が必要である。		
学びの実践	評価 課題提出：100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎、専門演習 I、専門演習 II、卒業論文演習 I、卒業論文演習 II。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報技術者にとって必須である問題解決能力（基礎）の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。</p>	<p>基本的に演習開始前にグループごとで30秒プレゼンテーションを行います。Scratchのアカウントを作成してもらうので積極的に作品を公開して欲しい。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。</li> <li>スクラッチによるプログラミングができる。</li> <li>簡単なシステムの企画・開発ができる。</li> <li>自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。</li> </ol>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	図書館ガイダンス	課題提出
	5	スクラッチの基本操作(1)スプライトの動き	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	スクラッチの基本操作(2)制御命令	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	スクラッチの基本操作(3)サウンド制御	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	スクラッチの基本操作(4)見た目の制御	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	スクラッチの基本操作(5)条件分岐	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	シューティングゲームの作成(1)基本システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	シューティングゲームの作成(2)総合システムの構築	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	シューティングゲームの作成(3)システムの拡張	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	個人製作によるゲームの企画	ゲームの企画・開発
	14	個人製作によるゲームの開発	ゲームの企画・開発
15	最終発表会 (第1グループ)	発表準備・相互評価	
16	最終発表会 (第2グループ)	発表準備・相互評価	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石原正雄「スクラッチ2.0アイデアブック」カットシステム (2014)</li> <li>ミッチェル・レズニックほか「ライフロング・キンダーガーデン 創造的思考力を育む4つの原則」日経BP社 (2018)</li> <li>杉浦学ほか「Scratchではじめよう! プログラミング入門」日経BP社 (2015)</li> <li>中植正剛ほか「Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本」日経BP社 (2015)</li> </ul>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とします。</li> <li>実習を含む講義内容であるため、パソコン教室での講義となる。</li> <li>学籍番号毎にクラスが割り当てられているため、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めません。</li> <li>本演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要です。</li> </ul>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点（10%）、通常課題（40%）、最終課題（50%）に基づく総合評価とします。 さらに総得点の90%以上を「秀」、80%以上を「優」、70%以上を「良」、60%以上を「可」とします。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習の後、後期の「基礎演習Ⅱ」にて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の「専門演習基礎」に臨むこととなります。またその後も必修科目となる「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「卒業論文演習Ⅰ」、「卒業論文演習Ⅱ」へと関係するため、誠心誠意取り組んでもらいたいと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。	メッセージ 基本的に演習開始前にグループごとで30秒プレゼンテーションを行います。 Scratchのアカウントを作成してもらうので積極的に作品を公開して欲しい。
	到達目標 1. アクティビティ図が作成・理解できる。 2. スクラッチによるプログラミングができる。 3. 簡単なシステムの企画・開発ができる。 4. 自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	Scratchの基本操作・30秒プレゼンテーションとは	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	UML入門：アクティビティ図	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	図書館ガイダンス	課題提出
	5	スクラッチの基本操作：メッセージ	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	スクラッチの基本操作：変数・配列	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	スクラッチの基本操作：条件分岐・繰り返し	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	スクラッチの基本操作：関数	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	アルゴリズム：探索	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	アルゴリズム：基本的なソート	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	アルゴリズム：アルゴリズムの評価	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	スクラッチの操作（発展）：クローン	当該演習の復習/ゲームの企画
	13	個人製作によるゲームの企画	ゲームの企画・開発
	14	個人製作によるゲームの開発	ゲームの企画・開発
15	最終発表会（第1グループ）	発表準備・相互評価	
16	最終発表会（第2グループ）	発表準備・相互評価	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：中植正剛，太田和志，鴨谷真知子「Scratchで学ぶプログラミングとアルゴリズムの基本」日経BP社（2015） 参考文献 ・杉浦学，阿部和広「Scratchではじめよう！プログラミング入門」日経BP社（2015） ・石原淳也，阿部和広「Scratchで楽しく学ぶ アート&サイエンス」日経BP（2018）		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。） ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通告する。 ・学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。 ・この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。		
	評価 評価は最終成果物の完成度（60%）、演習時の課題（30%）、学生相互評価（10%）の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習の後は、後期の基礎演習Ⅱにて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習Ⅰ，専門演習Ⅱ，卒業論文演習Ⅰ，卒業論文演習Ⅱへと連続するため、誠心誠意に取り組むこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報技術者にとって必須である問題解決能力（基礎）の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1 年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報社会において求められる、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを完遂する実行力などを含めた総合的な能力である問題解決能力の基礎を、プログラミングを通して身に付ける。	プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することから始まります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図) が作成・理解できる。</li> <li>認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>スクラッチによるプログラミングができる。</li> <li>ミニゲームの企画・開発ができる。</li> <li>自身が作成した作品のプレゼンテーションができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・スクラッチとは	ガイダンスの理解
	2	プログラムとアルゴリズム	配布資料の理解・課題の提出
	3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)	配布資料の理解・課題の提出
	4	スクラッチの基本操作 (1) スプライトの動き	教科書の理解・課題の提出
	5	スクラッチの基本操作 (2) 制御命令	教科書の理解・課題の提出
	6	スクラッチの基本操作 (3) サウンド制御	教科書の理解・課題の提出
	7	スクラッチの基本操作 (4) 見た目の制御	教科書の理解・課題の提出
	8	スクラッチの基本操作 (5) 条件分岐	教科書の理解・課題の提出
	9	シューティングゲームの作成 (1)	教科書の理解・課題の提出
	10	シューティングゲームの作成 (2)	教科書の理解・課題の提出
	11	シューティングゲームの作成 (3)	教科書の理解・課題の提出
	12	個人製作によるゲームの企画・開発 (1)	教科書の理解・課題の提出
	13	個人製作によるゲームの企画・開発 (2)	教科書の理解・課題の提出
	14	最終発表会 (1)	教科書の理解・課題の提出
15	最終発表会 (2)	教科書の理解・課題の提出	
16	総括		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義時に指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中植正剛、太田和志、鴨谷真知子「Scratchで学ぶプログラミングとアルゴリズムの基本」日経BP社</li> <li>・石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム</li> <li>・阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社</li> </ul>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や欠席の多い者は、講義途中で不可を通達する。</li> <li>・学籍番号毎にクラスが割り当てられており、それ以外のクラスでの受講は基本的に認めない。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、2年次の専門演習基礎(必修科目)が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。</li> </ul>
--------	---

評価	平常点 (20%) 及び講義内での通常課題 (30%)、最終課題 (50%) を総合的に評価する。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習の後は、後期の基礎演習 II にて経済系の基礎を学び、それらの単位取得を以て2年次の専門演習基礎に臨むことになる。その後は必須科目である、専門演習 I、専門演習 II、卒業論文演習 I、卒業論文演習 II へと連続するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 基本的な情報収集力、分析力を養い、自己の見解を論理的にまとめ  
て話す能力を身につけます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	1年	授業終了後に受け付けます。それ以外は、研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習の目的は、今後の学習の基本となる情報収集・分析力を養い、レポートや論文の作成、プレゼンテーションの能力を高めることです。演習では、沖縄県に関連する身近な経済統計データを基に情報の整理、分析について学びます。次に報告レポートを作成を通じて、自らの見解を論理的にまとめ、プレゼンテーションを通じて報告能力を高めます。	演習で情報収集力、分析力、論理的にまとめる能力、報告する能力を高めることが、今後の学習の基本になります。

到達目標
①主にインターネットを用いて、信頼のある情報を収集し、分析する力をつけます。
②レポートの作成を通じて、自らの見解を論理的にまとめる力をつけます。
③レポートの報告を通じて、自らの見解を論理的に話す力をつけます。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	基礎演習Ⅱの基本事項	
	2	インターネットを通じた情報収集①	政府・研究機関HPからの情報収集
	3	インターネットを通じた情報収集②	政府・研究機関HPからの情報収集
	4	経済統計データの分析① (GDP、人口統計データ)	基本概念の復習
	5	経済統計データの分析② (産業別総生産、観光産業関連データ)	基本概念の復習
	6	経済統計データの分析③ (県民所得、市町村民所得関連データ)	基本概念の復習
	7	経済統計データの分析④ (変動係数、ローレンツ曲線と所得格差の状況)	基本概念の復習
	8	経済統計データの分析⑤ (記述統計など)	基本概念の復習
	9	レポート作成の基本① (レポートの形式について)	参考文献等を読み基本事項学習
	10	レポート作成の基本② (テーマ設定と論理構成)	参考文献等を読み基本事項学習
	11	レポート作成①	レポートの執筆
	12	レポート作成②	レポートの執筆
	13	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの準備
	14	プレゼンテーション①	資料の作成と報告
15	プレゼンテーション②	資料の作成と報告	
16	プレゼンテーション③と総括	資料の作成と報告	

テキスト・参考文献・資料など
テキストは特に指定しません。以下の参考文献などを読んでレポート作成の基本を確認してください。
①『大学生のためのレポート論術』小笠原喜康、講談社現代新書
②『経済論文の作法』、小浜裕久・木村福成、日本評論社

学びの手立て
①クラス分けがありますので、指定されたクラスで受講して下さい。
②演習中の私語、演習に関係のないHPの閲覧、携帯電話の使用はやめて下さい。

評価
授業参加度 (30%)、課題の提出 (20%)、レポートの作成 (30%)、プレゼンテーション(20%) で評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目 (上位科目) ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	1年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代社会における経済統計情報を基に情報の収集、統計データの基本的な分析およびプレゼンテーションについて学ぶ。	メッセージ 現代社会においては、問題発見力、情報収集力、分析力などが求められています。基礎演習Ⅱでは、これらに関する基礎をしっかりと学んでください。
	到達目標 ①Wordによる文書作成、Excelによるデータ処理およびPowerPointによるプレゼンテーション原稿作成の基本技法の習得。 ②主にインターネットを用いて政府公表の情報や統計データを収集する技能の習得。 ③現代社会における経済産業に関わる基本概念の理解。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	Wordによる文書作成の応用演習
	3	Excelによる関数の応用演習（1）
	4	Excelによる関数の応用演習（2）
	5	人口に関する統計情報収集とデータ処理演習
	6	労働に関する統計情報収集とデータ処理演習
	7	物価に関する統計情報収集とデータ処理演習
	8	景気に関する統計情報収集とデータ処理演習
9	企業に関する統計情報収集とデータ処理演習	
10	家計に関する統計情報収集とデータ処理演習	
11	財政金融に関する統計情報収集とデータ処理演習	
12	国民経済に関する統計情報収集とデータ処理演習	
13	国際経済に関する統計情報収集とデータ処理演習	
14	プレゼンテーションの基本（1）	
15	プレゼンテーションの基本（2）	
16	総括	
		時間外学習の内容
		Wordの操作テクニックの練習
		Excelの操作テクニックの練習
		Excelの操作テクニックの練習
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		基本概念の理解、データ処理
		プレゼンテーション原稿作成
		プレゼンテーション原稿作成
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材プリントやPDFファイルを配布する。	
	学びの手立て ①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。 ②やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容を時間外で学習し、不明な点は質問する。 ③演習中に講義と関係ないこと（スマートフォンの操作、講義内容と無関係のサイトの閲覧など）を行った場合は減点となる。	
	評価 平常点（60％）、レポートの報告・提出（40％）。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎、ビジネス情報分析ⅠⅡ
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	1年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この授業は、Excelを用いたデータの分析方法を学び、既存の統計データや自ら収集した一次データの分析が行えるようになることを目的とします。授業のねらいは、専門演習基礎、専門演習、卒業論文演習において不可欠となる分析手法を体得することであり、そのために、徹底した反復練習を重視します。	メッセージ Excelを用いたデータ分析の方法は多様ですが、その中から基本的な経済指標を分析するための方法を選定し、分析や図式化ができるようになることを目指します。この授業で取り扱う分析手法は卒業研究を進める上で不可欠となるため、それぞれの手法の使い方や図式化の方法を丸暗記するのではなく、「なぜそうする必要があるのか」までを理解してください。
	到達目標 ①経済分析に必要なとなる基礎的な用語を理解し、説明することができる（筆記試験で評価） ②基礎的な分析手法を用いて統計データの分析と図式化を行うことができる（実技試験で評価）	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／基礎演習Ⅱと卒業研究の関連について	授業内容の復習をしておく
	2	Wordの復習：文書作成	授業内容の復習をしておく
	3	Excelの復習①：時系列データの分析	ディスカッション①準備をしておく
	4	Excelの復習②：横断面データの分析	授業内容の復習をしておく
	5	Excelの復習③：絶対参照を用いた計算	授業内容の復習をしておく
	6	年平均成長率の概念と算出方法	授業内容の復習をしておく
	7	ヒストグラムの概念と作成方法	ディスカッション②準備をしておく
	8	寄与度と寄与率	授業内容の復習をしておく
	9	名目GDPと実質GDPの違いと算出方法	授業内容の復習をしておく
	10	相関係数の概念と導出方法	授業内容の復習をしておく
	11	相関係数の演習	ディスカッション③準備をしておく
	12	回帰分析の概念と分析方法	授業内容の復習をしておく
	13	回帰分析の演習	授業内容の復習をしておく
	14	用語の復習／筆記試験と解説	授業内容の復習をしておく
	15	総括／実技試験と解説	定期試験に向けた復習をしておく
	16		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。		
	学びの手立て ●各回の授業構成は、教員による説明と受講者による課題作成（演習）です。毎回作成した課題を提出してもらい、それを評価するため、遅刻や欠席によって課題を作成することができないと、成績の評価が下がることに留意してください。 ●知識と技能の定着については、筆記試験と実技試験で確認します。 ●また、課題作成が授業の中心となるため、他事や私語などによって他者の作業の妨げとなるような行為を繰り返す場合は、相応の減点を行います。自分の課題が早く完成した人は、まだできていない人のサポートを行ってください。		
	評価 ①提出課題50%（教員による評価） ②筆記試験25%（教員による評価） ③実技試験25%（教員による評価）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：産業情報分析Ⅰ・Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ 次のステージ：専門演習基礎
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	1年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業は、Excelを用いたデータの分析方法を学び、既存の統計データや自ら収集した一次データの分析が行えるようになることを目的とします。授業のねらいは、専門演習基礎、専門演習、卒業論文演習において不可欠となる分析手法を体得することであり、そのために、徹底した反復練習を重視します。	Excelを用いたデータ分析の方法は多様ですが、その中から基本的な経済指標を分析するための方法を選定し、分析や図式化ができるようになることを目指します。この授業で取り扱う分析手法は卒業研究を進める上で不可欠となるため、それぞれの手法の使い方や図式化の方法を丸暗記するのではなく、「なぜそうする必要があるのでか」までを理解してください。
到達目標	①経済分析に必要なとなる基礎的な用語を理解し、説明することができる（筆記試験で評価） ②基礎的な分析手法を用いて統計データの分析と図式化を行うことができる（実技試験で評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／基礎演習Ⅱと卒業研究の関連について	授業内容の復習をしておく
	2	Wordの復習：文書作成	授業内容の復習をしておく
	3	Excelの復習①：時系列データの分析	ディスカッション①準備をしておく
	4	Excelの復習②：横断面データの分析	授業内容の復習をしておく
	5	Excelの復習③：絶対参照を用いた計算	授業内容の復習をしておく
	6	年平均成長率の概念と算出方法	授業内容の復習をしておく
	7	ヒストグラムの概念と作成方法	ディスカッション②準備をしておく
8	寄与度と寄与率	授業内容の復習をしておく	
9	名目GDPと実質GDPの違いと算出方法	授業内容の復習をしておく	
10	相関係数の概念と導出方法	授業内容の復習をしておく	
11	相関係数の演習	ディスカッション③準備をしておく	
12	回帰分析の概念と分析方法	授業内容の復習をしておく	
13	回帰分析の演習	授業内容の復習をしておく	
14	用語の復習／筆記試験と解説	授業内容の復習をしておく	
15	総括／実技試験と解説	定期試験に向けた復習をしておく	
16			
テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。		
学びの手立て	●各回の授業構成は、教員による説明と受講者による課題作成（演習）です。毎回作成した課題を提出してもらい、それを評価するため、遅刻や欠席によって課題を作成することができないと、成績の評価が下がることに留意してください。 ●知識と技能の定着については、筆記試験と実技試験で確認します。 ●また、課題作成が授業の中心となるため、他事や私語などによって他者の作業の妨げとなるような行為を繰り返す場合は、相応の減点を行います。自分の課題が早く完成した人は、まだできていない人のサポートを行ってください。		
評価	①提出課題50%（教員による評価） ②筆記試験25%（教員による評価） ③実技試験25%（教員による評価）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：産業情報分析Ⅰ・Ⅱ、データ解析論Ⅰ・Ⅱ 次のステージ：専門演習基礎
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎数学	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 秀樹	1年	授業終了後に教室で、または、電子メール(p.tt1073@okiu.ac.jp)でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい 情報とは「ある事柄についてのしらせ」であり、物事の判断や行動を起こすきっかけとなる知識と捉えることができる。情報科学の分野ではこれらをデータと呼び、データにいくつかの処理を施すことでより価値のある新しいデータ(情報)を作り出すことを情報処理という。本講義では情報処理に必要な基本的な知識を学ぶ。	メッセージ 本講義では、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかをわかりやすく解説するよう努めます。練習問題を解く時間を設け、なるべく多くの問題に触れることで、数学的センスを身につけられるよう配慮します。
	到達目標 専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	
	2	式と計算(i)	講義の復習および課題演習
	3	式と計算(ii)	講義の復習および課題演習
	4	関数(i)	講義の復習および課題演習
	5	関数(ii)	講義の復習および課題演習
	6	平面図形と式(i)	講義の復習および課題演習
	7	平面図形と式(ii)	講義の復習および課題演習
	8	方程式と不等式(i)	講義の復習および課題演習
9	方程式と不等式(ii)	講義の復習および課題演習	
10	方程式と不等式(iii)	講義の復習および課題演習	
11	順列と組合せ(i)	講義の復習および課題演習	
12	順列と組合せ(ii)	講義の復習および課題演習	
13	確率(i)	講義の復習および課題演習	
14	確率(ii)	講義の復習および課題演習	
15	確率(iii)	講義の復習	
16	試験・総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：未定(第一回目の講義で周知します) 参考資料： ・石村園子「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」共立出版 ・情報処理教育研究会「情報数学の基礎」日本理工出版会 ・小堆光喜「情報処理数学 60DAYS」実教出版		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験結果(80%)、課題レポート(20%)により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「情報数学」および「経済数学」がある。また、情報処理に関連する講義科目が関連科目となる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 経済に関する問題発見力・分析力を養うための専門科目を提供します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	金融経済論	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 学習内容が、普段の生活の何処のことかを常にイメージして受講する。 「貯める」立場、「借りる」立場から金融を考える。 経済学を使って金融を考える。	メッセージ 金融は「貯める・借りる」に関わる世の中の仕組みの事です。 「普段の生活に役立つ知識」としての金融論を身につけて下さい。
	到達目標 金融政策について理解し、自分の言葉で説明できる。 金融システムについて理解し、自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく。
	2	貨幣と決済	貨幣の機能と定義を復習する。
	3	金利と金融市場①	金利の重要概念を復習する。
	4	金利と金融市場②	金利と債券価格を復習する。
	5	金融政策とマクロ経済学①	IS-LMモデルを復習する。
	6	金融政策とマクロ経済学②	金融政策の有効性を復習する。
	7	日本銀行の金融政策	日本の金融政策の実際を復習する。
	8	非伝統的金融政策	非伝統的金融政策を復習する。
9	学習内容の復習1	第2～8回の練習問題	
10	金融システムの機能と銀行①	金融システムの機能を復習する。	
11	金融システムの機能と銀行②	信用創造と銀行の役割を復習する。	
12	様々な金融機関	諸金融機関を復習する。	
13	金融システム安定化政策	プルーデンス政策を復習する。	
14	金融機関の破綻と対応策	事後的政策手段を復習する。	
15	学習内容の復習2	第10～14回の練習問題	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用しない。資料を配布して解説する。 参考文献 [1]家森信善『金融論』中央経済社、2016年。 [2]島村高嘉・中島真志『金融読本 第30版』東洋経済新報社、2017年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。		
学びの手立て	①履修の心構え：欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。講義中のスマートフォンの操作は減点とする。配布資料の内容を理解するための解説を行う。講義中は集中して説明を聞くこと。 ②学びを深めるために：講義中に記述した講義ノートを、記述だけで止めず、講義外の時間に読んでみる。専門用語が多い配布資料の内容を、どのように学べばよいか説明している。課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。		
評価	期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：経済学を使って金融政策・金融システムを説明できるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済論が、「貯める・借りる」世の中の仕組みを説明する経済学の一分野であることを覚えておいてもらいたい。 関連科目として、「国際金融論」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 「産業社会における情報化や国際化の進展」に対応できる英語力とコミュニケーション力を身につけることを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 グローバルオフィスコミュニケーション	期別 後期	曜日・時限 水2	単位 2
	担当者 上原 千登勢	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい コミュニケーション力を重視しながら様々なビジネスシーンやシチュエーションに対応できる英語力を身につけることをねらいとする。またビジネスマナー、外国人対応、異文化の知識と理解を深めることを目指す。	メッセージ 【実務経験】外資・グローバル企業での英語講師経験を活かし、ビジネスに関連した実践的な英語を学び、使えるようになることを目指します。できる限り“ENGLISH ONLY”の時間帯を設けるので出来る限り英語だけで意思の疎通を試みてください！きっと自信と英語でコミュニケーションをとる楽しさが実感できると思います！
	到達目標 ・ビジネス・オフィスを想定したシチュエーションで、英語でコミュニケーションが取れる。 ・英語を使わなければならない場面で自分なりに考え、行動できる。 ・英語で意思の疎通を図るために必要な学習方法や手段が身につく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Orientation &amp; Guidance Unit 1&amp;2</td><td>Unit 1&amp;2復習、Unit 3-6予習</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 3-6</td><td>Unit 3-6復習、Unit 7-10予習</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 7-10</td><td>Unit 7-10復習、Unit 11-13予習</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 11-13</td><td>Unit 11-13復習、Unit 14-16予習</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 14-16</td><td>Unit 14-16復習、Unit 17-19予習</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 17-19</td><td>Unit17-19復習、Unit20, 22, 23予習</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 20, 22, 23</td><td>Unit 20, 22-23復習、Unit 24-25, 44</td></tr> <tr><td>8</td><td>Unit 24-25, 44</td><td>Unit24-25, 44復習、Unit27, 29-31</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 27, 29-31</td><td>Unit27, 29-31復習、Unit32-34予習</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 32-34</td><td>Unit 32-34復習、Unit 35-38予習</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 35-38</td><td>Unit 35-38復習、Unit 38-41予習</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 39-41</td><td>Unit 39-41復習、Unit 42, 43予習</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 42, 43</td><td>Unit 42. 43 復習、Unit 45-47予習</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 45-47</td><td>Unit 45-47 復習、Unit 28予習</td></tr> <tr><td>15</td><td>Unit 28</td><td>Unit 28復習、Presentation準備</td></tr> <tr><td>16</td><td>Final Presentation</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	Orientation & Guidance Unit 1&2	Unit 1&2復習、Unit 3-6予習	2	Unit 3-6	Unit 3-6復習、Unit 7-10予習	3	Unit 7-10	Unit 7-10復習、Unit 11-13予習	4	Unit 11-13	Unit 11-13復習、Unit 14-16予習	5	Unit 14-16	Unit 14-16復習、Unit 17-19予習	6	Unit 17-19	Unit17-19復習、Unit20, 22, 23予習	7	Unit 20, 22, 23	Unit 20, 22-23復習、Unit 24-25, 44	8	Unit 24-25, 44	Unit24-25, 44復習、Unit27, 29-31	9	Unit 27, 29-31	Unit27, 29-31復習、Unit32-34予習	10	Unit 32-34	Unit 32-34復習、Unit 35-38予習	11	Unit 35-38	Unit 35-38復習、Unit 38-41予習	12	Unit 39-41	Unit 39-41復習、Unit 42, 43予習	13	Unit 42, 43	Unit 42. 43 復習、Unit 45-47予習	14	Unit 45-47	Unit 45-47 復習、Unit 28予習	15	Unit 28	Unit 28復習、Presentation準備	16	Final Presentation	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
1	Orientation & Guidance Unit 1&2	Unit 1&2復習、Unit 3-6予習																																																		
2	Unit 3-6	Unit 3-6復習、Unit 7-10予習																																																		
3	Unit 7-10	Unit 7-10復習、Unit 11-13予習																																																		
4	Unit 11-13	Unit 11-13復習、Unit 14-16予習																																																		
5	Unit 14-16	Unit 14-16復習、Unit 17-19予習																																																		
6	Unit 17-19	Unit17-19復習、Unit20, 22, 23予習																																																		
7	Unit 20, 22, 23	Unit 20, 22-23復習、Unit 24-25, 44																																																		
8	Unit 24-25, 44	Unit24-25, 44復習、Unit27, 29-31																																																		
9	Unit 27, 29-31	Unit27, 29-31復習、Unit32-34予習																																																		
10	Unit 32-34	Unit 32-34復習、Unit 35-38予習																																																		
11	Unit 35-38	Unit 35-38復習、Unit 38-41予習																																																		
12	Unit 39-41	Unit 39-41復習、Unit 42, 43予習																																																		
13	Unit 42, 43	Unit 42. 43 復習、Unit 45-47予習																																																		
14	Unit 45-47	Unit 45-47 復習、Unit 28予習																																																		
15	Unit 28	Unit 28復習、Presentation準備																																																		
16	Final Presentation																																																			
テキスト・参考文献・資料など English For Everyone ひとりでエクササイズ ビジネス英語 レベル1 (朝野書房やアマゾンなどで購入可)  その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。																																																				
学びの手立て <b>【重要】</b> 受講希望者は必ず初日(オリエンテーション)に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。 ・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。 ・ほぼ毎回Unitテストを行い、学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。学習目安は復習、予習ともに週1時間以上が望ましい。 ・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。																																																				
評価 ①授業態度、授業への参加・積極性(25%) ②課題(25%) ③Unitテスト& Self-reflection(25%) ④ Final Presentation(25%)を総合的に判断して評価する。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目  より正確でプロフェッショナルな英語力を身につけるため英検やTOEIC(R)などの資格試験などにもチャレンジしてほしい。また異文化理解を深めるため国際理解課題研究I、IIなども積極的に受講してほしい。海外留学やのインターンシップなどにチャレンジし、積極的に英語でコミュニケーションを取る環境に身を置くと更にスキルアップできる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「産業社会における情報化や国際化の進展」に伴い、グローバルな視点で物事を考え、意見や情報を発信できることを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバルメディアスタディーズ	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c.uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	メディアを通して世界を知り、日本（沖縄）がどう世界から捉えられているかを知ることを目指す。また英語を用いて情報収集や情報発信を行う。	【実務経験】海外生活14年、外資・グローバル企業で英語講師として勤務した経験を活かし、テレビやネットなどのメディアを通して海外と日本（沖縄）を比較・分析していきます。楽しみながら世界のこと、日本のこと、そして沖縄のことをもっと知りましょう！See you in class!
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を使用し、国内外の情報を収集できる。</li> <li>海外の情報を分析し、自分なりの見解を述べられる。</li> <li>英語を使い日本・沖縄の情報を海外に発信できる。</li> <li>100本の映像を観ることを目指す。Viewing Logに記録すること。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance	Viewing Log
	2	Education & Schools ①	Viewing Log
	3	Education & Schools ②	Viewing Log
	4	Food ①	Viewing Log
	5	Food ②	Viewing Log
	6	Entertainment ①	Viewing Log
	7	Entertainment ②	Viewing Log
	8	Entertainment ③	Viewing Log & 課題提出準備 (1)
	9	Travel: World ①	Viewing Log
	10	Travel: World ②	Viewing Log
	11	Travel: Japan ①	Viewing Log
	12	Travel: Japan ②	Viewing Log
	13	Travel: Okinawa ①	Viewing Log
14	Travel: Okinawa ②	Viewing Log & 課題提出準備 (2)	
15	Presentation Practice	発表準備	
16	Final Presentation		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特にないが、ビデオ、DVD、Youtubeなどを多く使用する。また自身で情報収集、クラスメートと情報共有を積極的に行って欲しい。</p>		
学びの手立て	<p>【重要】受講希望者は必ず初日（オリエンテーション）に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>グループワークが多いので授業以外でも定期的集まれるような環境作りをし、メンバー同士で積極的にコミュニケーションを取ることを心がけること。欠席した際、授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> </ul>		
評価	<p>①授業態度、グループワーク・ディスカッションなどへの参加・積極性（25%）②課題（25%）③Viewing Log（25%）④ Final Presentation（25%）を総合的に判断して評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日頃から海外の情報を積極的に取り入れ、より広い視野を持ち、グローバルなものの見方ができるようにして欲しい。更に「国際理解課題研究I、II」も受講し、よりクリティカルに、グローバルに様々なトピックについて考えることができれば貴重な人材になれるだろう。英語力を高めるためには「ビジネス英語」、「グローバルオフィスコミュニケーション」の受講を勧める。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報システム論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	3年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>企業経営における情報化や情報システム導入の利点を理解し、情報システムの重要性を学ぶ。経営情報システムの構成、経営情報システムの効果、情報化のインパクトなどを中心に講義を進めていく。具体的には情報技術の経営・経済への応用事例や様々な分野の取り組みを解説する。特に、企業における先進的情報システムの事例を取り上げ、今後の展開としてどのような点が重要かを議論する。</p>	<p>近未来に対する解決力・創造力を養うための専門科目としての位置づけで、これから社会で必要とされる経営情報システムの仕組みを理解する。積極的に講義に参加し、受講者が個々におもしろいアイデアを見つけ出すというようなモチベーションで望んで欲しい。</p>
到達目標	<p>これからの社会はコンピュータ機器の利用およびインターネットなしでは考えられないため、このような技術が未来をどのように変えていくのかを自ら考え、積極的に参画していく社会はどのように変容していくのかを想像することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス ー情報システムとはー	講義資料ダウンロードの確認
	2	経営情報システム	技術用語の復習
	3	戦略的情報システム	技術用語の復習
	4	意思決定と情報システム	技術用語の復習
	5	IT企業の戦略1 事例研究	課題レポート作成
	6	eビジネスモデル	事例の考察
	7	前半まとめ及び確認問題	課題レポート作成
8	IT企業の戦略2 事例研究	課題レポート作成	
9	意思決定活動と応用ソフトウェア	技術用語の復習	
10	IT企業の戦略3 事例研究	課題レポート作成	
11	ERP	事例の考察	
12	コンピュータの歴史とハードウェア	技術用語の復習	
13	ソフトウェアとエンドユーザーコンピューティング	技術用語の復習	
14	コンピュータネットワークとグループウェア	技術用語の復習	
15	後半まとめおよび最終試験	考察	
16	試験解答および総括	考察	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>ウェブサイトで講義時に使用する資料を配布（講義で使用する資料をPDF化し公開する）するため、初回の講義は必ず出席すること。参考文献は講義時に紹介する。</p>	
	学びの手立て	<p>この講義で学んだ経営情報システムに関する知識や技術を応用すれば、専門演習などの卒業論文等ですぐに利用することが可能である。また、卒業研究や社会に出てから情報システムを構築および利用したいと考える者は受講するのが望ましいと考える。インターネットを取り巻く環境は著しく変化し、これからも速いスピードで変容し続けるため、情報収集能力が必要となる。膨大かつ陳腐化が激しい情報を積極的に収集し、自ら考える能力を養うことが必要である。</p>	
	評価	<p>授業態度平常点20%、課題レポート10%、試験70%で評価する。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ウェブマーケティングや専門ゼミ等でこの講義で学んだ技術や知識が生かせると考える。これから、起業する者、就職して本格的に情報系の仕事をする者、インターネットを利用したビジネスを考えている者などは、この講義で得た知識が役に立つと思われる。</p>
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営ビジネス情報論Ⅰ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業は、フィールドワークを通じて一次データを収集・分析し、そこから導いた結論を報告書にまとめることができるようになることを目的とします。講義を通じて定量調査・定性調査の実施方法と分析方法を学び、チーム単位でフィールドワークを実践してもらいます。この活動を通じて、世代を超えて他者とコミュニケーションが行える力を伸ばしてもらうことも授業目的の1つです。	この授業は、経営情報ビジネス論Ⅱで行う実態調査の方法を指導するために開講されます。そのため、経営情報ビジネス論Ⅱを受講する場合は、必ず前もって履修しておいてください。また、授業外活動として学外でのアンケート調査を行っていただきます。したがって、他者とのコミュニケーションが得意な学生、あるいは「苦手だが克服したい」という向上心のある学生に適した科目と言えます。
到達目標	①定量調査と定性調査の目的を理解し、これらを用いた調査を行うことができる（発表で評価） ②調査結果を分析し、そこから自分なりの解釈（持論）を導くことができる（レポートで評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／フィールドワークの目的と心掛けについて	授業内容の復習をしておく
	2	問（仮説）の立て方	テーマに関連した問を立てておく
	3	調査項目の設定方法	調査項目を洗い出しておく
	4	定量調査と定性調査の違い	授業内容の復習をしておく
	5	定量調査の調査票	定量調査の調査票を作成しておく
	6	定量調査票の添削	調査票を完成させ、調査を行う
	7	定量調査の分析方法	結果をまとめ、発表の準備をする
	8	分析結果の発表①	コメントに基づいて追加調査を行う
	9	定性調査の調査票	定性調査の調査票を作成しておく
	10	定性調査票の添削	調査票を完成させ、調査を行う
	11	定性調査の分析方法	結果をまとめ、発表の準備をする
	12	分析結果の発表②	コメントに基づいて追加調査を行う
	13	レポートの書き方	レポートを作成する
	14	レポートの添削	完成させ、発表の準備をする
15	最終発表／総括	締切までにレポートを提出する	
16			

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。</p> <p>①石井栄造『図解マーケティングリサーチの進め方がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年1月</p> <p>②酒井隆『図解アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年1月</p> <p>③樋口裕一『ホンモノの文章力：自分を売り込む技術』集英社新書、2000年10月</p> <p>④前田安正『きっちり！恥ずかしくない！文章が書ける』すばる舎、2013年5月</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業内外の作業は、すべてチームで行います。したがって、チームワークへの参加や貢献も評価の対象となります。</li> <li>●開講期間中に3回の結果発表を行っていただきます。授業の目的は、①調査の実施、②結果の分析、③持論の導出であり、これらを発表とレポートによって評価するため、3回の発表をすべて行った上でレポートを提出しないと単位の認定は得られません。また、前掲①から③のすべてを実施しないと授業目的が達成されないため、これらのいずれかを行わなかった場合も単位の認定が得られないことに留意してください。</li> <li>●なお、調査内容によっては、授業外で行う調査（フィールドワーク）を授業時間で行う場合があります。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>①発表20%（受講者による相互評価：第8と12回）</p> <p>②最終発表20%（受講者による相互評価と教員による評価）</p> <p>③レポート60%（教員による評価）</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：経営情報ビジネス論Ⅱ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱ</p> <p>次のステージ：経営情報ビジネス論Ⅱ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営ビジネス情報論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業は、地域問題の発見と解決策の立案を通じて、その企画の実践に取り組む課題解決型学習（PBL）です。地域にどのような問題があるのかを調査し、その解決につながる企画を考えます。ただし、考えた企画は実践してもらうので、具体的に実行可能な企画を立案してください。	この授業は、経営情報ビジネス論Ⅰで指導する調査・分析手法の実践を前提とします。そのため、受講に先立って、必ず経営情報ビジネス論Ⅰを修得しておいてください。また、授業では、地域問題を見出すための実態調査を行ってもらいます。したがって、他者とのコミュニケーションが得意な学生、あるいは「苦手だが克服したい」という向上心のある学生に適した科目と言えます。
到達目標	①実態調査を行い、地域問題を見出すことができる（実態調査の発表で評価） ②地域問題の解決に向けて具体的に実行可能な企画を立案できる（企画の発表で評価） ③立案した企画を実践し、その結果をレポートにまとめることができる（レポートで評価）	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／PBLの概念と授業の進め方について	授業の目的と進め方を理解する
	2	社会問題と地域問題	授業内容の復習をしておく
	3	実態調査の方法	調査項目を洗い出しておく
	4	調査票の作成・添削	調査票を完成させる
	5	実態調査①：視察・見学（学外活動）	調査を通じて一次データを収集する
	6	実態調査②：ヒアリング（学外活動）	調査結果をまとめる
	7	調査結果の分析	調査結果を分析する
	8	調査結果の発表	発表の準備をしておく
9	物品を用いた地域活性化の方法（事例研究）	事例から地域活性化の企画を考える	
10	サービスを用いた地域活性化の方法（事例研究）	事例から地域活性化の企画を考える	
11	地域活性化に向けた企画の立案	具体的に実行可能な企画を考える	
12	企画の発表	発表の準備をしておく	
13	企画の実施①：合意形成（学外活動）	企画実践のための協力者を見つける	
14	企画の実施②：企画実践（学外活動）	協力者とともに企画を実践する	
15	活動成果の発表／総括	発表の準備をしておく	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の調査に合わせて適宜紹介します。	
学びの手立て	●授業内外の作業は、すべてチームで行います。したがって、チームワークへの参加や貢献も評価の対象となります。 ●開講期間中に3回の結果発表を行ってもらいます。授業の目的は、①調査の実施、②結果の分析、③企画の立案、④企画の実施であり、これらを発表とレポートによって評価するため、3回の発表をすべて行った上でレポートを提出しないと単位の認定は得られません。また、前掲①から④のすべてを実施しないと授業目的が達成されないため、これらのいずれかを行わなかった場合も単位の認定が得られないことに留意してください。 ●なお、授業で行う「（学外活動）」は、調査内容によって授業時間外（別の時間・曜日、あるいは土曜日など）に振替える可能性があります。		
評価	①発表40%（受講者による相互評価：第8と12回） ②活動成果の発表20%（受講者による相互評価と教員による評価） ③レポート40%（教員による評価）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：経営情報ビジネス論Ⅰ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱ 次のステージ：ビジネスエコノミクスⅠ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 学習内容が生活の何処のことかイメージできるようにする。 経済学の考える手順に慣れる。 現実の経済現象をどのように考えたらよいか、理解する。	メッセージ 初学者を対象にした講義です。 経済に興味を持つ、経済分野の学習を始める、きっかけにしてもらいたいです。
	到達目標 買い手と売り手それぞれの考え方について自分の言葉で説明できる。 有効需要とマクロ経済政策について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済学とはどのような学問か：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	需要と供給①	テキスト第1章を読む。
	3	需要と供給②	テキスト第1章を読む。
	4	需要曲線と消費者行動①	テキスト第2章を読む。
	5	需要曲線と消費者行動②	テキスト第2章を読む。
	6	費用の構造と供給行動①	テキスト第3章を読む。
	7	費用の構造と供給行動②	テキスト第3章を読む。
	8	学習内容の復習1	第1～3章の演習問題
9	経済をマクロからとらえる①	テキスト第9章を読む。	
10	経済をマクロからとらえる②	テキスト第9章を読む。	
11	有効需要と乗数メカニズム①	テキスト第10章を読む。	
12	有効需要と乗数メカニズム②	テキスト第10章を読む。	
13	マクロ経済政策①	テキスト第12章を読む。	
14	マクロ経済政策②	テキスト第12章を読む。	
15	学習内容の復習2	第9・10・12章の演習問題	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト [1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社, 2015年。 参考文献 [1]安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣, 2013年。[2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣, 2013年。		
	学びの手立て		
	①履修の心構え：欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。講義中のスマートフォンの操作は減点とする。講義内容の要点をつかむためのプリント(記述用)を毎回配布する。講義中は集中して説明を聞き、記述すること。 ②学びを深めるために：講義中に記述したプリントを、記述だけで止めず、講義時間外に読んでみる。はじめて学ぶ経済学の内容を、どのように学べばよいか、説明している。 課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。		
	評価		
	期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：買い手と売り手について経済学の考える手順で説明できるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世の中の仕組みを説明するための道具として、経済学を身に付けてもらいたい。 関連科目として、「基礎数学」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 学習内容が生活の何処のことかイメージできるようにする。 経済学の考える手順に慣れる。 現実の経済現象をどのように考えたらよいか、理解する。	メッセージ 初学者を対象にした講義です。 経済に興味を持つ、経済分野の学習を始める、きっかけにしたいと思います。
	到達目標 資源配分の視点で市場の諸問題を自分の言葉で説明する。 マクロ経済の諸問題を自分の言葉で説明する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済学について：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	市場取引と資源配分①	テキスト第4章
	3	市場取引と資源配分②	テキスト第4章
	4	独占と競争の理論①	テキスト第5章
	5	独占と競争の理論②	テキスト第5章
	6	市場の失敗①	テキスト第6章
	7	市場の失敗②	テキスト第6章
	8	学習内容の復習1	テキスト第4～6章の演習問題
	9	貨幣の機能①	テキスト第11章
	10	貨幣の機能②	テキスト第11章
	11	インフレ・デフレと失業①	テキスト第13章
	12	インフレ・デフレと失業②	テキスト第13章
	13	経済成長と経済発展①	テキスト第15章
	14	経済成長と経済発展②	テキスト第15章
15	学習内容の復習2	第11・13・15章の演習問題	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など テキスト [1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社, 2015年。 参考文献 [1]安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣, 2013年。[2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣, 2013年。			
学びの手立て ①履修の心構え：欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。講義中のスマートフォンの操作は減点とす る。講義内容の要点をつかむためのプリント(記述用)を毎回配布する。講義中は集中して説明を聞き、記述する こと。 ②学びを深めるために：講義中に記述したプリントを、記述だけで止めず、講義時間外に読んでみる。はじ めて学ぶ経済学の内容を、どのように学べばよいか、説明している。 課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。			
評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：買い手と売り手について経済学の考える手順で説明できるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 世の中の仕組みを説明するための道具として、経済学を身に付けてもらいたい。 関連科目として、「基礎数学」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財 政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	1年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 公式の計算を着実に実行する。 解答に到達するために必要な基本計算をミスなく実行する。 経済学で利用する数学がどのようなものか、大まかに理解する	メッセージ 2年次以降の専門科目を学習する準備がねらいです。 数学の得意・不得意よりも、講義内容をコツコツ復習計算する学びの態度がポイントです。
	到達目標 偏微分と線形代数の基本内容について、計算ミスなく解答できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	微分の基本計算	第2回練習問題を解く。
	3	微分の公式と計算①	第3・4回練習問題を解く。
	4	微分の公式を計算②	第3・4回練習問題を解く。
	5	1変数関数の極大・極小	第5回練習問題を解く。
	6	偏微分と全微分①	第6回練習問題を解く。
	7	偏微分と全微分②	第7回練習問題を解く。
	8	偏微分と全微分③	第8回練習問題を解く。
	9	まとめと問題練習1	第9回配布プリントの復習。
	10	線形代数の基礎①	第10回練習問題を解く。
	11	線形代数の基礎②	第11回練習問題を解く。
	12	行列式と固有値①	第12回練習問題を解く。
	13	行列式と固有値②	第13回練習問題を解く。
	14	行列式を固有値③	第14回練習問題を解く。
15	まとめと問題練習2	第15回配布プリントの復習。	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。教材プリントを配布して解説する。参考文献 [1]浅利一郎・山下隆之『はじめよう経済数学』日本評論社, 2003年。 [2]尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』日本評論社, 2013年。		
実践	学びの手立て ①履修の心構え: 欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。講義中のスマートフォンの操作は減点とする。講義中は自分のアタマと手を使って計算する。ノート記述だけでは理解につながらないので注意すること。 ②学びを深めるために: 講義で解説した例題・練習問題を、講義時間「外」に計算してみる。正解に達するために必要な計算の手順は何か、気づくことが重要である。 課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。		
実践	評価 期末テスト60%: 到達目標の達成度を測る。 提出課題20%: 微分の基本計算から偏微分まで計算ミスなく解答できるかを測る。 平常点20%: 履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の学習を、経済学の様々な分野を学ぶきっかけにもらいたい。 関連科目として、「基礎数学」、「経済数学」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「地域財政論Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」があげられる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゲーム開発演習	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>コンピュータの発達と共に高度な表現が可能となった現在、ゲーム開発技術の習得および関連する分野への応用など社会における重要性が高まっている。本演習では、EPIC Games社のUnreal Engineを用いてゲーム開発を行い、その機能と役割について学習し技術の習得を目指す。</p>	<p>【実務経験】ゲーム開発の実務経験を活かし、ゲーム開発の総合的な技術とその構築方法に関する演習を行う。本演習は、演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組み、創造力や問題解決力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲーム開発に関する基本的な概念と役割について理解し、演習を通して総合的な技術を習得する。</li> <li>ゲーム開発を通して創造力を身に付け、関連分野および社会への応用について学ぶ。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	ゲーム概論	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (1) デジタル技術	基本概念の理解及び講義の復習
	4	表現と技術史 (2) プラットフォーム	基本概念の理解及び講義の復習
	5	基本操作と概要	基礎技術の習得・講義の復習
	6	システム構築の基礎技術	基礎技術の習得・講義の復習
	7	プロトタイピング	基礎技術の習得・講義の復習
	8	アニメーションの実装	基礎技術の習得・講義の復習
	9	ルールの実装	基礎技術の習得・講義の復習
	10	AIの実装	基礎技術の習得・講義の復習
	11	応用課題	技術の応用・課題制作
	12	ゲーム開発演習 (1) 企画	技術の応用・課題制作
	13	ゲーム開発演習 (2) プロトタイプ	技術の応用・課題制作
14	ゲーム開発演習 (3) 実装	技術の応用・課題制作	
15	ゲーム開発演習 (4) 検証	技術の応用・課題制作	
16	総括・課題プレゼンテーション	課題の提出	
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。          参考書：「作れる！学べる！ Unreal Engine4 ゲーム開発入門」荒川巧也 著、翔泳社、「Unreal Engine 4で極めるゲーム開発」湊 和久 著、株式会社ボーンデジタル</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合は不可となる）</li> <li>実習を含む内容の為、パソコン教室での講義となる。</li> <li>課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> </ul>		
評価	<p>平常点 (20%) 及び講義内での通常課題 (20%)、最終課題 (60%) を総合的に評価する。          総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：3DCGアニメーション演習、コンテンツマネジメント論、UIデザイン概論</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際金融論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 外国為替レートの動向が実生活の何処と関わるのか、イメージして受講する。 「貯める」立場・「借りる」立場で国際金融を考える。 経済学を使って国際金融を考える。	メッセージ 国際金融は国境を越えた「貯める・借りる」世の中の仕組みのことで「 実生活に役立つ知識」としての国際金融論を身につけるきっかけにしてください。
	到達目標 外国為替レートの決定理論を自分の言葉で説明できる。 国際金融市場の動向について自分の言葉で説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	為替レートと外国為替市場	円高・円安とは何か、を復習。
	3	主要通貨の動向とその背景：円相場の推移	円相場の動向と背景を復習する。
	4	長期の為替レートの決定理論：購買力平価①	絶対的購買力平価を復習する。
	5	長期の為替レートの決定理論：購買力平価②	相対的購買力平価を復習する。
	6	短期の為替レート決定理論：金利平価①	カバーなし金利平価を復習する
	7	短期の為替レート決定理論：金利平価②	カバー付き金利平価を復習する。
	8	学習内容の復習1	第2～7回の練習問題
9	マネタリー・モデル①	マネタリー・モデルの仕組み	
10	マネタリー・モデル②	マネタリー・モデルの結論	
11	効率的市場とマイクロストラクチャー①	効率的市場仮説を復習する。	
12	効率的市場とマイクロストラクチャー②	マイクロストラクチャーを復習。	
13	為替介入と外貨準備	通貨当局の為替介入を復習。	
14	国際金融のトリレンマ	国際金融のトリレンマとは何か	
15	学習内容の復習2	第9～14回の練習問題	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。資料を配布して解説する。 参考文献 [1]永易淳・江坂太郎・吉田祐司『はじめて学ぶ国際金融論』有斐閣、2015年。[2]小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年。[3]清水順子・大野早苗・松原型『徹底解説 国際金融：理論から実践まで』日本評論社、2016年。		
	学びの手立て ①履修の心構え：欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。講義中のスマートフォンの操作は減点とする。配布資料の内容を理解するための解説を行う。講義中は集中して説明を聞くこと。 ②学びを深めるために：講義中に記述した講義ノートを、記述だけで止めず、講義外の時間に読んでみる。専門用語が多い配布資料の内容を、どのように学べばよいか説明している。課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：経済学を使って外国為替レートの決定理論・国際金融市場の動向を説明できるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際金融論が、国境を越えた「貯める・借りる」世の中の仕組みを説明する経済学の一分野であることを覚えておいてもらいたい。関連科目として、「応用マイクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「ファイナンシャルエコノミクスⅠ・Ⅱ」があげられる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得する。	講義内容について不明な点があったら、積極的に質問し理解に努めてほしい。

到達目標
①国際経済学の基礎的理論を習得する。 ②国際貿易と経済発展との関係を理解する。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国際経済学とは何か	
	2	国際経済の動き	当日内容の復習
	3	国際貿易の基礎理論（自由貿易の利益）	当日内容の復習
	4	国際貿易の基礎理論（リカード・モデル）	当日内容の復習
	5	国際貿易の基礎理論（ヘクシャー＝オーリン・モデル）	当日内容の復習
	6	新しい国際貿易の理論	当日内容の復習
	7	前半内容の課題演習	前半の復習
	8	前半まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検
	9	貿易政策	当日内容の復習
	10	貿易と経済発展	当日内容の復習
	11	生産要素の国際移動	当日内容の復習
	12	国民所得と国際収支	当日内容の復習
	13	為替レート	当日内容の復習
14	アジアの経済発展と日本	当日内容の復習	
15	後半まとめと課題演習	後半の復習	
16	期末テスト	期末テスト結果の点検	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、教材や資料はプリントまたはPDFファイルで配布する。 参考図書：澤田康幸『基礎コース国際経済学』新世社、井川一宏ほか『基礎 国際経済学』中央経済社、上野秀夫ほか『国際経済学』ミネルバ書房など。		
学びの手立て	①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と無関係なこと（私語、スマートフォンの操作など）を行った場合は減点となる。		
評価	平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジアビジネス事情、アジア経済論など
-------	-----------------------------------



※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、コンテンツマネジメントについて学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンテンツマネジメント論	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、コンテンツ制作における技術やメディア、運営、法制度等の仕組みや構造について学び、マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。また、ウェブサイト構築における規格や言語、情報の視覚化、著作権問題、運営等を総合的に学ぶ。	メッセージ コンテンツ制作における技術や運営、法制度等の産業別の仕組みや構造を理解し、コンテンツマネジメントに必要な総合的な知識を習得してほしい。
	到達目標 ・コンテンツ制作に関する技術や構造を理解し、コンテンツマネジメントに必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	コンテンツマネジメント概要	基本概念の理解
	3	メディアと技術 (1) Web・モバイル	講義の予習・復習
	4	メディアと技術 (2) 放送	講義の予習・復習
	5	デジタルコンテンツ (1) コンテンツ振興	講義の予習・復習
	6	デジタルコンテンツ (2) 業界構造	講義の予習・復習
	7	インターネットとコンテンツ	講義の予習・復習
	8	コンテンツの権利と法制度	講義の予習・復習
9	コンテンツとデジタル技術 (1) ゲーム	講義の予習・復習	
10	コンテンツとデジタル技術 (2) 動画像	講義の予習・復習	
11	コンテンツとデジタル技術 (3) アーカイブ	講義の予習・復習	
12	企画とプロセス	講義の予習・復習	
13	制作と進行	講義の予習・復習	
14	事例 (1) マネジメント	講義の予習・復習	
15	事例 (2) 環境と人材	講義の予習・復習	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。		
	学びの手立て 欠席した場合は、必ず欠席届を提出すること。 資料、参考書等をもとに講義を進めるため、講義内容を理解するためのノート記述を行うこと。		
	評価 講義内で定期試験を実施 (80%)、平常点 (20%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、情報リテラシー演習、UIデザイン概論、ゲーム開発演習
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	最適化概論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、組合せ最適化問題について、我々の身近なところに現れる具体例を用いて学ぶことをねらいとしている。	メッセージ 実社会で役立つ、ゲーム理論や工学の分野の最適化問題とそれを解決するためのいくつかの手法を学びます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 ゲーム理論における各種解法の習得と組合せ最適化における実社会の問題の解法を手計算で行えるようになってもらいます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	組合せ最適化についてのあらし	授業共有ファイル その1
	2	線形計画法を用いた組合せ最適化 I	授業共有ファイル その2
	3	線形計画法を用いた組合せ最適化 II	授業共有ファイル その3
	4	工学における組合せ最適化問題について	授業共有ファイル その4
	5	最適解と局所解、組合せ問題の難しさ（厳密解法と近似解法）	授業共有ファイル その5
	6	割り当て問題	授業共有ファイル その6
	7	ナップザック問題	授業共有ファイル その7
	8	多角形詰め込み問題	授業共有ファイル その8
	9	進化計算手法による組合せ問題の解法 I	授業共有ファイル その9
	10	進化計算手法による組合せ問題の解法 II	授業共有ファイル その10
	11	ゲーム理論 I（囚人のジレンマゲーム・支配戦略均衡点）	授業共有ファイル その11
	12	ゲーム理論 II（パレート最適、交渉ゲーム）	授業共有ファイル その12
	13	ゲーム理論 III（ミニマックスゲーム、ナッシュ解）	授業共有ファイル その13
	14	ゲーム理論 III（シャープレイ値）	授業共有ファイル その14
15	ゲーム理論 III（コア）	授業共有ファイル その15	
16	テスト	授業共有ファイル その1～15	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定は、ありません。 必要な資料は、pdf形式かパワーポイント形式でポータル授業共有ファイルにアップロードしますのでダウンロードして、テキストとしてください。		
	学びの手立て 毎時間、授業共有ファイルにアップロードされる電子ファイルを参照すること。		
	評価 試験： 90% 提出物： 10% 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎。専門演習。卒業論文演習。
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

「現代社会における産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力」に対応する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅰ（経済と情報）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-原田 淳	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	産業社会における企業間競争を勝ち抜くために必要な経営資源の中でも、とりわけ情動的経営資源が鍵となることを学ぶ。	日常の消費行動を振り返って考察することも、企業経営を考える上での大切な学びの素材です。

到達目標	経営学の基本的な考え方を習得する。その考え方を自分や周囲の人の消費行動に当てはめて考察することによって、企業の戦略を分析できるようになる。また、経営学の考え方を身の回りの組織活動に当てはめて考えることによって、企業組織での働き方の意思決定に結びつけられるようになる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義中に適宜課題を出題
	2	企業戦略とは	同上
	3	競争戦略	同上
	4	ビジネスシステム	同上
	5	事業構造	同上
	6	コーポレートガバナンス	同上
	7	雇用構造	同上
	8	働くとは	同上
	9	協働	同上
	10	リーダーシップ	同上
	11	経営システム	同上
	12	組織構造	同上
	13	管理システム	同上
	14	場のマネジメント	同上
15	働き方を考える	同上	
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 伊丹敬之『経営を見る眼』東洋経済新報社
-------	---

学びの実践	学びの手立て およそ2コマ毎に小テストを行います。講義内容を自分の経験に当てはめてもらう内容です。受講後も同様の視点で消費行動や組織活動を観察することによって学習が深まります。さらに、就職後のPDCAサイクルに活用できるようになれば、スキルの向上に活かされます。
-------	--

学びの実践	評価 評価方法：小テスト100% 評価基準：講義した考え方を実体験の説明に適切に当てはめられているかどうかを見る
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 企業の出す新商品や、自分を取り巻く組織の意思決定を、さらなる学びの題材として、成長の糧となるように活用して下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報特別講義Ⅲ (e ビジネス)	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石塚 亨	2年	初回講義時に連絡する。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>世の中に氾濫するデータが増大し、企業内外のデータの有効活用が事業の成否や企業競争力を左右するとまで言われている。今後のAI活用時代に向けて、データ分析と活用のニーズは高まり、その分野のスペシャリストの必要性、重要性も更に増すことが予測されている。本講義ではデータ解析と活用の基礎知識を整理し、その内容を理解することを狙いとしている。</p> <p>到達目標</p> <p>データ解析、活用のスペシャリストへの関心を持ち、データ解析に関する概念を学び、分析手法を体験できるため、実務にも繋がる基礎知識を整理、把握できるようになるであろう。実際のツールなどの境情報などを作成し、知識習得がきちんとできた学生については、データ解析分野での企業研修（インターンシップ、OJT等）が可能となるレベルに到達できる。</p>	<p>全く経験のない学生にとっては、データ解析、活用のスペシャリストと言っても、何をどうするのか、どうすればその知識が備わるのかわからないのが現実だと考える。この講義では業界をリードするIT企業の現場スペシャリストを講師として、概念のみならず、世界中の多くの企業で利用されているツールも紹介するので具体的なスペシャリスト像を体感できる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス・データ解析～活用とは 概要理解	用語確認
	2	ビッグデータとは？	インターネット活用し授業内容予習
	3	企業におけるデータ解析の重要性：データ連携(送信側の基礎①)	インターネット活用し授業内容予習
	4	企業事例 1	インターネット活用し授業内容予習
	5	企業事例 2	インターネット活用し授業内容予習
	6	企業事例 3	インターネット活用し授業内容予習
	7	データベースについて	用語確認
	8	サンプル利用による解析実習 1：ハンズオン作業、DB作成	実習準備および復習
	9	サンプル利用による解析実習 2：環境情報、データ連携	実習準備および復習
	10	グループワーク 1 課題研究	課題研究調査
	11	グループワーク 2 課題研究	課題研究調査
	12	グループワーク 3 課題研究	プレゼンテーション準備
	13	課題分析 1 プレゼンテーション	プレゼンテーション準備
14	課題分析 2 プレゼンテーション	試験に向けて講義内容確認	
15	最終試験	試験内容確認	
16	全体総括～本スペシャリストの仕事の将来性について	用語確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など	市販テキストは使用せず、ウェブ教材もしくは独自テキストを使用する。参考文献および資料については講義時に紹介する。	
	学びの手立て	履修に際して、基本的に欠席は認めない。各回の講義で知識や技術をステップアップして学んでいくため、途中で休むとついて行けなくなる。授業内容の予習は文献にくわえ、インターネットを活用し事前に内容テーマを検索し、積極的に知識獲得を目指すことを望む。また、技術的な質問も随時受け付けるので積極的に授業に参加する意識をもって取り組んで欲しい。	
	評価	テスト形式（50%）、グループプロジェクトおよびプレゼンテーション（40%）、受講態度（10%）での総合計点で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(関連科目) データベース、経営情報システム論、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ</p> <p>(次のステージ) ビッグデータ解析の重要性やニーズを学び、世界の多くの企業で使用されているデータ解析ツールを使用した実習も行うため、知識と技術を学ぶことができる。この経験より企業実習やOJTなどにも対応可能になる。是非、この知識および技術を次のステップである企業実習や就職活動に生かして欲しい。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業情報論	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、情報通信技術の産業分野における活用、産業構造や産業の仕組みに与える影響などの理解の上に、この情報化を支える情報通信や情報サービス等の情報産業の構造、技術動向、人材ニーズについて学ぶ。また情報化の進展に伴い重要性が増してきた情報モラルとプライバシー保護、知的所有権、セキュリティ管理等、産業の情報化及び情報の産業化に伴う動向等についても概説する。</p>	<p>情報技術の基本的な理解の上に、産業そして企業におけるその活用を学ぶ本講義は、続く演習、卒業論文において役立つと考えます。講義内容もさほど難しくありませんので、きちんと出席し与えられる課題に真面目に取り組めば、十分な理解、習得が得られます。 【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、企業における実務レベルの問題解決をIT活用の面から解説・講義する。</p>
到達目標	<p>① 情報そのものの、さらに情報技術に関する特性について多面的に考える力をつける。 ② 情報通信技術や情報システムが産業に与える影響を理解する。 ③ 情報産業の現状の理解に基づき、新しい技術あるいはサービスの動向を理解する。 ④ 情報モラル、プライバシー保護、知的所有権などの情報リテラシーを習得する。 ⑤ 身の回りの情報技術の活用に興味を持ち、その視点から自ら考える力をつける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業情報論で何を学ぶ	ガイダンスの理解
	2	情報についての基本的理解①－分類と特性	配布資料を読み、出席すること。
	3	情報についての基本的理解②－経営資源と情報	配布資料を読み、出席すること。
	4	情報化の進展と社会そして産業との関わり	配布資料を読み、出席すること。
	5	卸・小売・物流業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	6	金融・サービス業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
	7	製造・建設業界の情報化	上記業界に関する新聞記事を読む。
8	情報産業の発展と社会①－情報産業の構造と市場	配布資料を熟読してもらいたい。	
9	情報産業の発展と社会②－情報産業の技術と人材	配布資料を熟読してもらいたい。	
10	身近な事例研究①－コンテンツ産業	日常を情報技術から考える。	
11	身近な事例研究②－外食産業	日常を情報技術から考える。	
12	身近な事例研究③－アパレル産業	日常を情報技術から考える。	
13	情報化基盤と新技術の開発動向	配布資料を読み、出席すること。	
14	情報化基盤と周辺環境の変化	配布資料を読み、出席すること。	
15	情報化基盤と新たなビジネスモデル	配布資料を読み、出席すること。	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回の講義において資料を配布する。講義に出席する前に配布資料に目を通し、読めない漢字はもちろんのこと、理解が不十分な用語、略語、キーワード等に関しては、書籍さらにインターネットを活用し、理解を深めてもらいたい。また、テキストは特に指定しない。</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 配布資料は、毎回の講義に必ず持参してください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけて下さい。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的に解決してください。</p>		
評価	<p>学習への取り組み姿勢を評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題レポート(20%)そして期末試験(60%)の総合評価とします。 また毎回の講義内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいたいと思います。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習において習得した、社会・産業・生活における情報技術の活用といった基本的理解の展開として、2年次より履修が可能となる、「ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「経営科学」、「情報と職業」の受講を推奨します。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業連関論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新任	2年	後期のオリエンテーションの時間に「問い合わせ先」についてお知らせします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「〇〇の経済効果、経済波及効果」などマスコミでよく登場する言葉ですが、この計算には産業連関分析が用いられています。産業連関分析は、産業連関表を用いて経済波及効果に限らずさまざまな分析に応用されています。講義では、産業連関表を用いた産業連関分析を解説し、実際に統計データと表計算ソフトを用いて産業連関分析の実例を紹介し、その活用について学びます。</p>	<p>産業連関分析や経済波及効果は分析手法の一つで卒論作成などの分析に役立ちます。Excelの操作や数学の行列の知識、マクロ経済学の知識が基本になります。産業連関分析を学ぶことにより、経済分析の知識を習得し、題解の分析力、解決力を向上させることができます。</p>
到達目標	<p>1. 産業連関表から経済の循環を知る。マクロ経済学の知識を産業連関表に当てはめて理解しましょう。                  2. 数学（特に行列の知識）、Excel操作を習得する。行列やExcel操作で方程式や逆行列の計算方法を理解しましょう。                  3. 経済波及効果を情報リテラシーを使って考察する。経済波及効果の限界と問題点を知り、経済波及効果の実例を検証しましょう。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	講義概要	シラバスによる講義内容の確認
	2	産業連関分析の基本①：産業連関表について、基本取引用表など	マクロ経済学の復習
	3	産業連関分析の基本②：投入係数表、自給率など	Excelの操作と課題
	4	行列①：行列、逆行列の概念	数学の行列の復習
	5	行列②：表計算ソフトによる計算	Excelの操作と課題
	6	産業連関分析の基本③：逆行列係数表など	Excelの操作と課題
	7	産業連関分析の基本④：付帯表など	Excelの操作と課題
	8	産業連関分析の応用①：経済波及効果など	Excelの操作と課題
	9	直接効果の計算①：具体的事例について	事例の考察と課題
	10	直接効果の計算②：社会調査、アンケート調査など	事例の考察と課題
	11	産業連関分析の応用②：表計算ソフトによる計算	これまでの講義の復習
	12	産業連関分析の応用③：経済波及効果の計算	Excelの操作と課題
	13	産業連関分析の応用④：経済波及効果の事例分析	事例の考察と課題
14	産業連関分析の応用⑤：経済波及効果の事例分析	これまでの講義の復習	
15	定期試験		
16	講義のまとめ		
テキスト・参考文献・資料など	<p>講義の初めの時間に紹介します。                  安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出 パソコンでできる産業連関分析』学陽書房2008年                  藤川清史『産業連関分析入門ExcelとVBAでらくらくIO入門』日本評論社2005年                  土居英二編『はじめよう 観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営(NPM)の実践』日本評論社2009年</p>		
学びの手立て	<p>①遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなります。毎回遅刻せず出席してください                  ②授業内容は、毎回の講義の積み重ねで展開していきます。最初は簡単に思えても、徐々に講義内容が深まっていきます。                  油断や欠席をしないで受講して下さい。                  ③数学の行列の知識、マクロ経済学の知識が基本になります。経済原論Ⅰ、Ⅱ、応用マクロ経済学Ⅰ、Ⅱを受講し、基本的な知識を学習していることが必要になります。</p>		
評価	<p>平常点3割・課題3割・期末試験4割を原則とします。授業の進捗状況によって評価基準を修正する場合は、講義の時間に公表します。日々の授業態度、課題の取り組み状況、定期試験の結果が重要になります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：経済原論Ⅰ、経済原論Ⅱ、基礎数学、経済数学、情報処理基礎、応用マクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅱ                  類似科目：産業連関の基礎、産業連関の応用（どちらも地域環境政策学科提供科目）</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	システム開発と情報化	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業と法務、経営戦略に関する基礎的な内容を修得する。	メッセージ 基本情報技術者試験の基礎理論、企業と法務、経営戦略の分野について学びます。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる ・基礎理論としての応用数学等を理解し、説明できる ・企業活動と法務について理解し、説明できる ・経営戦略マネジメントについて理解し、説明できる ・技術戦略マネジメントについて理解し、説明できる ・ビジネスインダストリアルについて理解し、説明できる	

学びの準備	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる ・基礎理論としての応用数学等を理解し、説明できる ・企業活動と法務について理解し、説明できる ・経営戦略マネジメントについて理解し、説明できる ・技術戦略マネジメントについて理解し、説明できる ・ビジネスインダストリアルについて理解し、説明できる
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・企業活動	当該講義の復習/次回講義の予習
	2	企業会計	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	応用数学：集合・命題	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	応用数学：確率・統計	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	応用数学：待ち行列理論・グラフ理論	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	OR（オペレーションズリサーチ）	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	IE分析手法・QC手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	業務分析	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	知的財産権・セキュリティ関連法規	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	法務と標準化	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	経営戦略手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	マーケティング・ビジネス戦略	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	ビジネス戦略・技術開発戦略	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	ビジネスシステム	当該講義の復習/次回講義の予習
	15	e-ビジネス	当該講義の復習
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「IT戦略とマネジメント」インフォテック・サーブ（2018） 参考書：「ITワールド」インフォテック・サーブ（2018）
-------	---

学びの実践	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
-------	--

学びの実践	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、講義中の課題(30%)、分野別確認テスト(10%)の合計得点により行う。 取得点数が90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可、60%未満は不可とする。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論、プログラミング理論、プログラミング I、データベース、情報処理システム論
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報化社会と教育	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会と教育（初等，中等，高等）の関係を，多角的に捉える視野を育む。	メッセージ 情報技術の発展は，教育のあり方に対して大きな変化をもたらしています。まずは現状を整理し，そして今後も革新が進む情報技術を，教育にどのように活かしていくか，広い視野を持って考えていきましょう。
	到達目標 ・情報と教育との関係を説明できる ・教育における情報化社会の持つ意味と課題を説明できる ・メディア教育の持つ意味と課題を説明できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・大学への志願理由	ガイダンスの理解・課題提出
	2	大学と専門学校の違い	課題提出
	3	情報と教育	教科書 pp. 9-19・課題提出
	4	大学の授業改革と情報通信技術	教科書 pp. 20-33・課題提出
	5	インターネット大学	教科書 pp. 34-50・課題提出
	6	大規模公開オンライン授業	教科書 pp. 51-63・課題提出
	7	Learning Style Inventory	課題提出
	8	情報化社会と高等教育の未来	教科書 pp. 64-77・課題提出
9	学校における児童・生徒を取り巻く情報化社会への対応	教科書 pp. 78-95・課題提出	
10	情報化社会と小学校の授業の実際・学校の取り組み	教科書 pp. 96-130・課題提出	
11	情報化社会と中学校の授業の実際・学校の取り組み	教科書 pp. 131-156・課題提出	
12	情報化社会と高等学校の授業の実際・学校の取り組み	教科書 pp. 157-176・課題提出	
13	メディア教育の歴史的展開	教科書 pp. 211-224・課題提出	
14	企業への自己アピール	課題提出	
15	現代コミュニケーション論	課題提出	
16	総括	教科書・課題の復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「情報化社会と教育」放送大学教育振興会		
	学びの手立て ・自身の意見を述べるよう積極性を持つこと。 ・課題（締め切り厳守）を提出しない者には期末試験の受験を認めない。		
	評価 各課題（100%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育者を目指すものは，情報化社会と教育における世の情勢を捉えながらも，自身の考えを以て創意工夫を凝らした教育を志すように望む。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報化と法	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-有賀 俊二	3年	ptt637@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい コンピュータ・ネットワークの急激な発達に伴って、法制度が追いついていない現状の中で、どのような問題がクリアできるのか、どのような情報を活用すべきなのかを自ら考える。	メッセージ 今やインターネットなくして企業は成り立たないといわれる今日、次代の情報化社会の中心を担う、君たち産業情報学部学生こそ、情報化に伴う様々な問題の適格な対応スキルを身に付け、沖縄から世界を目指す人材となってもらいたい。
	到達目標 急激な発展に伴う情報化社会の様々な問題に対して、的確に対応できるスキルを身に付ける。 1) 情報化における様々な法的問題の知識を習得する。 2) 情報化により発生する様々な問題への対応力を身に付ける。 3) 情報化戦略としての商標出願スキルを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	講義ガイダンス	
	2	情報化と法との関わり：情報が法で保護される理由？	
		時間外学習の内容	
	3	情報化と知的財産権（1）：特許や商標とは？	課題1 予定 オリジナル商標の検討
	4	情報化と知的財産権（2）：著作権とは？	課題2 予定 オリジナル商標の検討
	5	コンピュータ・プログラムの法的保護：プログラムも著作権で保護？	課題3 予定 オリジナル商標の検討
	6	表示の法的保護：商品名や商品のデザインの保護？	オリジナル商標の検討
	7	営業秘密の法的保護：企業の機密情報の保護？	オリジナル商標の検索
	8	企業情報開示の問題：企業の営業情報の保護？	課題4 予定 オリジナル商標の検索
	9	情報公開制度：行政の情報の保護？	オリジナル商標の検索
	10	個人情報保護：企業が入手する個人情報の保護？	オリジナル商標の提出
	11	電子商取引に関する問題：インターネット売買の保護？	オリジナル商標出願書類作成
	12	製造物責任と情報提供：商品等の欠陥情報？	オリジナル商標出願書類作成
	13	情報モラルとサイバー犯罪：ネット運営の責任？	オリジナル商標出願書類作成
	14	商標戦略：商標は企業を輝かせる？	
	15	情報化と法的問題の事例：こんなことが実際に？	
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、オリジナルの資料をMoodleで提供します。		
	学びの手立て 講義の資料、課題提出などすべてMoodleで配布、提出となります。 Moodleの取扱いは、サポートの学生が付く予定です。 事例を中心とし、実務的な講義です。一般的には知られていないが、産業情報技術を事業に活かすために、これだけは掴んでおきたい、掴んでおけば効果的に展開できるスキルです。オリジナル商標を考えます。		
	評価 講義において、課題を4回程度出します。 課題提出（商標エントリーを含む）、期末試験を総合的に評価します。 配点は、課題（70%）、期末試験（30%）とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 特に知的財産権の中で商標に関しては、自分で考え、自分で調べ、自分で出願できるスキルが身につく、企業の知財担当者としてのスキルともなります。前記の「企業と産業財産権」の講義と連動しています。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理概論	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ハードウェア、情報処理システム、ネットワークなど、情報処理技術の基礎的な内容を修得する。	メッセージ 2017年度以降の入学生は、上級情報処理士の資格取得、基本情報技術者試験 午前試験免除制度の適用に必要な科目です。 情報処理技術の基本を本講義では学ぶが、入学時のベースがかなり異なるため、今までに全く学んだことがない者は予習・復習を必ず行うこと。それでも、わからない場合は授業外に質問すること。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	コンピュータの歴史／コンピュータの五大装置	教科書・参考書の内容確認
	2	中央処理装置の構成・主記憶装置の構成	当該講義の復習／次回講義の予習
	3	命令とアドレッシング・ALUの構成回路・高速化技術	当該講義の復習／次回講義の予習
	4	補助記憶媒体・装置	当該講義の復習／次回講義の予習
	5	入出力装置・入出力インタフェース	当該講義の復習／次回講義の予習
	6	さまざまな処理システム	当該講義の復習／次回講義の予習
	7	処理能力の評価	当該講義の復習／次回講義の予習
	8	信頼性の評価	当該講義の復習／次回講義の予習
	9	ヒューマンインタフェース技術	当該講義の復習／次回講義の予習
	10	マルチメディア技術と応用	当該講義の復習／次回講義の予習
	11	ネットワークの基本構成	当該講義の復習／次回講義の予習
	12	ネットワークの基礎技術	当該講義の復習／次回講義の予習
	13	LANの基礎技術	当該講義の復習／次回講義の予習
	14	インターネットサービス・TCP/IPプロトコル	当該講義の復習／次回講義の予習
15	ネットワーク運用管理／ネットワーク管理手法	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「ITワールド」インフォテック・サーブ（2018） 参考書： ロージー・ディキンズ「なるほどわかった コンピューターとプログラミング」ひさかたチャイルド（2017） アंक「パソコンの仕組みの絵本」翔泳社（2010） アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社（2009） アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社（2003）		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、講義中の課題(30%)、分野別確認テスト(10%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義形式：プログラミング理論、情報処理システム論、情報通信ネットワーク論 演習形式：プログラミングI・II、ウェブプログラミング、データベース、情報処理システム演習、ロボットプログラミングシミュレーション
-------	--

※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に位置づけられます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム演習	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイン画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。	Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル その1&その2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	授業共有ファイル その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	授業共有ファイル その9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	授業共有ファイル その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル その13
	14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル その14
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	授業共有ファイル その15	
16	課題提出	授業共有ファイル その1～15	
実践	テキスト・参考文献・資料など	APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、ポータルの授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。 Android関連書籍。関連Webページ	
実践	学びの手立て	授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。	
実践	評価	提出物（10～12回程度）：100% 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習。専門演習。
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性 産業社会で活躍するために身につけておくべき先進的な情報教育に位置づけられます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム演習	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイン画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。</p>	<p>Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。</p>
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル	その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル	その1 & その2
	3	ボタンの配置による簡単なアプリの制作と実行	授業共有ファイル	その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル	その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル	その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル	その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル	その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル	その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 I	授業共有ファイル	その9
	10	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作 II	授業共有ファイル	その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル	その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル	その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル	その13
	14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル	その14
15	シューティングゲームAndroidアプリの作成 III（衝突判定処理の組み込み）	授業共有ファイル	その15	
16	課題提出	授業共有ファイル	その1～15	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、ポータル授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。 Android関連書籍。関連Webページ。</p>		
学びの手立て	<p>授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。</p>			
評価	<p>提出物（10～12回程度）：100% 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習。専門演習。
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理システム論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査と内部監査に関する基礎的な内容を修得する。	メッセージ 基本情報技術者試験のシステム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの分野について学びます。
	到達目標 高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を修得することで以下のことができる <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム戦略・システム企画について理解し、説明できる</li> <li>・システム開発技術について理解し、説明できる</li> <li>・ソフトウェア開発管理技術について理解し、説明できる</li> <li>・プロジェクトマネジメントについて理解し、説明できる</li> <li>・サービスマネジメント・システム監査について理解し、説明できる</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、情報システム戦略の概要	次回講義の予習
	2	情報システム企画	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	システム開発プロセス	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	ソフトウェア実装プロセス：要件定義～詳細設計	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	ソフトウェア実装プロセス：構築～受入れ支援	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	保守・廃棄プロセス	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	ソフトウェア開発手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	ソフトウェア設計手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	システム開発環境	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	プロジェクトマネジメントの概要	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	サブジェクトグループのマネジメント	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	サービスマネジメントの概要	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	サービスマネジメントの手法	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	サービスの運用	当該講義の復習/次回講義の予習
15	システム監査と内部統制	当該講義の復習	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など 教科書：「IT戦略とマネジメント」インフォテック・サーブ (2018) 参考書：「ITワールド」インフォテック・サーブ (2018)			
学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。			
評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、講義中の課題(30%)、分野別確認テスト(10%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「情報処理概論」「プログラミング理論」「システム開発と情報化」 次のステージとして「ロボットシミュレーション(ロボットプログラミング)」がある。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」に関連する講義である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報数学	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-八幡 幸司	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 本講義では、情報数学 I に引き続き情報処理に必要な基本的な数学を学ぶ。具体的には、集合と論理、n進数、情報科学分野で必須となるベクトルと行列について学習する。	メッセージ 本講義では、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかをわかりやすく解説するよう努めます。練習問題を解く時間を設け、なるべく多くの問題に触れることで、数学的センスを身につけられるよう配慮します。
	到達目標 集合と論理、n進数、ベクトルと行列など、専門科目を履修するために必要な数学知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス/受講受付	
	2	集合と論理 (i)	講義の復習および課題演習
	3	集合と論理 (ii)	講義の復習および課題演習
	4	集合と論理 (iii)	講義の復習および課題演習
	5	n進数 (i)	講義の復習および課題演習
	6	n進数 (ii)	講義の復習および課題演習
	7	n進数 (iii)	講義の復習および課題演習
	8	ベクトル (i)	講義の復習および課題演習
	9	ベクトル (ii)	講義の復習および課題演習
	10	ベクトル (iii)	講義の復習および課題演習
	11	行列 (i)	講義の復習および課題演習
	12	行列 (ii)	講義の復習および課題演習
	13	行列の応用 (i)	講義の復習および課題演習
	14	行列の応用 (ii)	講義の復習および課題演習
15	行列の応用 (iii)	講義の復習	
16	試験・総括		
テキスト・参考文献・資料など テキスト：石原光，小堆光喜「入門 情報処理数学」実教出版 参考資料： ・石村園子「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」共立出版 ・情報処理教育研究会「情報数学の基礎」日本理工出版会 ・小堆光喜「情報処理数学 60DAYS」実教出版店			
学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。			
評価 課題20%，中間・期末試験80% で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理に関連する講義科目が次のステージとなる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報通信ネットワーク論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-八幡 幸司	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい インターネットや携帯電話の普及により情報通信ネットワークは私たちの生活に欠かすことができないものとなりました。また、ネットワークの存在を前提とした各種社会サービスの普及により、企業や行政が正常に機能するためには必須なものとなりました。本講義では、その情報通信ネットワークを利用するだけでなく、構築・運用するのに必要な知識の習得を目指します。	メッセージ インターネットで使われるプロトコルの基本からネットワークの応用技術まで学ぶ。情報処理概論などにおいてネットワークの基本的な知識を学習済みであることが望ましい。
	到達目標 プロトコル階層モデルを理解する インターネットでの実用面での運用法について理解する 基本的なセキュリティ技術について理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション・情報ネットワークの歴史
	2	ネットワークの種類と特徴
	3	ネットワークの基本構成と基本技術
	4	通信プロトコル
	5	伝送制御手順
	6	通信サービス
	7	TCP/IPにおける通信
	8	IPアドレス
9	データ伝送と伝送技術	
10	ネットワークの性能	
11	ネットワーク管理	
12	ネットワーク応用（ネットワークサービス）	
13	情報セキュリティの概要	
14	情報セキュリティ対策	
15	総まとめ	
16	総合演習・期末試験	
		時間外学習の内容
		次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習／次回講義の予習
		当該講義の復習
	テキスト・参考文献・資料など テキストは初回講義時に指定する。 参考文献： ・池田博昌，山本幹「情報ネットワーク工学」（2008） ・インフォテック・サーブ「ITワールド」インフォテック・サーブ（2018） ・アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社（2009） ・アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社（2003）	
	学びの手立て 難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献，またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。	
	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)，講義中の課題(40%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」，8割以上「優」，7割以上「良」，6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「情報処理概論」「情報通信ネットワーク実習」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報と職業	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-岡田 良	2年	ptt697@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県は観光やIT産業を中心に自立的経済発展を目指している。とりわけここ15年で様変わりしたIT産業の変遷と発展要因を学ぶとともに、現在及び近い将来の業界トレンドを理解する。さらに職種に関する理解を深め各人の卒業前就職活動もしくは卒業後の就労に際し高いモチベーションをもつことを目的としている。現実的・具体的な職種の現状を正しく理解することをねらいとしている。</p>	<p>将来、IT業界への就労に世帯を持つ学生はもちろん、他業界においても情報技術はどのように貢献しているのかを知りたい学生向きの講義としています。（私は）産業振興のプロフェッショナルとして地域の振興の考え方についても述べていきます。さらに就職活動に対する考え方についてや面接などの対応方法についても取り組んでいきます。</p>
到達目標	<p>今日の学生は仕事に関する知識に乏しいため目指す職種像が描けていないでしょう。このような状態でやみくもに就職活動に挑んでも必ずしも良い結果につながるとは言えないと考えています。本講義履修後はIT業界だけでなく様々な職種の理解ができるようになるとともに、企業が内定を出すまでの経緯を学ぶことにより、以て就労するための過程を知ることになります。本講義を通して学生の”人間力”を養えればと考えております。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	本講義の目的と概要をガイダンス。	ガイダンスの理解	
	2	講義スケジュール説明後、県内産業の動向について簡単に解説する。	当該講義の復習	
	3	さまざまな産業の動向やその職種や企業活動について理解を深める。	当該講義の復習	
	4	多様化するIT産業の職種について正しく理解する（その1）。	当該講義の復習	
	5	多様化するIT産業の職種について正しく理解する（その2）。	当該講義の復習	
	6	沖縄県および自治体の政策を学び、IT業界の変遷と業界の動向を学ぶ。	当該講義の復習	
	7	過去15年を振り返りながら、近い将来におけるIT業界の動向を模索する。	当該講義の復習	
	8	講師自身の職務（IM）や実践に触れながら地域振興の必要性と理解を深める。	当該講義の復習	
	9	企業成長→事業創成⇒産業創造への発展要因を解説する。	当該講義の復習	
	10	国・地方行政またはその職員が産業振興に果たす役割を解説する。	当該講義の復習	
	11	これからの大学の在り方と学生に求められるものについて論じる。	当該講義の復習	
	12	企業では内定者を決めるまでにどのような過程を経ているのかを知る。	当該講義の復習	
	13	就職活動において高いモチベーションをもつための講義を実施する（1）。	当該講義の復習	
14	就職活動において高いモチベーションをもつための講義を実施する（2）。	当該講義の復習		
15	講義のまとめ	最終試験に向けて試験範囲の総復習		
16	学期末試験			
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストおよび資料は講義時にプロジェクター投影する。また、参考文献は講義時に紹介する。		
学びの手立て	この講義で学んだIT産業の概要や沖縄県の取り組みなど情報と職業に関する知識を得ることができれば、他の理論的な講義をより深く理解することができるであろう。将来、情報関連の仕事に就きたいと考える者は受講する方が望ましい。			
評価	出席状況および学期末試験の結果を総合的に判断し評価します。なお、学期末試験時にはノート、書籍等参考になるものの持ち込みは可とします。また、やむ負えない事情で試験当日欠席した者についてはメールによるきめられた期限内での提出を認めることとします。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	専門演習等でこの講義で学んだ知識が生かせると考える。今後、起業を考える者、就職して本格的に情報系の仕事をする者、インターネットを利用したビジネスを考えている者などは、この講義で得た知識が役に立つと思われる。



※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	1年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、Webサイト構築における基礎的な技術について、プログラミングを通して習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLとデザインを構成するためのCSSについて学び、個人Webサイトの作成を行う。後半は少人数のグループごとに個別のテーマを企画し、Webサイトを作成し公開する。	CG-ARTS協会「Webデザイナー検定ベーシック」の試験範囲に対応しています。本演習受講者はWebデザイナー検定ベーシック/エキスパートの取得に挑戦しよう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webサイト構築に必要な技術および知的所有権を含む情報倫理について理解を深める。</li> <li>演習を通してウェブ作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。</li> <li>学んだ知識・スキルを活用してチームによる課題解決の体験を通じて能力発揮のしかたを修得する。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、インターネットの基礎	ガイダンスの理解
	2	Webデザイン：Webサイトの目的とデザイン	教科書の予習・復習
	3	Webデザイン：情報の組織化と構造化	教科書の予習・復習
	4	Webデザイン：素材の制作1	教科書の予習・復習
	5	Webデザイン：素材の制作2	教科書の予習・復習
	6	Webデザイン：素材の制作3	教科書の予習・復習
	7	Webページを実現する技術：HTMLの基礎	教科書の予習・復習
	8	Webページを実現する技術：CSSの基礎	教科書の予習・復習
	9	Webページを実現する技術：文書要素の制御	教科書の予習・復習
	10	Webページを実現する技術：文字の装飾とフォームの設定	教科書の予習・復習
	11	Webページを実現する技術：CSSを用いたレイアウト	教科書の予習・復習
	12	グループワークの準備・言語と規格	教科書の予習・復習
	13	Webサイトの運用	グループごとにWebサイト作成
14	知的財産権	グループごとにWebサイト作成	
15	課題発表：グループごとのWebサイト	グループごとにWebサイト作成	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など			
教科書：「入門Webデザイン[改訂第三版]」CG-ARTS協会 参考書：「Webデザイン[改訂第五版]」CG-ARTS協会 「Webデザイナー検定エキスパート・ベーシック公式問題集 改訂新版」CG-ARTS協会			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> <li>質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。</li> </ul>			
評価			
講義への参加状況、各回での作成課題（20%）、ならびに最終課題（80%）を重視し、総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、ウェブプログラミング
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、Web作成の基礎技術を学びます。 [ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	1年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、Webサイト構築における基礎的な技術について、プログラミングを通して習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLとデザインを構成するためのCSSについて学び、個人Webサイトの作成を行う。後半は少人数のグループごとに個別のテーマを企画し、Webサイトを作成し公開する。</p>	<p>CG-ARTS協会「Webデザイナー検定ベーシック」の試験範囲に対応しています。本演習受講者はWebデザイナー検定ベーシック/エキスパートの取得に挑戦しよう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webサイト構築に必要な技術および知的所有権を含む情報倫理について理解を深める。</li> <li>演習を通してウェブ作成に必要な技術を習得し活用できるようになる。</li> <li>学んだ知識・スキルを活用してチームによる課題解決の体験を通じて能力発揮のしかたを修得する。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、インターネットの基礎	ガイダンスの理解
	2	Webデザイン：Webサイトの目的とデザイン	教科書の予習・復習
	3	Webデザイン：情報の組織化と構造化	教科書の予習・復習
	4	Webデザイン：素材の制作1 文字	教科書の予習・復習
	5	Webデザイン：素材の制作2 画像処理	教科書の予習・復習
	6	Webデザイン：素材の制作3 動画像	教科書の予習・復習
	7	Webページを実現する技術：HTMLの基礎	教科書の予習・復習
	8	Webページを実現する技術：CSSの基礎	教科書の予習・復習
	9	Webページを実現する技術：文書要素の制御	教科書の予習・復習
	10	Webページを実現する技術：文字の装飾とフォームの設定	教科書の予習・復習
	11	Webページを実現する技術：CSSを用いたレイアウト	教科書の予習・復習
	12	グループワークの準備・言語と規格	グループごとにWebサイト作成
	13	Webサイトの運用	グループごとにWebサイト作成
14	知的財産権	グループごとにWebサイト作成	
15	課題発表：グループごとのWebサイト	グループごとにWebサイト作成	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など			
<p>教科書：「入門Webデザイン[改訂第三版]」CG-ARTS協会          参考書：「Webデザイン[改訂第五版]」CG-ARTS協会          「Webデザイナー検定エキスパート・ベーシック公式問題集 改訂新版」CG-ARTS協会</p>			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> <li>演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>講義の中で求められた、課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。</li> <li>質問事項、疑問等は講義中に限らず、オフィスアワー等を活用し問題解決に努めること。</li> </ul>			
評価			
平常点 (10%) ならびに各回での作成課題 (20%)、最終課題 (70%) を重視し総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、ウェブプログラミング、UIデザイン概論、コンテンツマネジメント論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人工知能概論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>スマートフォンや自動車、Webサービスなど、社会のあらゆる分野において人工知能は重要な役割を担うようになりました。そこにはディープラーニングという技術の存在があります。本講義では講義と演習を通して、ディープラーニングの原理を学びます。</p>	<p>講義だけでなく、実際にコードを書いたり、デバッグしたりと多くの時間がかかりますが、演習を通じてより深く理解していきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>Python の基礎を理解し、説明できる。</li> <li>ディープラーニングやその基礎となる理論を理解し、説明できる。</li> <li>ディープラーニングを利用し、その方法を説明できる。</li> <li>ディープラーニングの応用例について理解し、説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解・教科書の通読
	2	Python入門	教科書の理解と課題の提出
	3	パーセプトロン (1) パーセプトロンとは	教科書の理解と課題の提出
	4	パーセプトロン (2) 多相パーセプトロン	教科書の理解と課題の提出
	5	ニューラルネットワーク (1) パーセプトロンからニューラルネットワークへ	教科書の理解と課題の提出
	6	ニューラルネットワーク (2) 3層ニューラルネットワークの実装	教科書の理解と課題の提出
	7	ニューラルネットワークの学習 (1) データから学習する	教科書の理解と課題の提出
8	ニューラルネットワークの学習 (2) 学習アルゴリズムの実装	教科書の理解と課題の提出	
9	誤差逆伝播法 (1) 計算グラフ	教科書の理解と課題の提出	
10	誤差逆伝播法 (2) 活性化関数レイヤの実装	教科書の理解と課題の提出	
11	学習に関するテクニック (1) パラメータの更新	教科書の理解と課題の提出	
12	学習に関するテクニック (2) 正則化	教科書の理解と課題の提出	
13	畳み込みニューラルネットワーク	教科書の理解と課題の提出	
14	ディープラーニング	教科書の理解と課題の提出	
15	総括	教科書の理解と講義の振り返り	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>斎藤 康毅「ゼロから作るDeep Learning」 (2016)</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>Python の理解に努めましょう。</li> <li>演習を通して、深い理解に繋げましょう。</li> <li>複雑な理論も、焦らずじっくり時間を掛けて理解しましょう。</li> </ul>		
評価	<p>試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。評価は期末試験(60%)、講義中の課題(40%)の合計得点により行う。総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義において学んだディープラーニングの原理を足がかりに、最先端技術の理解や自身のシステムの開発に役立てていきましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	数的処理	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報処理は情報科学分野のみならず経済学分野、経営科学においても必須の技能である。しかしながら、専門分野における情報処理は、特定の専門業種を除き、実際の仕事の場で必要とされる機会は少ない。本講義では、専門分野における情報処理ではなく、社会人となる学生に身に付けてほしいデータ処理技法について解説する。	具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説するよう努めます。また、講義内容の理解を確認するために、演習問題を解く時間を毎回設けます。講義外でも質問を大歓迎しますので、疑問な点があれば遠慮なく申し出てください。

到達目標	SPIにおける非言語分野や公務員試験における数的推理など、社会人に必要な基礎的なデータ処理技法を習得する。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス／受講受付	
	2	幾何図形の基本性質	幾何図形の基本性質の復習
	3	数値データの規則性	数値データの規則性の復習
	4	問題の定式化とデータ処理(i)	問題の定式化とデータ処理の復習
	5	問題の定式化とデータ処理(ii)	問題の定式化とデータ処理の復習
	6	組み合わせ論の基礎	組み合わせ論の基礎の復習
	7	確率の基礎	確率の基礎の復習
	8	加法定理と乗法定理	加法定理と乗法定理の復習
	9	幾何図形におけるデータ処理(i)	幾何図形におけるデータ処理の復習
	10	幾何図形におけるデータ処理(ii)	幾何図形におけるデータ処理の復習
	11	進数の基礎	進数の基礎の復習
	12	集合の基礎	集合の基礎の復習
	13	演繹法と帰納法	演繹法と帰納法の復習
	14	逆転の発想によるデータ処理(i)	逆転の発想によるデータ処理の復習
15	逆転の発想によるデータ処理(ii)	逆転の発想によるデータ処理の復習	
16	試験・総括		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 未定（第一回目の講義で周知します） 参考文献・資料： 授業時に適宜配付する。
-------	---

学びの手立て	「履修の心構え」 初回講義を欠席した者は、仮登録を取り消すので注意すること。 遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題を必ず復習すること。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
--------	---

評価	演習課題（2割）、試験（8割）の総得点で評価する。総得点の9割以上秀、8割以上優、7割以上良、6割以上可とし6割未満不可とする。また、出席率が2/3に満たないものは不可とする。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージは、大学で学んだ知識・技能を就職先の業務に活かすことである。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、アニメーション制作の基礎技術を学びます

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	3DCGアニメーション演習	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい アニメーション表現は、デジタル技術の発達と共に様々な分野で用いられ、コンテンツ産業においても重要な役割を担っている。本演習では、Autodesk社Mayaなどのアプリケーションを用いて、3DCGアニメーションの制作を行い、その概要と表現について学び技術の習得を目指す。	メッセージ 【実務経験】3DCG制作の実務経験を活かし、専門技術の習得及びアニメーション表現とその構築方法に関する演習を行う。演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組み、創造力や問題解決力を身に付けてほしい。
	到達目標 ・アニメーションに関する基本的な概念と表現について理解し、演習を通して3DCGアニメーションの総合的な技術を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・アニメーション概論	ガイダンスの理解
	2	表現と技術史 (1) 誕生	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (2) 発展と可能性	基本概念の理解及び講義の復習
	4	基本操作と概要	基本概念の理解及び講義の復習
	5	アニメーション表現 (1) 動きの種類	基礎技術の習得・課題の提出
	6	アニメーション表現 (2) 基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	7	アニメーション表現 (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	8	キャラクターアニメーションの基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	9	リギング (1) 基本構造	基礎技術の習得・課題の提出
	10	リギング (2) 基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	11	リギング (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	12	アニメーション演習 (1) 課題設定	技術の応用・課題の提出
	13	アニメーション演習 (2) 構造構築	技術の応用・課題の提出
	14	アニメーション演習 (3) 技術の応用	技術の応用・課題の提出
15	アニメーション演習 (4) 課題制作	技術の応用・課題の提出	
16	総括	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。		
	評価 平常点 (20%) 及び講義内での通常課題 (30%)、最終課題 (50%) を総合的に評価する。 総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ゲーム開発演習、UIデザイン概論、コンテンツマネジメント論
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、アニメーション制作の基礎技術を学びます

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	3DCGアニメーション演習	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい アニメーション表現は、デジタル技術の発達と共に様々な分野で用いられ、コンテンツ産業においても重要な役割を担っている。本演習では、Autodesk社Mayaなどのアプリケーションを用いて、3DCGアニメーションの制作を行い、その概要と表現について学び技術の習得を目指す。	メッセージ 【実務経験】3DCG制作の実務経験を活かし、専門技術の習得及びアニメーション表現とその構築方法に関する演習を行う。演習課題のため講義外の取り組みが必要となる。主体的に課題に取り組み、創造力や問題解決力を身に付けてほしい。
	到達目標 アニメーションに関する基本的な概念と表現について理解し、演習を通して3DCGアニメーションの総合的な技術を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・アニメーション概論	ガイダンスの理解
	2	表現と技術史 (1) 誕生	基本概念の理解及び講義の復習
	3	表現と技術史 (2) 発展と可能性	基本概念の理解及び講義の復習
	4	基本操作と概要	基本概念の理解及び講義の復習
	5	アニメーション表現 (1) 動きの種類	基礎技術の習得・課題の提出
	6	アニメーション表現 (2) 基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	7	アニメーション表現 (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	8	キャラクターアニメーションの基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	9	リギング (1) 基本構造	基礎技術の習得・課題の提出
	10	リギング (2) 基礎技術	基礎技術の習得・課題の提出
	11	リギング (3) 応用	技術の応用・課題の提出
	12	アニメーション演習 (1) 課題設定	技術の応用・課題の提出
	13	アニメーション演習 (2) 構造構築	技術の応用・課題の提出
	14	アニメーション演習 (3) 技術の応用	技術の応用・課題の提出
15	アニメーション演習 (4) 課題制作	技術の応用・課題の提出	
16	総括	課題の提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる) ・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。 ・課題の提出期限は必ず守り、配布する参考資料、データ等は講義終了となる期末まで毎回持参すること。		
	評価 平常点 (20%) 及び講義内での通常課題 (30%)、最終課題 (50%) を総合的に評価する。 総合評価が90%以上を秀、80%以上を優、70%以上を良、60%以上を可、59%以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ゲーム開発演習、UIデザイン概論、コンテンツマネジメント論
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セキュリティ概論	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>昨今、個人情報や企業の機密情報の流出が、社会的に深刻なものとなってきている。情報漏洩を防ぐ方法、本人確認の手法など暗号の重要性が見直されている。本講義では、暗号の歴史から現在の主な暗号方法、そして近未来の量子暗号まで、それらの概要を学ぶことをねらいとしている。</p>	<p>私達は、知らず知らずのうちに暗号化技術を利用しています。暗号化技術を知ることが、高度情報社会を知ることと個人情報の大切さを理解することになります。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。</p>
到達目標	R S A公開鍵暗号方式とエルガマル暗号方式における暗号化と復号を手計算で行えるようになってもらいます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ギリシア・ローマ時代の暗号（シーザー暗号、スキュレータ）	授業共有ファイル その1
	2	江戸時代の暗号（上杉暗号）	授業共有ファイル その2
	3	第二次世界大戦と暗号技術（赤／紫暗号、エニグマ）	授業共有ファイル その3
	4	情報化による文明構造の変革（デジタル技術とマルチメディア）	授業共有ファイル その4
	5	情報セキュリティの登場	授業共有ファイル その5
	6	社会基盤としての暗号	授業共有ファイル その6
	7	現代社会と暗号利用（電子マネー、電子決済、デジタル放送など）	授業共有ファイル その7
	8	DES型暗号	授業共有ファイル その8
	9	共通鍵暗号	授業共有ファイル その9
	10	公開鍵暗号	授業共有ファイル その10
	11	素数と余りと法の世界	授業共有ファイル その11
	12	R S A暗号方式	授業共有ファイル その12
	13	エルガマル暗号方式	授業共有ファイル その13
14	電子署名・ハッシュ関数／ハッシュ値	授業共有ファイル その14	
15	未来の暗号（楕円曲線暗号／量子暗号方式）	授業共有ファイル その15	
16	テスト	授業共有ファイル その1～15	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは、毎回、ポータルにアップロードされます。また必要な資料も、pdf形式やパワーポイント形式でポータルの授業共有ファイルにアップロードされます。それらを参考文献としてください。</p>		
学びの手立て	<p>毎時間、授業共有ファイルにアップロードされる電子ファイルを参照すること。</p>		
評価	<p>試験： 90%                  提出物： 10%                  授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>最適化概論。専門演習。情報処理システム演習。卒業論文演習。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	2年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 様々な経済データを利用してExcel計算を行う。表計算を通じ、分散・標準偏差・相関係数・回帰分析の計算の仕組みを理解する。データ分析機能を使ったExcelの計算方法を使いこなす。	メッセージ 初学者を対象にした演習です。Excelを使った経済学の学習に興味を持つ、きっかけを作っていきます。
	到達目標 分散・標準偏差の計算結果を説明できる。 相関係数・回帰分析の計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	Excelの基本操作
	3	基本統計量①：計算
	4	基本統計量②：計算結果の理解
	5	分散・標準偏差の計算の仕組み①：表計算
	6	分散・標準偏差の計算の仕組み②：様々なデータによる計算
	7	相関分析①：データ分析機能による計算
	8	相関分析②：表計算
	9	相関分析③：様々なデータによる計算
	10	学習内容の復習1
	11	回帰分析①：データ分析機能による計算
	12	回帰分析②：表計算
	13	回帰分析③：様々なデータによる計算
	14	学習内容の復習2
15	学習内容の復習3	
16	4年次卒業論文発表会	
	時間外学習の内容	
	シラバスを読んでおく。	
	絶対参照・複合参照の復習。	
	データ分析の設定を復習する。	
	統計量の概念を復習する。	
	計算の仕組みを復習する。	
	計算の仕組みを理解する。	
	相関係数の概念を復習する。	
	計算の仕組みを復習する。	
	計算の仕組みを理解する。	
	計算結果を説明する。	
	回帰分析の概念を復習する。	
	計算の仕組みを復習する。	
	計算の仕組みを理解する。	
	計算結果を理解する。	
	学習内容を大まかに理解する。	
	最終的な到達目標を知る。	
	テキスト・参考文献・資料など	
	テキストは使用しない。教材プリントを配布して解説する。	
	参考文献 [1] 浅利一郎・土井英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。 [2] 唐渡広志『44の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2013年。 [3] 山本拓・竹内明日香『入門 計量経済学 - Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。	
	学びの手立て	
	①履修の心構え：講義中のスマートフォンの操作は減点とする。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。 ②学びを深めるために：Excel計算とWord記述の学習内容をつなげることが重要である。Excel計算の手順、Word記述の内容を、講義時間「外」に確認しなおすことで到達目標の達成を目指す。 課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。	
	評価	
	提出課題60%：到達目標の達成度を測る。 実習状況20%：基本統計量・相関係数・回帰分析のExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 金融経済について、①データを使って、②Excelに計算させて、調べる演習を続けます。 関連科目として、「産業情報分析Ⅰ・Ⅱ」、「金融経済論」、「国際金融論」、「応用ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」を受講しておくとうまいでしょう。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	授業終了後に教室で受付けます。それ以外は研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習の目的は、地域の振興で財政がどのように関わっていくのか、どのような役割を果たすべきなのかについて研究することです。沖縄県は、地域経済と自治体財政が深い関係にあります。まず、わが国経済の動向を学習した後、沖縄県経済について学習します。次に、沖縄の振興と財政の役割について学習します。	身近な沖縄県の経済、産業について学び、さらに経済や地域を振興していくにはどうすればよいかいっしょに考えていきましょう。
到達目標	①基本的な情報収集力、情報の取捨選択力を見につける ②取捨選択した情報を読み取る能力を身につけ、テーマを設定する力をつける ③課題レポートに取り組み、テーマ設定、論理展開力、プレゼンテーション力を高める	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	専門演習基礎の概要説明	配布資料を復習する
	2	日本経済の概要①	参考文献①を読む
	3	日本経済の概要②	参考文献①を読む
	4	沖縄県経済の概要①	参考文献②、③を読む
	5	沖縄県経済の概要②	参考文献②、③を読む
	6	沖縄県経済の概要③	参考文献②、③を読む
	7	地域振興と財政①	参考文献④P105-P119を読む
	8	地域振興と財政②	参考文献④P105-P119を読む
	9	沖縄振興計画①	参考文献④P105-P119を読む
	10	沖縄振興計画②	参考文献④P105-P119を読む
	11	プレゼンテーションの要領①	プレゼンテーションの準備を行う
	12	プレゼンテーションの要領②	プレゼンテーションの準備を行う
	13	プレゼンテーション①	プレゼンテーションを行う
14	プレゼンテーション②	プレゼンテーションを行う	
15	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う	
16	プレゼンテーションの総括	成果と課題を確認する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>第一回の演習の時間に説明します。資料は印刷物、PDFファイルとして配布する予定です。</p> <p>①『経済財政白書』内閣府、各年版 ②『沖縄県経済の概況』内閣府、各年版 ③『沖縄：新たな挑戦 経済のグローバル化と地域の繁栄 世界の目を沖縄へ 沖縄の心を世界へ』嘉数啓著、沖縄振興開発金融公庫 ④『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>①授業中の私語、 아이폰等の機器の使用はやめてください。 ②日頃から、日本経済や沖縄県経済の情報について関心をもってください。新聞やテレビ、インターネット上に有益な情報があります。</p>		
評価	授業参加度60%、課題の提出状況20%、プレゼンテーションの内容20%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 パブリックファイナンス、地域財政論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行う。 (1) テーマ絞り込みのための調査研究 (2) テーマに沿った研究	メッセージ 各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について切磋琢磨すること。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 テーマに沿った研究成果の報告書の提出。2月末。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 9月～11月：テーマに沿った調査研究を行い、2～3度、プレゼンテーションをしてもらう。 12月～2月：テーマに沿った研究成果の報告書を提出する。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った、資料など。
	学びの手立て 常に最新技術動向やグローバル社会について関心を払うこと。
	評価 授業態度：50%。提出物：25%。プレゼンテーション：25%。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ、Ⅱ。卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ。
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、情報技術に関する基礎知識をベースとして、デジタル技術を活用したコンテンツ制作及びメディア表現（コンピュータグラフィックス、映像メディア、Web技術、デザイン等）に必要な知識と技能習得を目的とする。	【実務経験】3DCG制作の実務経験を活かし、CG技術ならびにメディア等の関連技術に関する演習を行う。本演習では、コンテンツ制作に必要な基礎知識ならびに技術習得を目指すため、講義外での取り組みが必要となる。また資格取得などに積極的に取り組むこと。
到達目標	情報技術及びメディア等に関する基礎技術を学び、デジタルコンテンツ制作に必要な基本技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	メディア概論	講義の理解及び復習
	3	メディア表現演習 (1) 基礎技術と表現	講義の復習・演習課題作成
	4	メディア表現演習 (2) 応用課題	講義の復習・演習課題作成
	5	コンピュータグラフィックス概論	講義の理解及び復習
	6	コンピュータグラフィックス基礎 (基礎技術と機能)	講義の復習・演習課題作成
	7	コンピュータグラフィックス応用 (表現と活用)	講義の復習・演習課題作成
	8	開発環境と技術 (開発プロセスと機能)	講義の復習・演習課題作成
	9	基礎技術 (条件とアニメーション実装)	講義の復習・演習課題作成
	10	技術の応用 (UIとシステム構築)	講義の復習・演習課題作成
	11	Web技術と表現 (1) 基礎技術	講義の復習・演習課題作成
	12	Web技術と表現 (2) 動的表現	講義の復習・演習課題作成
	13	Web技術と表現 (3) システムと応用	講義の復習・演習課題作成
14	技術とデザイン (1) 基礎技術	課題制作	
15	技術とデザイン (2) 応用課題	課題制作	
16	総括・発表プレゼンテーション		
テキスト・参考文献・資料など	初回の講義で周知する。		
学びの手立て	個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。		
評価	評価は、平常点 (20%) 及び課題への取り組みや成果等 (80%) を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「専門演習 I」, 「専門演習 II」がある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。また在学中に専門演習ⅠⅡおよび卒業論文演習ⅠⅡの履修や卒業論文の作成に役立つように、そのような能力の向上を目標とする。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1～2回、また適宜懇親会を行います。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文献の輪読や討論を通じて、ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身につける。</li> <li>(2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。</li> <li>(3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身につけ、分析力を高める。</li> </ul>
------	--

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	輪読・討論1（論理的な考え方）
	3	輪読・討論2（論理的な考え方）
	4	輪読・討論3（論理的な考え方）
	5	輪読・討論4（論理的な考え方）
	6	輪読・討論5（論理的な考え方）
	7	輪読・討論6（論理的な考え方）
	8	輪読・討論7（論理的な考え方）
	9	データ分析1（相関関係分析）
	10	データ分析2（相関関係分析）
	11	データ分析3（相関関係分析）
	12	データ分析4（因果関係分析）
	13	データ分析5（因果関係分析）
	14	データ分析6（因果関係分析）
15	研究テーマ発表	
16	総括	
		時間外学習の内容
		予習、発表内容の準備
		予習、発表内容の準備
		予習、発表内容の準備
		予習、発表内容の準備
		予習、発表内容の準備
		予習、発表内容の準備
		学習した内容の復習
		学習した内容の復習
		学習した内容の復習
		学習した内容の復習
		学習した内容の復習
		発表内容の準備

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ①前半：西村克己『「図解」問題解決力が身につく！論理的な考え方』PHP研究所。 ②後半：プリントやPDFなど電子ファイルで配布する。関連参考図書は適宜紹介する。
-------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 情報処理基礎科目を履修し、パソコン操作、Word、Excel、Powerpointの基本操作に慣れてほしい。</li> <li>(2) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。</li> <li>(3) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。</li> </ul>
--------	---

評価	平常点：60%（普段の学習態度、学習状況など）、発表点：40%（文献輪読当番の資料作成や発表状況など）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次の専門演習ⅠⅡ
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能の基礎部分を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<p>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通知する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
2	グレーボクシング・アセットのインポート	教科書 pp. 57-106・課題の実施	
3	メッシング・ブループリント	教科書 pp. 107-140・課題の実施	
4	アクタの動かし方・キャラを動かす	教科書 pp. 141-206・課題の実施	
5	スケルトルメッシュ・物理アセット	教科書 pp. 207-236・課題の実施	
6	トリガー・タイムライン	教科書 pp. 237-272・課題の実施	
7	カスタムイベント・生と死	教科書 pp. 273-302・課題の実施	
8	リワード・物理エンジン	教科書 pp. 303-354・課題の実施	
9	コリジョン・ナビゲーション	教科書 pp. 355-394・課題の実施	
10	AI・スケルトルメッシュアニメーション	教科書 pp. 395-452・課題の実施	
11	マテリアルエディタ	教科書 pp. 453-496・課題の実施	
12	パーティクルシステム・ライティング	教科書 pp. 497-546・課題の実施	
13	BGMと効果音	教科書 pp. 547-576・課題の実施	
14	自主製作	課題の実施	
15	発表会（1）	課題の実施	
16	発表会（2）	課題の復習	
テキスト・参考文献・資料など	講義時に指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通知する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、3年次の専門演習 I（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>		
評価	各課題（100%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である、専門演習 I，専門演習 II，卒業論文演習 I，卒業論文演習 IIへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	2年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、4年次の卒業論文制作に向けての第1段階となる。まず、情報技術全般に関する基本的な知識を学び、資格取得に向けた対策を行う。目標とする資格としては、「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」を設定している。この試験と連動した形で講義を進め、情報技術を学ぶ。講義後半では、3年次の専門演習に向けた個別テーマを決定する。</p> <p>到達目標</p> <p>基本的な情報技術（プログラミング、データベース、ネットワーク関連等）の知識を得て、自分で個別テーマの選定をできるレベルまで引き上げる。どのようなツールや技術を用いれば、どのような事ができるのかなど、ウェブアプリケーションやスマホ・タブレット用のアプリ開発などの準備や手順確認などを自力でできるようにする。</p>	<p>1年、2年前期で学んだ情報技術および経済経営の知識を生かして、より実践的なアプローチをスタートさせる。積極的に講義参加する姿勢が重要である。高いモチベーションを持って望んで欲しい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ウェブサイト等のアカウント作成
	2	情報処理技術基礎 1	課題問題
	3	情報処理技術基礎 2	課題問題
	4	情報処理技術基礎 3	課題問題
	5	システム設計とは？	内容の復習
	6	プログラミングの課題 1	内容の復習
	7	プログラミングの課題 2	内容の復習
8	プログラミングの課題 3	課題レポート	
9	データベース設計 1	内容の復習	
10	データベース設計 2	内容の復習	
11	データベース設計 3	内容の復習	
12	データベース設計 4	課題レポート	
13	ネットワーク関連技術 1	内容の復習	
14	ネットワーク関連技術 2	課題レポート	
15	個別テーマの設定	個別テーマプレゼン準備	
16	個別テーマ提案プレゼン	プレゼンの考察	
テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。			
<p>学びの手立て</p> <p>卒業研究のテーマ選びがこの講義のメインテーマである。そのためには、色々な知識や技術を修得しなければならない。様々な技術やツールを学び、次のステップに進んで欲しい。</p>			
<p>評価</p> <p>評価は課題レポート40%、プレゼンテーション10%、資格取得および模擬試験50%で判断する。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義で得た知識や技術をベースに3年次の専門演習 I および専門演習 II での個別研究を進めていく。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	2年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	一般的に、就職活動はゼミ活動とは別に行いますが、このゼミでは同時に行います。【ゼミ活動＝就職活動】と位置付け、就職活動に必要な書類作成、自己分析、業界研究などを行い、就職活動を通じて卒業研究の準備を行うことを目指します。	この授業では、まず、小論文の指導を行います。これにより、報告書や卒業論文の作成に必要な文章力を養ってもらいます。その後、自己分析の方法と自己PRの書き方を指導します。しっかり課題をこなしながら、卒業後の進路について検討してください。春期休暇はインターンシップへの参加を奨励します。
到達目標	①小論文の書式を覚え、論拠を踏まえた持論展開ができる（小論文で評価） ②自分の強みと弱みを踏まえ、説得力のある自己PRを書くことができる（自己PRで評価） ③研究・就職活動を進めるために、業界研究やインターンシップの計画を立案できる（研究計画書で評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／チームビルディング	自己紹介の準備をしておく
	2	学外活動①：視察・見学（ゼミ合宿を兼ねたフィールドワーク）	フィールドワークの準備をしておく
	3	学外活動②：ヒアリング（ゼミ合宿を兼ねたフィールドワーク）	活動報告書を作成する
	4	小論文の書き方（講義）	小論文の書式と論述方法を覚える
	5	小論文の添削	小論文を完成させる
	6	小論文の発表	発表の準備をしておく
	7	自己分析の方法（講義）	自己分析の方法を覚える
	8	自己分析と他者分析	他者分析から自己分析を完成させる
	9	自己PRの書き方（講義）	自己PRの書き方を覚える
	10	自己PRの添削	自己PRを完成させる
	11	自己PRの発表	発表の準備をしておく
	12	業界研究の方法について（講義）	志望する業界を絞り込んでおく
	13	業界研究の実施	業界研究を開始する
	14	研究計画書の書き方（講義）	専門演習に向けた研究計画を立てる
15	成果報告会／総括	研究計画を完成させる	
16			

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の研究テーマに合わせて適宜紹介します。

学びの手立て  
 ●この授業では、授業日を休日に振り替えて学外活動を行うことがあります。この学外活動も授業なので、休まず参加してください。また、学外活動はチームワークであるため、その評価は参加した受講者同士で相互に行ってもらいます。チームの一員として、積極的に取り組んでください。学外活動の費用は、大学から一定額の補助がありますが、超過分は個人負担となります。  
 ●学内での授業は、講義と演習です。講義の回では演習用の課題の作成方法を説明し、演習の回では作成した課題の添削や指導を行います。つまり、課題は授業外学習で作成してくることを前提としており、授業内で課題を行う時間は設けていないので、必ず授業日までに課題を作成しておいてください。

評価  
 ①小論文20%（教員による添削指導）  
 ②自己PR20%（教員による添削指導）  
 ③研究計画書20%（教員による添削指導）  
 ④学外活動40%（受講者による相互評価）

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 関連科目：専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ  
 次のステージ：専門演習Ⅰ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522) オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>講義当初はハードウェア、ソフトウェアに関する基本的な知識および技術の習得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格の取得を期待します。また本演習は、続く「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」の基盤を形成する大切な科目であることに留意してもらいたいと考えます。</p>	<p>毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、演習時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。</p>
到達目標	<p>①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解、配布資料の熟読
	2	コンピュータ・グラフィックス①（基礎的な技術）	配布資料及びテキストの熟読
	3	コンピュータ・グラフィックス②（企業システムへの応用）	講義の振り返り、レポート作成
	4	マルチメディア①（基礎的な技術）	配布資料及びテキストの熟読
	5	マルチメディア②（企業システムへの応用）	配布資料及びテキストの熟読
	6	システム部門で必要とされるハードウェアの知識①	配布資料及びテキストの熟読
	7	システム部門で必要とされるハードウェアの知識②	講義の振り返り、レポート作成
	8	データベース・システム①（基礎的な技術）	配布資料及びテキストの熟読
	9	データベース・システム②（企業システムにおけるDBの役割）	講義の振り返り、レポート作成
	10	データベース・システムの設計	配布資料及びテキストの熟読
	11	データベース・プログラミング①	プログラミング課題への取り組み
	12	データベース・プログラミング②	プログラミング課題への取り組み
	13	システム部門で必要とされる情報セキュリティの知識	配布資料及びテキストの熟読
14	企業内ネットワーク・システムの知識	配布資料及びテキストの熟読	
15	企業内情報システムの問題解決技法	配布資料及びテキストの熟読	
16	データの集計と統計処理技法	配布資料及びテキストの熟読	
テキスト・参考文献・資料など	<p>適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。                  栢木 厚『イメージ&amp;クレーパー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室』技術評論社                  城田 比佐子『情報処理教科書 出るところだけ! ITパスポート』翔泳社                  五十嵐 聡『ITパスポートパーフェクトラーニング過去問題集』技術評論社</p>		
学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。                  ② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の講義に必ず持参して下さい。                  ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。                  ④ 演習内容に関する疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>		
評価	<p>演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(10%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)、各種情報関連資格の取得状況等(10%)に基づき総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習に続く科目としては、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」となりますが、最終的な目標となる「卒業論文演習Ⅱ」におけるシステム開発を必須とする卒業論文の執筆・製本、卒業論文成果発表会への参加を常に念頭に置いてもらいたいと考えます。</p>
-------	---



※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	2年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>計算機の高機能低価格化およびインターネットの普及にともない、業務の効率化や顧客サービスの充実を実現する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものとなっている。また、近年の複雑化した経済状況を分析する上でも情報処理技術は必須だと言える。本演習では、受講生がシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目的とする。</p>	<p>本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、システム設計の重要性、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。</p>
到達目標	システム開発プロセスについて理解し、Webシステムおよびスマホアプリの開発に必要な技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/受講受付	演習課題の整理
	2	演習課題(i)の設定	要件定義の調査/演習課題の整理
	3	要件定義	基本設計の調査/演習課題の整理
	4	基本設計	詳細設計の調査/演習課題の整理
	5	詳細設計	テストの調査/演習課題の整理
	6	開発テスト	演習課題の整理
	7	コーディング	演習課題の整理/発表資料の作成
	8	発表会(i)および演習課題(ii)の設定	レイアウトの調査/演習課題の整理
	9	スマホアプリのレイアウト	UIの調査/演習課題の整理
	10	スマホアプリのUI	画像表示の調査/演習課題の整理
	11	スマホアプリの画像表示	画面遷移の調査/演習課題の整理
	12	スマホアプリの画面遷移	データ管理の調査/演習課題の整理
	13	スマホアプリのデータ管理	デバイス制御調査/演習課題の整理
14	スマホアプリのデバイス制御	演習課題の整理/発表資料の作成	
15	発表会(ii)	演習課題の整理	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料</p> <p>(1) 高橋麻奈 著 「やさしいJava」, ソフトバンク</p> <p>(2) 永田順伸 著 「PHP7+MariaDB/MySQL マスターブック」, マイナビ</p> <p>(3) 大重美幸 著 「詳細!Swift4 iPhoneアプリ開発 入門ノート」, ソーテック</p>		
学びの手立て	<p>「履修の心構え」</p> <p>遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。</p> <p>「学びを深めるために」</p> <p>指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>		
評価	基本的に欠席は認めない。発表(4割), 演習課題(6割)で判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	次のステージとして「専門演習Ⅰ」, 「専門演習Ⅱ」がある。

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習基礎	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Processing (Javaベースのオープンソース統合環境) によるプログラミングを通して問題解決能力の養成, 基本的な情報技術に関する知識の習得を目指す。また, プログラミングのみならずフィジカルコンピューティングについても検討を行っていく。	メッセージ AR (拡張現実感), VR (仮想現実感) などのインタフェースについても検討を行います。 最後には各自で課題作成に取り組み, ゼミ内で発表会を行います。
	到達目標 Java/Processingに関する一般的な知識を有し, 小規模なプログラムが適切に書ける。 AR/VRに関する一般的な概念を理解し, 簡単なシステムを構築できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書・参考書の内容確認
	2	Processing プログラミングの基礎 (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	Processing プログラミングの基礎 (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	Processing プログラミングの基礎 (3)	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	2Dグラフィック (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	2Dグラフィック (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	アニメーションと3Dグラフィック	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	イベント処理	課題作成・発表準備
	9	課題発表 (イベントを利用したアプリケーション)	課題作成・発表準備
	10	ライブラリの活用	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	Processing と外部機器の接続	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	ARプログラミング (1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	13	ARプログラミング (2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	14	個人製作によるシステムの企画・開発 (1)	課題作成・発表準備
15	個人製作によるシステムの企画・開発 (2)	課題作成・発表準備	
16	最終発表会		
	テキスト・参考文献・資料など 田所淳「Processing クリエイティブ・コーディング入門」技術評論社 (2017) 【参考文献】 近藤邦雄, 田所淳「ProcessingによるCGとメディアアート」講談社 (2018) Casey Reas 他「Processingをはじめよう 第2版」オライリージャパン (2016) 西田竜太「遊んで学ぶ はじめてのプログラミング (GAME DEVELOPER BOOKS)」秀和システム (2016) 橋本直「ARプログラミング Processingでつくる拡張現実感のレシピ」オーム社 (2012)		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので, 必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく, 参考文献も適宜調べること。 演習時間以外にも課外活動 (情報関連シンポジウム参加, 情報系ゼミの卒論発表会参加等) を紹介しますので, 積極的に参加するようにしましょう。		
	評価 評価は最終課題 (60%), 講義中の課題 (40%) の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」, 8割以上「優」, 7割以上「良」, 6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	一般的に、就職活動はゼミ活動とは別に行いますが、このゼミでは同時に行います。【ゼミ活動＝就職活動】と位置付け、就職活動に必要な書類作成、自己分析、業界研究などを行い、就職活動を通じて卒業研究の準備を行うことを目指します。	この授業では、まず就職を希望する業界を定め、研究・インターンシップの計画を立ててもらいます。その上で業界研究の方法を指導し、自主的に調査・分析に取り組んでもらいます。また、これらの結果を踏まえて志望する企業を見出し、適切な志望動機が書けるようになることを目指します。こうして、可能な限り早期に就職活動を始めてもらいます。
到達目標	①志望する業界を絞り込み、計画通りに業界研究やインターンシップを行うことができる（研究計画書と調査報告書で評価） ②業界研究の結果を踏まえ、説得力のある志望動機を書くことができる（志望動機で評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／チームビルディング	自己PR・紹介の準備をしておく
	2	学外活動①：視察・見学（ゼミ合宿を兼ねたフィールドワーク）	フィールドワークの準備をしておく
	3	学外活動②：ヒアリング（ゼミ合宿を兼ねたフィールドワーク）	活動報告書を作成する
	4	研究計画書と調査報告書の書き方（講義）	今学期の研究計画を立てる
	5	研究計画書と調査報告書の添削	各書類の書式と書き方を覚える
	6	志望動機の書き方（講義）	志望動機の書き方を覚える
	7	志望動機の添削	志望動機を完成させる
	8	志望動機の発表	発表の準備をしておく
	9	インターンシップ先の選定と参加に向けた準備	インターンシップ先を決定する
	10	インターンシップ先の調査の指導	インターンシップ先について調べる
	11	インターンシップ先の調査結果の発表	発表の準備をしておく
	12	業界研究の指導①：視察・見学（学外活動）	現地調査の準備をしておく
	13	業界研究の指導②：ヒアリング（学外活動）	調査報告書を作成する
	14	研究計画の指導	後期の研究計画を立てる
15	成果報告会／総括	今学期の調査報告書を作成しておく	
16			

## テキスト・参考文献・資料など

テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の研究テーマに合わせて適宜紹介します。

## 学びの手立て

- この授業では、授業日を休日に振り替えて学外活動を行うことがあります。この学外活動も授業なので、休まず参加してください。また、学外活動はチームワークであるため、その評価は参加した受講者同士で相互に行ってもらいます。チームの一員として、積極的に取り組んでください。学外活動の費用は、大学から一定額の補助がありますが、超過分は個人負担となります。
- 学内での授業は、講義と演習です。講義の回では演習用の課題の作成方法を説明し、演習の回では作成した課題の添削や指導を行います。つまり、課題は授業外学習で作成してくることを前提としており、授業内で課題を行う時間は設けていないので、必ず授業日までに課題を作成しておいてください。

## 評価

- ①研究計画書20%（教員による添削指導）
- ②志望動機20%（教員による添削指導）
- ③調査報告書20%（教員による添削指導）
- ④学外活動40%（受講者による相互評価）

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習基礎、専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ 次のステージ：専門演習Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を有し、  
解決力、創造力を養成します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	授業終了後に教室で受け付けます。それ以外は研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習 I では、沖縄県の経済、振興について基本的な知識を学び、レポートをまとめてプレゼンテーションを行います。各自でテーマをしばり、情報収集・整理・分析、論文作成、報告、質疑の能力をよりいっそう高めていきます。これによって4年次の卒業論文演習で論文をまとめる際の基本的事項を学びます。	沖縄県の経済や産業について学び、地域の振興をはかるにはどうするかいっしょに考えていきましょう。
到達目標	①学習した内容から、各自の研究テーマを設定する能力を身につける ②多くの情報の中から、自分にとって必要な情報を取捨選択する能力をつける ③レポート・論文計画を作成することにより、テーマの設定、論理展開、情報の取集・分析、情報をまとめる能力を身につける ④レポートの報告を通じて、プレゼンテーション、ディスカッションの能力を高める	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄県の経済①	参考文献③を読む
	2	沖縄県の経済②	参考文献④を読む
	3	沖縄振興計画①	参考文献①P105-P119を読む
	4	沖縄振興計画②	参考文献①P105-P119を読む
	5	沖縄振興計画③	参考文献①P105-P119を読む
	6	論文計画の作成①	各自で論文計画を作成する
	7	論文計画の作成②	各自で論文計画を作成する
	8	論文計画の作成③	各自で論文計画を作成する
	9	情報収集・整理・分析①	図書館・HPを利用して情報収集
	10	情報収集・整理・分析②	図書館・HPを利用して情報整理
	11	情報収集・整理・分析③	収集・整理した情報の分析を行う
	12	論文計画のプレゼンテーション①	論文計画のプレゼンテーション
	13	論文計画のプレゼンテーション②	論文計画のプレゼンテーション
14	論文計画の修正①	各自で論文計画を修正する	
15	論文計画の修正②	各自で論文計画を修正する	
16	演習の総括	論文計画の総点検を行う	
テキスト・参考文献・資料など	演習の時間に随時、参考文献を紹介し、また資料を配布します。 ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文社 ②『沖縄新たな挑戦経済のグローバル化と地域の繁栄 世界の目を沖縄へ 沖縄の心を世界へ』嘉数啓著、沖縄振興開発金融公庫 ③『沖縄経済の概況』内閣府HP、各年版 ④『県経済の見通し』沖縄県庁HP、各年版		
学びの手立て	①授業中の私語、 아이폰等の機器の使用はやめて下さい。 ②ゼミの連絡はメールで行いますが、きちんと確認してください。 ③沖縄県の経済、産業を中心として各自が取り組みたいテーマを絞っていきます。各自が関心のある分野を探つてテーマ設定を行ってください。		
評価	授業参加度50%、課題の取り組み状況30%、プレゼンテーション等20%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II、パブリックファイナンス、地域財政論 I・II
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習 I・II、卒業論文演習 I・II は、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 卒業論文演習までの全体の半分を終了する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了しています。今後、それに続いて、テーマに沿った調査・研究をし、専門演習 II に引き継ぎます。この専門演習 I でテーマを確立しておくことを勧めます。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った文献。論文など。
	学びの手立て まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。しっかりしましょう。
	評価 授業態度：50%。提出物：25%。プレゼンテーション：25%。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II。卒業論文演習 I、II
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	3年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。また在学中に専門演習Ⅱおよび卒業論文演習ⅠⅡの履修や卒業論文の作成に役立てるように、そのような能力の向上を目標とする。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1~2回、また適宜懇親会をやりませ。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身に付ける。</li> <li>(2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。</li> <li>(3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身に付け、分析力を高める。</li> <li>(4) プレゼンの能力を高める。</li> <li>(5) 卒業論文構想の確定。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	3	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	4	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	5	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	6	データ分析演習	当日学習した内容の復習
	7	データ分析演習	当日学習した内容の復習
8	データ分析演習	当日学習した内容の復習	
9	データ分析演習	当日学習した内容の復習	
10	研究テーマ関連の文献精査と輪番研究発表	文献精査、発表内容の準備	
11	研究テーマ関連の文献精査と輪番研究発表	文献精査、発表内容の準備	
12	研究テーマ関連の文献精査と輪番研究発表	文献精査、発表内容の準備	
13	研究テーマ関連の文献精査と輪番研究発表	文献精査、発表内容の準備	
14	研究テーマ関連の文献精査と輪番研究発表	文献精査、発表内容の準備	
15	卒論研究構想発表	発表資料の作成	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、必要な教材はプリントまたはPDFファイルを配布し、また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。</li> <li>(2) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。</li> </ul>		
評価	平常点：50%（普段の学習態度、学習状況など） 発表点：50%（発表の内容など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次の専門演習Ⅱ
-------	--------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、専門演習基礎で習得した技能、調査をもとに、各自がテーマを設定して個別の研究に取り組む。また、研究テーマに関連した専門知識の習得および研究計画に基づいた実践的な課題制作等に取り組む。	本演習では、個別の研究テーマに基づいた専門知識の習得、課題制作を行うため、講義外での取り組みが必要となる。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の研究テーマに基づいた、調査・研究を実施し考察する。</li> <li>・研究計画を立案し、課題制作に取り組む。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	研究テーマと資料収集 (1)	研究資料調査
	3	研究テーマと資料収集 (2)	研究資料調査
	4	研究テーマと資料収集 (3)	研究資料調査
	5	研究計画	研究計画の立案及び検討
	6	個別テーマに関する調査 (1)	計画に基づいた調査研究
	7	個別テーマに関する調査 (2)	計画に基づいた調査研究
	8	個別テーマに関する調査 (3)	計画に基づいた調査研究
	9	課題制作及び調査報告 (1)	計画に基づいた調査・課題制作
	10	課題制作及び調査報告 (2)	計画に基づいた調査・課題制作
	11	課題制作及び調査報告 (3)	計画に基づいた調査・課題制作
	12	課題制作及び調査報告 (4)	計画に基づいた調査・課題制作
	13	課題制作及び発表資料作成 (1)	発表資料の作成
	14	課題制作及び発表資料作成 (2)	発表資料の作成
15	研究成果中間発表		
16	総括		

テキスト・参考文献・資料など
講義内で適宜指定する。

学びの手立て
個別の研究テーマに関連した課題を設定し、計画性を持って主体的に取り組むこと。より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。

評価
評価は、平常点 (20%) 及び課題への取り組みや成果等 (80%) を総合的に判断する。

学びの継続
次のステージ・関連科目
関連科目：「専門演習 I」で設定した研究計画・テーマに基づいて、「専門演習 II」へと継続して取り組む。

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習基礎で身につけたプログラミング技能を基に、受講者が感心のある課題テーマに取り組む。	本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、システム設計の重要性、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。
到達目標	予備調査を実施した上での情報システムの企画、システム設計、コーディングおよびテストを学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習では、受講者の課題テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。</p> <p>（1週目）ガイダンス・担当スケジュールの調整</p> <p>（2-13週目）進捗報告 ～ 課題テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：課題テーマに関する取組</p> <p>（14週目）発表練習 時間外の学習内容：発表資料の作成</p> <p>（15週目）発表会 時間外の学習内容：課題成果物の整理</p> <p>（16週目）総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト 未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料 適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。発表(4割)、課題成果物(6割)で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「専門演習 II」がある。</p>
-------	--



※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい EPIC Games社のUnreal Engineを用いたゲーム開発を通し、VR・AR・MRについて学び基本技術の修得を目指す。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 VR・AR・MRの設計と実装について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	教科書・参考書の内容確認
	2	ゲーム作りの基本とUnrealEngineの基礎	基礎技術の習得・演習の復習
	3	UnrealEnigneno基本操作	基礎技術の習得・演習の復習
	4	ブループリント：フロア	基礎技術の習得・演習の復習
	5	ブループリント：キャラクター	基礎技術の習得・演習の復習
	6	キャラクターの状態設定	基礎技術の習得・演習の復習
	7	キャラクターのアニメーション	基礎技術の習得・演習の復習
	8	ゲーム内のルール設定	基礎技術の習得・演習の復習
9	AI機能：基本編	基礎技術の習得・演習の復習	
10	AI機能：応用編	基礎技術の習得・演習の復習	
11	UIの実装	基礎技術の習得・演習の復習	
12	課題作成：企画・開発（1）	課題作成	
13	課題作成：企画・開発（2）	課題作成	
14	課題作成：中間報告会	課題作成	
15	課題作成：企画・開発（3）	課題作成	
16	最終課題発表		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：荒川巧也「作れる！学べる！Unreal Engine4 ゲーム開発入門」翔泳社（2017） 参考書籍：・長谷川勇，佐藤達磨，南野真太郎「ゲームエンジニア養成読本」技術評論社（2017） ・湊和久「Unreal Engine 4で極めるゲーム開発」株式会社ポーンデジタル（2015） ・鈴木晃「C++でつくるUnreal Engineアプリ開発」ラトルズ（2018） ・株式会社ITAKO，大嶋 剛直，多久島信隆，河野修弘「Unreal Engine&Unityエンジニア養成読本」技術評論社（2017）		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 評価は最終成果物（60%），講義中の課題（40%）の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」，8割以上「優」，7割以上「良」，6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<p>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通告する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
2	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（1）	課題の実施	
3	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（2）	課題の実施	
4	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（3）	課題の実施	
5	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（4）	課題の実施	
6	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（5）	課題の実施	
7	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（6）	課題の実施	
8	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（1）	課題の実施	
9	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（2）	課題の実施	
10	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（3）	課題の実施	
11	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（4）	課題の実施	
12	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（5）	課題の実施	
13	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（6）	課題の実施	
14	発表会（1）	課題の実施	
15	発表会（2）	課題の実施	
16	発表会（3）	課題の復習	
テキスト・参考文献・資料など	適宜指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通告する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、次の専門演習Ⅱ（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>		
評価	論文（50%）、プレゼンテーション（50%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である専門演習Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習は、卒業論文の執筆、成果発表のための基本となる演習内容となります。具体的には、卒業論文の主題設定、研究資料の収集・整理、データの収集・解析を通し卒業論文に必要となる多岐にわたる情報の活用技術について学び、続く報告書の作成において論文執筆に向けた文章力の獲得、さらに報告書にてまとめ上げた内容の適切なプレゼンテーションによる発表力の養成にあたります。</p>	<p>毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、演習時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。</p>
	到達目標	
	<p>①研究資料の収集が的確に行える。 ②研究データの図形処理、統計処理が行える。 ③資料・データに基づいた報告書が作成できる。 ④報告書に基づく必要かつ十分なプレゼンテーションが行える。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解、配布資料の熟読
	2	研究資料の収集方法①	配布資料及びテキストの熟読
	3	研究資料の収集方法②	配布資料及びテキストの熟読
	4	研究資料の収集方法③	配布資料及びテキストの熟読
	5	データの整理と解析手法①	配布資料及びテキストの熟読
	6	データの整理と解析手法②	配布資料及びテキストの熟読
	7	データの整理と解析手法③	配布資料及びテキストの熟読
	8	資料に基づく調査結果報告①	当該演習の振り返り、報告書の作成
	9	資料に基づく調査結果報告②	当該演習の振り返り、報告書の作成
	10	資料に基づく調査結果報告③	当該演習の振り返り、報告書の作成
	11	資料に基づく調査結果報告④	発表練習とパワーポイントの作成
	12	資料に基づく調査結果報告⑤	発表練習とパワーポイントの作成
	13	専門演習 I 発表会①	発表練習とパワーポイントの作成
14	専門演習 I 発表会②	発表の振り返り、見直しと改善	
15	専門演習 I 発表会③	発表の振り返り、見直しと改善	
16	発表会の総括		
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤 望他「アカデミック・スキルズ(第2版)」慶應義塾大学出版会(2012)</li> <li>・柳川 範之「東大教授が教える独学勉強法」草思社文庫(2017)</li> <li>・野村 進「調べる技術・書く技術」講談社新書(2008)</li> </ul> <p>適宜、各自の取り組む課題にふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。</p>		
	学びの手立て		
	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</p> <p>② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。</p> <p>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</p> <p>④ 演習において生じた疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>		
	評価		
	<p>演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)に基づき総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習に続く科目としては、「専門演習Ⅱ」となりますが、最終的な目標となる「卒業論文演習Ⅱ」におけるシステム開発を必須とする卒業論文の執筆・製本、卒業論文成果発表会への参加を常に念頭に置いてもらいたいと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	一般的に、就職活動はゼミ活動とは別に行いますが、このゼミでは同時に行います。【ゼミ活動＝就職活動】と位置付け、就職活動に必要な書類作成、自己分析、業界研究などを行い、就職活動を通じて卒業研究の準備を行うことを目指します。	この授業では、就職活動を行い、採用試験や面接を経験しながら、それぞれの企業の特徴を調査してもらいます。調査結果は報告書にまとめ、データベース化します。こうして蓄積したデータは、4年次の卒業論文演習で分析して論文にまとめるため、そのつもりで調査を行い、正確で多面的なデータ収集を心がけてください。
到達目標	①就職活動を通じて企業分析を行い、企業の特徴を報告書にまとめることができる（調査報告書で評価） ②収集したデータをエクセルでデータベース化することができる（作成したエクセルBookで評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／夏期休暇活動の報告会	活動報告書を作成しておく
	2	学外活動①：視察・見学（ゼミ合宿を兼ねたフィールドワーク）	フィールドワークの準備をしておく
	3	学外活動②：ヒアリング（ゼミ合宿を兼ねたフィールドワーク）	活動報告書を作成する
	4	データ収集とデータベース作成の方法（講義）	データの集め方とまとめ方を覚える
	5	データ収集方法の指導	指定されたデータを収集する
	6	データベース作成の指導	エクセルでデータベースを作成する
	7	データ分析の指導（模擬データ使用）	データの分析方法を覚える
	8	業界研究の指導①：視察・見学（学外活動）	現地調査の準備をしておく
	9	業界研究の指導②：ヒアリング（学外活動）	調査報告書を作成する
	10	業界研究の見直し	これまでの方向性を検討する
	11	業界研究の指導	業界研究を進める
	12	自己PRの見直し	自己PRを改訂する
	13	志望動機の見直し	志望動機を改訂する
	14	研究計画の指導	卒業論文演習の研究計画を立てる
15	成果報告会／総括	今学期の調査報告書を作成しておく	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は各自の研究テーマに合わせて適宜紹介します。

学びの実践	学びの手立て
	<p>●この授業では、授業日を休日に振り替えて学外活動を行うことがあります。この学外活動も授業なので、休まず参加してください。また、学外活動はチームワークであるため、その評価は参加した受講者同士で相互に行ってもらいます。チームの一員として、積極的に取り組んでください。学外活動の費用は、大学から一定額の補助がありますが、超過分は個人負担となります。</p> <p>●学内での授業は、講義と演習です。講義の回では演習用の課題の作成方法を説明し、演習の回では作成した課題の添削や指導を行います。つまり、課題は授業外学習で作成してくることを前提としており、授業内で課題を行う時間は設けていないので、必ず授業日までに課題を作成しておいてください。</p>

学びの実践	評価
	①調査報告書20%（教員による添削指導） ②データ蓄積20%（教員による評価） ③平常点20%（就職活動の実施状況の評価） ④学外活動40%（受講者による相互評価）

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：専門演習基礎、専門演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ 次のステージ：卒業論文演習Ⅰ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	3年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「自分のテーマに沿った研究」を遂行すること以外にありません。	メッセージ 各自、鋭意自分の明らかにしたい、あるいは身につけたい技術について引き続き、自ら吸収し、切磋琢磨すること。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 自分のテーマに沿った専門演習のテーマを発表してもらいます。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習基礎で、テーマ絞り込みのための調査研究を終了しています。それに続いて専門演習Ⅰで、テーマに沿った調査・研究の概要を修了しています。それを専門演習Ⅱに引き継ぎ、研究発表をしてもらいます。</p> <p>その後、卒業年次の卒業論文演習Ⅰ・Ⅱにおいて、「論文」としてまとめてもらいます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自のテーマに沿った文献。論文など。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>まじめにコツコツやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。最新技術動向の調査研究から、技術の習得。あるいは各種統計データから導かれる結論について、積極的に取り組んで自らの解を得ること。</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度：50%。提出物：25%。プレゼンテーション：25%。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ、Ⅱ</p>
-------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「  
実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	3年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、「専門演習Ⅰ」で設定した個別の研究テーマの調査・研究を深め、更なる考察を行っていく。また、研究テーマに関連した専門知識の習得および研究計画に基づいた実践的な課題制作等に取り組み、4年次の「卒業論文演習Ⅰ」につなげていく。	本演習では、個別の研究テーマに基づいた専門知識の習得、課題制作を行うため、講義外での取り組みが必要となる。

到達目標	・個別の研究テーマに関する考察を深め、各自で設定した目標達成に向けて計画的に取り組む。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	開発環境の検討	開発環境の調査
	3	開発技術の整理	技術の検討・学習
	4	調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	5	調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	6	調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	7	進捗発表	発表資料作成
	8	調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	9	調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	10	調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	11	進捗発表	発表資料作成
	12	調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
	13	調査研究及び課題制作・進捗報告	調査研究・課題制作
14	進捗発表	発表資料作成	
15	発表資料及び課題等の作成	発表資料作成	
16	研究成果発表		
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜指定する。		
	学びの手立て		
	毎回、個別の研究テーマに関連した課題を設定し取り組むこと。 より知識を深めるために専門書籍や関連書籍を参考にすること。		
	評価		
	評価は、平常点（20%）及び課題への取り組みや成果等（80%）を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「専門演習Ⅱ」で取り組んだ研究テーマを深め、「卒業論文演習Ⅰ」へと継続して取り組む。
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高め、問題解決力、創造力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰで学習した沖縄県の経済、地域振興についてさらに掘り下げて学習していく。また卒業論文作成に向けて各自でテーマを絞り、情報収集、整理、分析を行い、論文計画を作成する。論文としてまとめる能力を高め、さらに報告や質疑を通じてディスカッションの能力を高めていく。	メッセージ 沖縄県の経済や産業について学び、地域振興をはかるにはどう対応したらよいかいっしょに学んでいきましょう。
	到達目標 ①テーマを設定し、テーマに沿って論理を展開する能力を高めます。 ②テーマに関連する情報を収集、整理、分析する能力を養います。 ③論文作成の基本事項を学びます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄県の経済①	参考文献③、④を読む
	2	沖縄県の経済②	参考文献③、④を読む
	3	沖縄振興計画①	政府関係HPで情報収集
	4	沖縄振興計画②	政府関係HPで情報収集
	5	沖縄振興計画③	政府関係HPで情報収集
	6	論文計画の作成①	論文計画を各自で作成
	7	論文計画の作成②	論文計画を各自で作成
	8	論文計画の作成③	論文計画を各自で作成
	9	論文関連情報の収集・整理①	各自で情報収集と整理
	10	論文関連情報の収集・整理②	各自で情報収集と整理
	11	論文関連情報の収集・整理③	各自で情報収集と整理
	12	論文関連情報の収集・整理④	各自で情報収集と整理
	13	論文計画のプレゼンテーション①	プレゼンテーションの準備と報告
	14	論文計画のプレゼンテーション②	プレゼンテーションの準備と報告
15	論文計画のプレゼンテーション③	プレゼンテーションの準備と報告	
16	演習Ⅱの総括	論文計画の総点検を行う	
	テキスト・参考文献・資料など 第一回の演習の時間に説明します。関連資料を演習の際に配布します。 ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、ミネルヴァ書房 ②『沖縄新たな挑戦 経済のグローバル化と地域の繁栄 世界の目を沖縄へ 沖縄の心を世界へ』嘉数啓著、沖縄振興開発金融公庫 ③『沖縄県経済の概況』内閣府、各年版 ④『県経済の見通し』沖縄県、各年版		
	学びの手立て ①演習中の私語、演習関連以外のHPの閲覧、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②ゼミの連絡は大学メールで行いますので、確認してください。		
	評価 授業の参加度50%、課題の取り組み状況30%、プレゼンテーションの内容等20%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (関連科目) パブリックファイナンス、地域財政論Ⅰ・Ⅱ (上位科目) 卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	3年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習Ⅰに引き続き、受講者が感心のある課題テーマに取り組む。	本演習ではシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目指すため、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。 【実務経験】システムエンジニアとしての経験を生かし、システム設計の重要性、運用・保守を見据えたシステム開発の重要性についても解説する。
到達目標	予備調査を実施した上での情報システムの企画、システム設計、コーディングおよびテストを学ぶこと。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本演習では、受講者の課題テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の課題テーマに取り組む。</p> <p>（1週目）ガイダンス・担当スケジュールの調整</p> <p>（2-11週目）進捗報告 ～ 課題テーマに関する取組の進捗報告～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：課題テーマに関する取組</p> <p>（12週目）発表練習 時間外の学習内容：発表資料の作成</p> <p>（13週目）発表会 時間外の学習内容：課題成果物の整理</p> <p>（14週目）研究論文の作成ポイント</p> <p>（15週目）社会人特別講話</p> <p>（16週目）総括</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキスト 未定（第一回目の講義で周知します）。</p> <p>参考文献・資料 適宜紹介します。</p>
学びの手立て	
<p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。</p> <p>「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>	
評価	
<p>基本的に欠席は認めない。発表(4割)、課題成果物(6割)で判断する。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習Ⅰ」がある。</p>
-------	--



※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	3年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 卒業研究を行うにあたり、基礎的な技術修得、ならびに、文献検索などの情報収集能力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	関連研究の調査
	3	関連研究の調査・報告（1）
	4	関連研究の調査・報告（2）
	5	個別報告（1）
	6	個別報告（2）
	7	個別報告（3）
	8	個別報告（4）
9	個別報告（5）	
10	個別報告（6）	
11	個別報告（7）	
12	個別報告（8）	
13	個別報告（9）	
14	個別報告（10）	
15	ゼミ内発表会（1）	
16	ゼミ内発表会（2）	
		時間外学習の内容
		研究テーマの検討
		調査研究
		調査研究
		調査研究
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		発表準備
		発表準備
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する 参考書籍： ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）	
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。	
	評価 評価は報告時のレポート・プレゼンテーション(80%)、講義中の課題(20%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅰ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。</li> <li>・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通知する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（1）	課題の実施
	3	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（2）	課題の実施
	4	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（3）	課題の実施
	5	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（4）	課題の実施
	6	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（5）	課題の実施
	7	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（6）	課題の実施
8	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（1）	課題の実施	
9	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（2）	課題の実施	
10	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（3）	課題の実施	
11	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（4）	課題の実施	
12	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（5）	課題の実施	
13	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（6）	課題の実施	
14	発表会（1）	課題の実施	
15	発表会（2）	課題の実施	
16	発表会（3）	課題の復習	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜指定する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通知する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> <li>・この演習の単位を取得していない場合、次の卒業論文演習Ⅰ（必修科目）への登録ができないため最大限の注意が必要である。</li> </ul>		
評価	論文（50%）、プレゼンテーション（50%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習は、後の必須科目である、卒業論文演習Ⅰ、卒業論文演習Ⅱへと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	3年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522) オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（基本情報処理技術者試験、ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を期待します。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、モノ作りに重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたいと考えます。	毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組み、情報処理関連資格の取得をはじめ、必ず成果を出すことができます。最後まで諦めずに頑張ってもらいたいと思います。また課題の進捗が思わしくない、あるいは何らかの問題が生じた場合には、講義時間での相談はもちろん、オフィスアワーあるいはメールを積極的に活用しその解決にあたってください。
到達目標	①情報技術に関する基礎力をつける。 ②情報技術の活用事例について理解する。 ③各種情報処理関連資格を取得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解、配布資料の熟読
	2	基本計画①・・・仕様書	配布資料及びテキストの熟読
	3	基本計画②・・・システム化計画書	配布資料及びテキストの熟読
	4	基本計画③・・・開発計画書	配布資料及びテキストの熟読
	5	外部設計の基本	当該講義内容の振り返り
	6	内部設計の基本	当該講義内容の振り返り
	7	プログラム設計の基本①	配布資料及びテキストの熟読
	8	プログラム設計の基本②	配布資料及びテキストの熟読
	9	モジュール化とインターフェイス	当該講義内容の振り返り
	10	処理手順のデザイン①	配布資料及びテキストの熟読
	11	処理手順のデザイン②	配布資料及びテキストの熟読
	12	設計内容の文章化①	配布資料及びテキストの熟読
	13	設計内容の文章化②	作成文書の校正と改善
14	設計文書のレビュー①	作成文書の校正と改善	
15	設計文書のレビュー②	発表の振り返りと見直し	
16	総括	発表の振り返りと見直し	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・羽生 章洋「はじめよう！プロセス設計～要件定義のその前に」技術評論社(2016)</li> <li>・羽生 章洋「はじめよう！要件定義～ビギナーからベテランまで」技術評論社(2015)</li> <li>・高安 厚思「システム設計の謎を解く 改訂版」SBクリエイティブ(2017)</li> </ul> 適宜、各自の取り組む課題に最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。以下、参考文献。		
学びの手立て	① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。 ② 作成中の課題、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。 ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。 ④ 演習において生じた疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。		
評価	演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)に基づき総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習は、「卒業論文演習Ⅰ」そして「卒業論文演習Ⅱ」に向けた基礎的な演習内容となっています。これを発展させシステム開発、卒業論文の執筆、卒業研究発表会でのプレゼンテーションまでを成し遂げてもらいたいと希望します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	3年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。また在学中に卒業論文演習ⅠⅡの履修や卒業論文の作成に役立てるように、そのような能力の向上を目標とする。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1～2回、また適宜懇親会をやりませ。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。また、就職活動に向けての情報収集（就職説明会などへの積極的な参加）。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身に付ける。</li> <li>(2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。</li> <li>(3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身に付け、分析力を高める。</li> <li>(4) プレゼンの能力を高める。</li> <li>(5) 卒業論文研究テーマや課題の確定、卒業論文の中間発表。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	卒業研究テーマの検討	文献精査、データの整理分析
	3	卒業研究テーマの検討	文献精査、データの整理分析
	4	卒業研究テーマの検討	文献精査、データの整理分析
	5	卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	6	卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	7	卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	8	卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	9	卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	10	卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	11	卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	12	卒業研究テーマ発表	文献精査、データ分析、発表準備
	13	卒業研究中間発表の取り組み	中間発表資料作成
14	卒業研究中間発表の取り組み	中間発表資料作成	
15	卒業研究中間発表	中間発表の準備	
16	総括		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しないが、必要な教材はプリントまたはPDFファイルを配布し、また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。</li> <li>(2) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。</li> </ul>		
	評価		
	平常点：50%（普段の学習態度、学習状況など） 発表点：50%（発表の内容など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の卒業論文演習Ⅰ
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	4年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する（知の発見）！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。また在学中に卒業論文演習Ⅱの履修や卒業論文の作成に役立てるように、そのような能力の向上を目標とする。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1～2回、また適宜懇親会をやりませ。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。また、積極的に就職活動を展開すること。
到達目標	(1) ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身に付ける。 (2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。 (3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身に付け、分析力を高める。 (4) プレゼンの能力を高める。 (5) 卒業論文の中間発表。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	3	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	4	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	5	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	6	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	7	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	8	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	9	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	10	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	11	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	12	卒業論文研究指導	文献精査、データの整理分析
	13	卒業論文中間発表の取り組み	中間発表資料作成
14	卒業論文中間発表の取り組み	中間発表資料作成	
15	卒業論文中間発表	中間発表の準備	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、必要な教材はプリントまたはPDFファイルを配布し、また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
学びの手立て	(1) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。 (2) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。		
評価	平常点：50%（普段の学習態度、学習状況など）、発表点：50%（発表の内容など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の卒業論文演習Ⅱ
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	4年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 また、論文演習なので、成果物として紙媒体とPDFで提出してもらいます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 イメージとしては、卒業論文演習までの全体の半分を終了する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎週、適宜報告をしてもらいます。また、プレゼンテーションも2回ほど行います。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った文献。論文など。
	学びの手立て 学びの手立て まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。 しっかりしましょう。
	評価 授業態度：50%。提出物：25%。プレゼンテーション：25%。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	4年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習 I、II において取り組んだ研究テーマを深く掘り下げ、研究の集大成となる卒業論文の作成および論文内容の更なる充実を図る。	メッセージ ・個別に設定した研究テーマについて主体的に取り組むこと。 ・演習時間外における活動（調査研究、開発、発表会等）も必要となるため計画的に取り組むこと。
	到達目標 ・個別に設定した研究テーマについて深く掘り下げ、卒業研究論文を作成する。 ・研究テーマに沿った課題の制作に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	卒業論文及び研究計画の作成	個別研究テーマに関する活動
	3	卒業論文及び研究計画の作成	個別研究テーマに関する活動
	4	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	5	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	6	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	7	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	8	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動
9	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
10	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
11	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
12	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
13	卒業論文作成及び進捗報告	個別研究テーマに関する活動	
14	発表資料及び課題等の作成	個別研究テーマに関する活動	
15	研究成果報告		
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・研究テーマに関連した課題を個別に設定し、専門演習 II で取り組んだ研究内容を掘り下げ、論文としてまとめる。		
	評価 評価は、平常点（20%）及び課題への取り組みや成果等（80%）を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージとして「卒業論文演習 II」がある。
-------	---

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を養い、自らの見解を論理的に論文としてまとめる能力を高めます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	4年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの演習(専門演習基礎、演習 I II)で論文のテーマ設定と論理展開、情報収集と分析、論文のまとめ方について学習してきました。これを基に、各自のテーマにそって卒業論文を作成していきます。卒業論文演習 I では、主にテーマの確定と情報収集、分析を中心として各自で論文をとりまとめ、中間報告とディスカッションを行い、卒業論文作成を進めていきます。</p>	<p>卒業論文の作成を通じて、自らの見解を論理的に展開し、論拠をもって論述する力を高めましょう。</p>
到達目標	<p>①テーマを設定し、テーマに沿って論理を展開する能力を身につけます                  ②テーマに関連する情報を取捨選択し活かす能力を身につけます                  ③卒業論文作成を通じて、論文を作成する基本事項を身につけます</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文のテーマ設定と論理展開①	各自でテーマと目次を検討
2	卒業論文のテーマ設定と論理展開②	各自でテーマと目次を検討	
3	卒業論文のテーマ設定と論理展開③	各自でテーマと目次を検討	
4	論文関連情報の収集と整理①	情報収集と整理を行う	
5	論文関連情報の収集と整理②	情報収集と整理を行う	
6	論文関連情報の収集と整理③	情報収集と整理を行う	
7	論文関連情報の収集と整理④	情報収集と整理を行う	
8	中間報告とディスカッション①	中間報告の準備と実施	
9	中間報告とディスカッション②	中間報告の準備と実施	
10	中間報告とディスカッション③	中間報告の準備と実施	
11	卒業論文作成①	各自で卒業論文作成	
12	卒業論文作成②	各自で卒業論文作成	
13	卒業論文作成③	各自で卒業論文作成	
14	卒業論文作成④	各自で卒業論文作成	
15	卒業論文作成⑤	各自で卒業論文作成	
16	卒業論文演習 II の総括	卒論の成果と課題を確認する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>第一回の演習の時間に参考文献、資料を紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>①演習時間の私語、授業と関係のないHPの閲覧、携帯電話の使用はやめてください。                  ②演習に関連する連絡は大学メールを通じて行います。必ず確認するようにしてください。                  ③欠席する場合は、メールで欠席とその理由を連絡して下さい。また欠席届を出してください。</p>		
評価	<p>授業参加度40%、卒論の進行状況確認40%、中間報告におけるプレゼンテーションの内容20%の割合で評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目                  (関連科目) パブリックファイナンス、地域財政論 I・II                  (上位科目) 卒業論文演習 II</p>
-------	---



※ポリシーとの関連性

産業社会の課題を分析し、自らの社会的責任を自覚し積極的に貢献  
できることを目的として、個別の卒業論文制作する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	4年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習基礎、専門演習 I・II および企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、個別テーマを選定し研究成果をプレゼンテーションにより公開したが、本演習では、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。	メッセージ 4年間学んできた知識や得た技術を使い、卒業論文を制作する。内容も重要であるが、その内容を人に伝える技術も大切である。よって、研究内容の成果プラスプレゼンテーション技術習得を求める。
	到達目標 現代社会における産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を有し、近未来に対する解決力・創造力を養うという目的のために、個別研究テーマを掘り下げて、多くの人達にプレゼンテーションを行い、自らの考えや成果を伝えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	卒業論文フォーマットダウンロード
	2	論文作成実習 1 (様式・書式等)	課題まえがきの作成
	3	論文作成実習 2 (過去の論文集考察)	まえがきの考察
	4	論文作成実習 3 (各自の論文構成)	論文プロトタイプ制作
	5	個別報告	開発およびプレゼン準備
	6	個別報告	開発およびプレゼン準備
	7	個別報告	開発およびプレゼン準備
	8	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
9	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
10	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
11	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
12	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
13	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
14	全体プレゼンテーション	論文制作およびプレゼン準備	
15	考察	考察を受けて課題の見直し	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に個別に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業に就くための準備を行い、個別研究テーマも連動させて自分の主張する事を自らの言葉でプレゼンテーションできることが重要である。4年間学んだことの集大成として卒業論文があるので、その内容を相手に効率良く短時間で伝える技術や熱意が必要である。		
	評価 個別テーマ報告の内容70%、プレゼンテーション30%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別研究テーマおよび将来目標に向けた準備を進め、後期開講の卒業論文演習 II につなげていく。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、大学での集大成となる卒業論文の作成を通じ、これまでの学びを総括すると同時に、社会人としての基礎力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 卒業論文演習 I	期別 前期	曜日・時限 月 1	単位 2
	担当者 大井 肇	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522) オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい 「専門演習基礎」から「専門演習Ⅱ」において習得した知識、技術の集大成となる卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公開します。本講義において研究テーマを選定し、研究計画を立案した後、先行研究調査、資料収集、言語選定と開発環境整備を行いながら、続く「卒業論文演習Ⅱ」に備えます。	メッセージ 【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、生活、企業、地域社会における諸課題をシステムにより解決することを目指す卒業論文の指導にあたります。毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、必ず卒業論文を作り上げることができます。最後まで諦めずに取り組んでもらいたいと考えます。
	到達目標 ・卒業論文のテーマに沿ったシステム開発が行える。 ・卒業研究発表会へ積極的に参加できる。 ・卒業論文を執筆し、製本する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文演習 I について	
	2	具体的な研究テーマの検討と決定①	様々な観点から熟考する。
	3	具体的な研究テーマの検討と決定②	様々な観点から熟考する。
	4	研究テーマのレビュー①	積極的に報告する。
	5	研究テーマのレビュー②	積極的に報告する。
	6	研究計画の立案①	様々な観点から熟考する。
	7	研究計画の立案②	様々な観点から熟考する。
	8	研究計画のレビュー①	積極的に報告する。
	9	研究計画のレビュー②	積極的に報告する。
	10	先行研究の調査と整理	自主的に取り組む。
	11	開発に用いる言語の選定	研究テーマとの関連を考慮する。
	12	開発環境の構築と整備①	積極的に取り組む。
	13	開発環境の構築と整備②	積極的に取り組む。
	14	開発に用いる言語の習得①	自主的に取り組む。
	15	開発に用いる言語の習得②	自主的に取り組む。
	16	開発に用いる言語の習得③	自主的に取り組む。
	テキスト・参考文献・資料など	適宜、各自の卒業論文のテーマに最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。	
	学びの手立て	① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。 ② 作成中の卒業論文、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。 ③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。 ④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。	
	評価	演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)に基づき総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習は、「卒業論文演習Ⅱ」に向けた演習内容となっています。これを発展させシステム開発、卒業論文の執筆、卒業研究発表会でのプレゼンテーションまでを成し遂げてもらいたいと希望します。
-------	---

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	4年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	調査結果・取組成果を文書として取りまとめる確に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の習得を目指す。	本演習では専門演習での取組を再調査し、プロトタイプとして構築したWebシステムを完成させる。また、調査した内容を統計的に整理し、検討した内容を論文として取りまとめる。したがって、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
到達目標	調査結果を統計的に整理・考察し、成果報告書の作成技法を学ぶこと。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、専門演習で取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。</p> <p>(1週目) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(2-15週目) 進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(16週目) 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト 未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料 適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
	<p>評価</p> <p>基本的に欠席は認めない。課題成果物（10割）で判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージとして「卒業論文演習 II」がある。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	4年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習Ⅰ・Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 テーマについて深く掘り下げて考察を行い、その内容をさらに深化させて卒業研究論文を作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス・テーマ報告
	2	雑誌・論文検索などの資料収集の復習
	3	個別報告（1）
	4	個別報告（2）
	5	個別報告（3）
	6	個別報告（4）
	7	個別報告（5）
	8	個別報告（6）
9	個別報告（7）	
10	個別報告（8）	
11	予稿作成	
12	予稿作成・添削	
13	発表予行演習（1）	
14	発表予行演習（2）	
15	卒論中間発表会（1）	
16	卒論中間発表会（2）	
		時間外学習の内容
		発表準備
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		調査研究・システム開発
		予稿作成・調査研究・システム開発
		予稿作成・調査研究・システム開発
		発表練習
		発表練習
		発表練習
		発表練習
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する 参考書籍： ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）	
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。	
	評価 評価は報告時のレポート・プレゼンテーション(80%)、議論への参加度(20%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習Ⅱ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	4 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学んでいく。</p>	<p>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通告する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびシステムの実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (1)	課題の実施
	3	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (2)	課題の実施
	4	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (3)	課題の実施
	5	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (4)	課題の実施
	6	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (5)	課題の実施
	7	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装 (6)	課題の実施
	8	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (1)	課題の実施
	9	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (2)	課題の実施
	10	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (3)	課題の実施
	11	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (4)	課題の実施
	12	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (5)	課題の実施
	13	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装 (6)	課題の実施
14	発表会 (1)	課題の実施	
15	発表会 (2)	課題の実施	
16	発表会 (3)	課題の復習	
テキスト・参考文献・資料など	適宜指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や課題の期限を守らない者、主体性のない者は講義途中で不可を通告する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> </ul>		
評価	論文 (50%) , プレゼンテーション (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習は、後の必須科目である卒業論文演習 II , および卒業論文発表へと関係するため、誠心誠意に取り組むこと。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	4年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 卒業論文の検証の対象になる、現実の実体経済の状況を大まかに理解する。 経済財政白書をはじめとする参考文献を読み進め、卒業論文のテーマの理解を深める。	メッセージ 現実の実体経済への興味から卒業論文の作業を持続できるよう、工夫します。
	到達目標 卒業論文で利用する分析手法の経済学的な考え方を説明できるようになる、卒業論文で利用する計量経済分析の考え方を説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	専門演習Ⅱの復習	ファイルから学習内容を復習
	3	データの観察と記述	参考文献[1]の第12章
	4	代表的な金融データの紹介	参考文献[1]の第13章
	5	卒業論文執筆事例の紹介	参考文献[3]の第10章
	6	経済財政白書の参照①	内閣府HP経済財政白書
	7	経済財政白書の参照②	内閣府HP経済財政白書
	8	卒業論文の分析対象の決定①	経済財政白書：内容の要約
	9	卒業論文の分析対象の決定②	経済財政白書：内容の要約
	10	卒業論文のテーマと経済学①	参考文献[1]・[3]の概要
	11	卒業論文のテーマと経済学②	参考文献：内容の要約
	12	卒業論文のテーマと経済学③	参考文献：内容の要約
	13	卒業論文のテーマと計量経済分析①	新しい手法の復習
	14	卒業論文のテーマと計量経済分析②	新しい手法を異なるデータで試算
15	卒業論文のテーマと計量経済分析③	新しい手法の理解	
16	夏期休暇中の作業へ		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社、2012年。[3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。 [4]山本拓・竹内明日香『入門 計量経済学 - Excelによる実証分析のガイド』新世社、2013年。		
	学びの手立て ①履修の心構え：講義中のスマートフォンの操作は減点とする。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。欠席した講義の実習は時間外学習で行うこと。遅刻・欠席が重なると卒業論文の執筆が大幅に遅れるので注意すること。 ②学びを深めるために：演習で解説した内容をもとに、参考文献を繰り返し読むこと。卒業論文の参考文献は、一度読むだけでは理解できないものが多いためである。 課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。		
	評価 提出課題50%：到達目標の達成度を測る。 実習状況30%：卒業論文の作業が進行しているかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活での金融経済に対する理解、そして「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのもよい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	4年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成のために必要な参考文献・資料・データを追加する。 卒業論文の完成のために必要な計量経済分析の修正を行う。	メッセージ 現実の実体経済への興味から卒業論文の作業を持続できるよう、工夫します。
	到達目標 卒業論文の作成，報告会での発表を通じて，実体経済の検証結果を自分の言葉で説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスを読んでおく。
	2	分析対象の再確認	経済財政白書を確認する。
	3	モデルの再確認	参考文献を確認する。
	4	グラフ記述の再確認①	計量経済分析につながるか確認。
	5	グラフ記述の再確認②	計量経済分析につながるか確認。
	6	計量経済分析の修正①	モデルに誤りがないか確認する。
	7	計量経済分析の修正②	モデルに誤りがないか確認する。
	8	計量経済分析の修正③	適切な計算結果を抽出する。
	9	計量経済分析の修正④	適切な計算結果を抽出する。
	10	計算結果の文章記述①	計算結果を文章化する。
	11	計算結果の文章記述②	計算結果を文章化する。
	12	結論の執筆①	計算結果を解釈する。
	13	結論の執筆②	計算結果を解釈する。
	14	パワーポイント作成①	卒論内容を視覚的にまとめる。
15	パワーポイント作成②	卒論内容を視覚的にまとめる。	
16	卒業論文発表会	プレゼンテーションの練習をする。	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。教材が必要な場合は，プリントを配布する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣，2007年。[2]羽森茂之『ベーシック計量経済学』中央経済社，2012年。[3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣，2013年。[4]山本拓・竹内明日香『入門 計量経済学 - Excelによる実証分析のガイド』新世社，2013年。		
学びの手立て	①履修の心構え：講義中のスマートフォンの操作は減点とする。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。欠席した講義の実習は時間外学習で行うこと。遅刻・欠席が重なると卒業論文の執筆が大幅に遅れるので注意すること。 ②学びを深めるために：演習で解説した内容をもとに，検証結果の文章作成を繰り返し「試みる」こと。卒業論文の文章作成は，一度で仕上げるできないためである。 課題の諸項目について，受講生の達成度を報告し，解説する時間を設ける。		
評価	提出課題50%：到達目標の達成度を測る。 実習状況30%：卒業論文作成のためのExcel計算ができるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているかを測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を，将来の実生活での金融経済に対する理解，そして「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのもよい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	4年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行いつつ、各自のテーマに沿って着実に研究を進める。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱは、各自のテーマに沿って、各自が自分自身に課すものです。指導教員と連絡を密に取る必要があります。 また、論文演習なので、紙媒体とPDFで研究成果を提出してもらいます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 卒業論文を作成し提出する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 毎週、適宜、報告をしてもらいます。また、プレゼンテーションを適宜してもらい、最終発表をしてもらいます。
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに沿った文献。論文など。
	学びの手立て 学びの手立て まじめにコツコツつやらないと、卒業論文演習に間に合わなくなります。自己管理による自己学習・研究です。 しっかりしましょう。
	評価 授業態度：20%。提出物：60%。プレゼンテーション：20%。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。

学びの継続	次のステージ・関連科目 就職
-------	-------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	4年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文演習Ⅰにおいて取り組んだ内容を深化させて、最終的な卒業研究論文を完成させる。	メッセージ ・個別に設定した研究テーマについて主体的に取り組むこと。 ・演習時間外における活動（調査研究、開発、発表会等）も必要となるため計画的に取り組むこと。
	到達目標 ・個別に設定した研究テーマについて深く掘り下げ、卒業研究論文を完成させる。 ・研究テーマに沿った課題の制作に取り組む。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	3	課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	4	課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	5	課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	6	課題制作・開発技術の習得	個別研究テーマに関する活動
	7	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
	8	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動
9	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動	
10	進捗報告	報告資料作成	
11	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動	
12	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動	
13	卒業論文作成	個別研究テーマに関する活動	
14	発表資料及び課題等の作成	発表資料作成	
15	研究成果発表		
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：講義時に指定する。 参考文献・資料など：講義時に紹介する。		
	学びの手立て ・研究テーマに関連した課題を個別に設定し、卒業論文演習Ⅰで取り組んだ研究内容を掘り下げ、論文としてまとめる。		
	評価 評価は、平常点（20%）及び課題への取り組みや成果等（80%）を総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎から専門演習（Ⅰ、Ⅱ）、卒業論文演習（Ⅰ、Ⅱ）を通して学んだ知識、習得した技術を統括し、卒業後の就業に活かす。
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業及び経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を養い、自らの見解を論文として論述する能力を高めます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	4年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文演習Ⅱでは、情報収集、整理、分析をさらに進め、具体的に論文を作成していきます。経過報告で論文の展開、進行状況を確認し、ディスカッションを通じてより良い論文となるよう取り組んでいきます。最終報告では、卒業論文の内容を報告、質疑を行い、プレゼンテーション、ディスカッション能力を高めます。	大学における学習の最終成果としての卒業論文をしっかりと完成させましょう。また、プレゼンテーション、ディスカッションの能力も身につけましょう。

到達目標	テーマ、論理構成のしっかりした論文を作成し、卒業論文の最終報告を通じて報告能力を高めます。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	情報収集・整理・分析と卒論作成①	各自で論文を作成する
	2	情報収集・整理・分析と卒論作成②	各自で論文を作成する
	3	情報収集・整理・分析と卒論作成③	各自で論文を作成する
	4	情報収集・整理・分析と卒論作成④	各自で論文を作成する
	5	情報収集・整理・分析と卒論作成⑤	各自で論文を作成する
	6	卒業論文の経過報告①	卒論の経過報告準備と実施
	7	卒業論文の経過報告②	卒論の経過報告準備と実施
	8	卒業論文の経過報告③	卒論の経過報告準備と実施
	9	卒業論文の経過報告④	卒論の経過報告準備と実施
	10	卒業論文の経過報告⑤	卒論の経過報告準備と実施
	11	卒業論文の修正①	各自で卒論の修正を行う
	12	卒業論文の修正②	各自で卒論の修正を行う
	13	卒業論文の修正③	各自で卒論の修正を行う
14	卒業論文の最終報告①	最終報告の準備と実施	
15	卒業論文の最終報告②	最終報告の準備と実施	
16	卒業論文の最終報告③	最終報告の準備と実施	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	第一回の演習の際に参考文献、資料等を紹介します。		
	学びの手立て		
	①演習時間の私語、演習に関係のないHPの閲覧、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②演習の連絡は大学メールを通じて行います。必ず確認するようにして下さい。 ③欠席する場合は、連絡して下さい。また欠席届を提出して下さい。		
	評価		
	授業参加度30%、卒論の進捗状況30%、卒論の最終提出と最終報告40%の割合で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文で学んだテーマ設定力、論理構成力、報告能力を実社会における生活や仕事の中で活かします。
-------	--

※ポリシーとの関連性

産業社会の課題を分析し、自らの社会的責任を自覚し積極的に貢献できることを目的として、個別の卒業論文制作する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安里 肇	4年	asato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文演習Ⅰに引き続き、卒業論文演習Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、最終的な卒業研究論文を完成させる。	メッセージ 4年間学んできた知識や得た技術を使い、卒業論文を制作する。内容も重要であるが、その内容を人に伝える技術も大切である。よって、研究内容の成果プラスプレゼンテーション技術習得を求める。
	到達目標 現代社会における産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を有し、近未来に対する解決力・創造力を養うという目的のために、個別研究テーマを掘り下げて、多くの人達にプレゼンテーションを行い、自らの考えや成果を伝えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	中間報告会での課題についての対応	中間報告会での課題についての対応
	3	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	4	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	5	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	6	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	7	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
	8	個別報告	論文制作およびプレゼン準備
9	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
10	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
11	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
12	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
13	個別報告	論文制作およびプレゼン準備	
14	卒業論文最終発表会	課題に対する対策検討	
15	全体考察	考察を論文に反映させる	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に個別に指定する。		
	学びの手立て 将来の職業に就くための準備を行い、個別研究テーマも連動させて自分の主張する事を自らの言葉でプレゼンテーションできることが重要である。4年間学んだことの集大成として卒業論文があるので、その内容を相手に効率良く短時間で伝える技術や熱意などが必要である。		
	評価 提出された卒業論文70%、個別報告およびプレゼンテーション30%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年間学んだ知識および技術より個別テーマを自ら選定し、自ら作成したスケジュールを基にして論文を作成し、多くの人達の前でプレゼンテーションを実施する。この経験により、問題発見力、分析力を身につけ、現代社会の情報化に対応し、近未来に対する解決力・想像力を得ることが可能となる。このような複合的、総合的能力を次のステージである卒業後の実社会において発揮することを希望する。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「解決力・創造力を養う」および「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する演習科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平良 直之	4年	産業情報学科 平良直之 授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。	メッセージ 本演習では専門演習での取組を再調査し、プロトタイプとして構築したWebシステムを完成させる。また、調査した内容を統計的に整理し、検討した内容を論文として取りまとめる。したがって、講義外での取り組みが必須となることを理解した上で受講して下さい。
	到達目標 調査結果を統計的に整理・考察し、成果報告書の作成技法を学ぶこと。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>本講義では、専門演習および卒業論文演習Ⅰで取り組んだ内容を基に、卒業研究として取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。</p> <p>(1週目) ガイダンス・担当スケジュールの調整 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(2-15週目) 進捗報告 ～ 研究テーマに関する取組の進捗報告 ～ 受講者全員の個別進捗および次週までの取組予定を報告(30分)した後、担当者の詳細な進捗報告を行い受講者全員で討論(60分)する。 担当者：予備調査の詳細結果ならびに取組進捗を報告し、現状の課題を説明する。 その他：予備調査が十分か、取組方向は適切か、などの観点から担当者の報告を整理・討論しフィードバックする。 時間外の学習内容：個別テーマに関する取組</p> <p>(16週目) 総括</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト 未定（第一回目の講義で周知します）。 参考文献・資料 適宜紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。毎回個別課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、図書館所蔵の専門書籍を適宜参考にすること。</p>
評価	基本的に欠席は認めない。卒業論文（10割）で判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージは、大学で学んだ知識・技能を就職先の業務に活かすことである。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	4年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習Ⅰ・Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。	メッセージ 原則として皆出席・無遅刻であること。 演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。 情報処理関連試験の取得に取り込むこと。
	到達目標 テーマについて深く掘り下げて考察を行い、その内容をさらに深化させて卒業研究論文を作成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・中間発表会の振り返り	資料整理・発表準備
	2	雑誌・論文検索などの資料収集の復習	調査研究・システム開発
	3	個別報告（1）	調査研究・システム開発
	4	個別報告（2）	調査研究・システム開発
	5	個別報告（3）	調査研究・システム開発
	6	個別報告（4）	調査研究・システム開発
	7	個別報告（5）	調査研究・システム開発
	8	個別報告（6）	調査研究・システム開発
	9	予稿作成・添削	予稿作成・調査研究・システム開発
	10	発表予行演習（1）	発表練習
	11	発表予行演習（2）	発表練習
	12	卒論最終発表会（1）	発表練習
	13	卒論最終発表会（2）	発表練習
	14	卒論作成	卒論作成
15	卒論作成・添削（1）	卒論作成	
16	卒論作成・添削（2）	卒論作成	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する 参考書籍： ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006） ・小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011） ・鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）		
	学びの手立て 「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 評価は卒業論文の完成度(50%)，報告時のレポート・プレゼンテーション(30%)，議論への参加度(20%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」，8割以上「優」，7割以上「良」，6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習を通して学んだ知識・技術をもとに今後は各自でさらに深化させていく。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、問題発見力・分析力、近未来に対する解決力・創造力の習得に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	4 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、卒業研究に要する技能を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学んでいく。</p>	<p>・漠然とではなく、常に目的を持って臨むこと。 ・演習には主体的な姿勢で臨むこと。そうでない者には講義途中で不可を通達する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認識の齟齬なく、相手と正確な意思伝達ができる。</li> <li>・研究計画が立案できる。</li> <li>・レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現した文書が作成できる。</li> <li>・研究に必要な情報技術の調査およびプログラムをはじめとした実装ができる。</li> <li>・自身の研究内容を論理的に説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（1）	課題の実施
	3	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（2）	課題の実施
	4	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（3）	課題の実施
	5	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（4）	課題の実施
	6	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（5）	課題の実施
	7	論文の書き方・進捗報告・サーベイ・システム実装（6）	課題の実施
8	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（1）	課題の実施	
9	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（2）	課題の実施	
10	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（3）	課題の実施	
11	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（4）	課題の実施	
12	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（5）	課題の実施	
13	プレゼンテーション・進捗報告・サーベイ・システム実装（6）	課題の実施	
14	発表会（1）	課題の実施	
15	発表会（2）	課題の実施	
16	発表会（3）	課題の復習	
テキスト・参考文献・資料など	適宜指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目のため皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。</li> <li>・授業に貢献しない者や欠席の多い者、主体性のない者は講義途中で不可を通達する。</li> <li>・情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習に取り組むこと。</li> <li>・書籍や情報機器の購入など、学習のための支出は惜しまないこと。</li> </ul>		
評価	論文（50%）, プレゼンテーション（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習までに学んだことを礎として、今後も学習に臨み、更なる知識と技術を身に付けていくこと。

※ポリシーとの関連性

本演習は、大学での集大成となる卒業論文の作成を通じ、これまでの学びを総括すると同時に、社会人としての基礎力を養成します。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	4年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522) オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「専門演習基礎」から「卒業論文演習Ⅰ」において習得した知識、技術の集大成となる卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公開します。「卒業論文演習Ⅰ」において作成された研究計画書に基づきシステム開発を行い、有用性をはじめとしたフィージビリティスタディを検証した後、卒業論文として整理し、卒業論文研究発表会に備えます。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマに沿ったシステム開発が行える。</li> <li>卒業研究発表会へ積極的に参加できる。</li> <li>卒業論文を執筆し、製本する。</li> </ul>	<p>【実務経験】応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、生活、企業、地域社会における諸課題をシステムにより解決することを目指す卒業論文の指導にあたります。毎回の演習に出席し、その都度与えられる課題に真摯に取り組めば、必ず卒業論文を作り上げることができます。最後まで諦めずに取り組んでもらいたいと考えます。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	卒業論文演習Ⅱについて	
		2	システム開発①	自主的にシステム開発にあたる。
		3	システム開発②	自主的にシステム開発にあたる。
		4	システム開発③	自主的にシステム開発にあたる。
		5	システム開発④	自主的にシステム開発にあたる。
		6	システム開発⑤	自主的にシステム開発にあたる。
		7	システムレビュー①	積極的にレビューに参加する。
		8	システムレビュー②	積極的にレビューに参加する。
	9	システムレビュー③	積極的にレビューに参加する。	
	10	卒業論文作成①	卒業論文を執筆する。	
	11	卒業論文作成②	卒業論文を執筆する。	
	12	卒業論文作成③	卒業論文を執筆する。	
	13	卒業論文作成④	卒業論文を執筆する。	
	14	卒業論文作成⑤	卒業論文を執筆する。	
	15	卒業論文中間発表会	積極的に発表し、評価を得る。	
	16	卒業論文研究発表会	積極的に発表し、評価を得る。	
	テキスト・参考文献・資料など	適宜、各自の卒業論文のテーマに最もふさわしいと考える書籍、資料を紹介します。読むべき書籍はかなりの冊数に上りますが、必ず購入あるいは入手し精読してもらいたいと思います。また私からの推奨以外においても、自ら進んで考え、自分のレベルに合った書籍を必要に応じて活用してもらいたいと考えます。		
	学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席の際は、できれば事前にメールを下さい。また翌週に、「欠席届け」を提出して下さい。</p> <p>② 作成中の卒業論文、プレゼン資料は、毎回の演習に必ず持参して下さい。</p> <p>③ 取り組んでいる課題の進捗が思わしくなければ、諦めずにさらに時間をかけて下さい。</p> <p>④ 卒業論文に関する疑問は決して放置せず、演習中の質問はもちろん、オフィスアワーあるいはメールにて、自ら積極的にその解消にあたって下さい。</p>		
	評価	演習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20%)、課題・レポート(40%)、割り当てられる各種報告(40%)に基づき総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	卒業論文の作成において、培った情報収集力、読解力、文章力、プレゼン力、システム開発力といった様々な能力を、社会人となって大いに発揮してもらいたいと思います。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	4年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ねらいは、「データ・情報を科学する(知の発見)！」です。将来、就職後に様々な職場において求められている論理的な思考力、情報の収集力、問題の発見力・分析力・解決力を身につける。	本演習では、皆で仲良く愉しく学ぶことをモットーとします。学外ゼミ合宿は年1~2回、また適宜懇親会をやりませ。勉強のみならず日常的なことでも気楽に相談できるように対応しています。また、積極的に就職活動を展開すること。

到達目標
(1) ビジネスに役立つ論理的な思考方法を身に付ける。 (2) インターネットを活用し、情報やデータの収集力を高める。 (3) 情報やデータを分析するパソコンソフトの操作技術を身に付け、分析力を高める。 (4) プレゼンの能力を高める。 (5) 卒業論文の作成。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	卒業論文研究指導	データの整理分析
	3	卒業論文研究指導	データの整理分析
	4	卒業論文研究指導	データの整理分析
	5	卒業論文研究指導	データの整理分析
	6	卒業論文研究指導	データの整理分析
	7	卒業論文研究指導	データの整理分析
	8	卒業論文研究指導	データの整理分析
	9	卒業論文研究指導	データの整理分析
	10	卒業論文研究指導	データの整理分析
	11	卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
	12	卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
	13	卒業論文最終発表の取り組み	発表資料の作成
	14	卒業論文最終発表	発表資料の準備
15	卒業論文内容の点検と原稿作成	卒業論文の作成	
16	卒業論文内容の点検と原稿作成	卒業論文の作成	

テキスト・参考文献・資料など
テキストは特に指定しないが、必要な教材はプリントまたはPDFファイルを配布し、また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介する。

学びの手立て
(1) 分からないことがあったら、必ず遠慮無く気軽に聞いてほしい。 (2) ゼミ生皆で積極的にコミュニケーションをとり、和気藹々の雰囲気を作ること。

評価
平常点：50%（普段の学習態度、学習状況など）、発表点：50%（発表の内容など）

学びの継続
次のステージ・関連科目 就職後の社会人としての活躍。または大学院などへの進学。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域産業概論	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	1 年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、地域産業の構造変化や振興のあり方について各種データなどを用いて概観する。具体的に前半では地域と産業の関わり方、地域の産業構造、産業の立地および集積などに関する基礎的理論を学ぶ。後半では沖縄を事例に、地域産業の実態および今日的課題について学ぶ。</p>	<p>目まぐるしく変化する現代社会において、将来的にどのような職種に就くにしても専門的な見地からの説明力（客観性）、自律性や問題解決力（実行力）は必須条件となっています。本講義を通してあらゆる情報を自分なりに読み解く、分析する力を養ってほしい。</p>
到達目標	<p>①専門性の確保：各種データ分析などから今起きていることを自ら整理し、それらを読み解くことで地域経済の個性（産業構造など）を読み解けるようにしたい。さらに地域経済の個性を牽引するものは何なのか、当該産業のみならずそれらを取り巻く環境（他者とのつながり）を踏まえたマクロ的な視点での分析力を身につけることができるようにしたい。</p> <p>②自律性と問題解決力の向上：毎回の講義テーマなどを通して、先述①の視点を踏まえた上で自らの考えをまとめながらアウトプットし、ビジネスシーンで求められる客観的な視点での提案力を培うことができるようにしたい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	地域と産業・経済	当日内容の復習
	3	地域と産業構造	当日内容の復習
	4	産業の立地	当日内容の復習
	5	産業集積	当日内容の復習
	6	産業ネットワーク	当日内容の復習
	7	産業クラスター	前半の復習
8	中間まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検	
9	沖縄の産業・経済の全体像	当日内容の復習	
10	沖縄の産業経済政策	当日内容の復習	
11	沖縄の産業構造	当日内容の復習	
12	沖縄の第一次産業	当日内容の復習	
13	沖縄の第二次産業	当日内容の復習	
14	沖縄の第三次産業	当日内容の復習	
15	まとめと復習	後半の復習	
16	期末テスト	期末テスト結果の点検	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しないが、講義時に必要な資料やデータを提供する。 参考文献：伊藤正昭『新版 地域産業論』学文社、田中史人『地域企業論』同文館出版、内田真人『現代沖縄経済論』沖縄タイムズ社など。</p>		
学びの手立て	<p>①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と無関係なこと（私語、スマートフォンの操作など）は減点となる。</p>		
評価	<p>平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習基礎、専門演習Ⅱ
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域財政論Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	授業後に教室で受け付けます。授業後は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>都道府県、市町村は国の財政と連携して福祉、教育、社会資本といった公共財を提供しており、国と地方公共団体の役割分担、財源の配分をどのようにするのが大きな課題となっています。また、地方公共団体の地域振興における役割が益々重要になってきています。講義では地方財政の基本的なしくみ、財政依存の高い沖縄県の財政と地域振興について学習します。</p>	<p>地方公共団体の財政や地域振興を理解することが重要になっています。講義で基本的なしくみを学び、皆さんの住んでいる市町村や沖縄県の財政や地域振興について理解を深めましょう。</p>
到達目標	<p>①地方財政の基本的なしくみを理解することができる ②財政依存の高い沖縄県の財政の実情について理解できる ③地域振興における地方公共団体の取り組みについて理解できる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域と財政①(地方財政について)	参考文献①P1-P10を読む
	2	地域と財政②(都道府県・市町村の役割)	参考文献①P1-P10を読む
	3	地方分権と国・地方の役割①	参考文献②P192-P206を読む
	4	地方分権と国・地方の役割②	参考文献②P192-P206を読む
	5	地域公共財①	配布資料を復習する
	6	地域公共財②	配布資料を復習する
	7	地方歳入について①(地方税、地方交付税)	参考文献①P42-P53を読む
	8	地方歳入について②(国庫支出金、地方債など)	参考文献①P42-P53を読む
	9	地方歳出について①(目的別歳出、教育費、民生費、土木費など)	参考文献①P31-P40を読む
	10	地方歳出について②(性質別歳出、義務的経費、投資的経費など)	参考文献①P31-P40を読む
	11	地方交付税による財源調整①	参考文献①P68-P78を読む
	12	地方交付税による財源調整②	参考文献①P68-P78を読む
	13	国庫支出金のしくみと課題①	参考文献P79-P91を読む
14	国庫支出金のしくみと課題②	参考文献P79-P91を読む	
15	沖縄県の財政と課題①	沖縄県HPの財政関係資料を読む	
16	沖縄県の財政と課題②	沖縄県HPの財政関係資料を読む	
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献は以下のとおりです。第一回の講義の時間にテキスト及び参考文献の紹介を行います。</p> <p>①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文社 ②『財政学』池宮城秀正編著、ミネルヴァ書房 ③『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス ④『地方財政白書』、総務省</p>		
学びの手立て	<p>①授業中の私語、携帯電話の使用はやめてください ②地方自治の制度を調べる場合は、比較的新しい参考文献を利用してください。また、地方財政を所管する総務省HP、都道府県、市町村のHPも参考になります。あるいは新聞報道などで実情を知ることができます。</p>		
評価	<p>授業参加度20%、課題レポートの提出状況10%、試験の結果60%の割合で評価します。試験については返却して解説します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域財政論Ⅱ、パブリックファイナンスなどの関連科目を履修すると経済や社会についての理解が深まります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域財政論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	3年	授業終了後に教室で受け付けます。それ以外 は研究室(5号館5536)で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域財政論Ⅰで学んだ地方財政の基本的なしくみの理解を基に、地方債、地方公営企業、第三セクター、都市の財政問題、高齢化と地方財政について取りあげます。次に地域振興と沖縄県の振興開発について取り上げます。地方公共団体の地域振興における役割や、沖縄振興の実情について学習します。	都道府県や市町村の役割が高まっており、これを理解することが重要になっています。皆さんの住んでいる市町村や、沖縄県の財政、地域振興について理解を深めましょう。
到達目標	①地方財政の基本的なしくみを理解することができる ②沖縄県の財政の実情について理解できる ③地域振興における地方公共団体の取り組みを理解できる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地方債による財源調達①	参考文献①P93-P104を読む
	2	地方債による財源調達②	参考文献①P93-P104を読む
	3	地方公営企業と第三セクターの課題①	参考文献③P303-321を読む
	4	地方公営企業と第三セクターの課題②	参考文献③P303-P321を読む
	5	都市財政①(わが国の都市の概況)	配布資料復習する
	6	都市財政②(都市化と財政重要)	配布資料を復習する
	7	高齢化と地方財政①(高齢化の現状と課題)	参考文献③P273-P299を読む
	8	高齢化と地方財政②(民生費の動向)	参考文献③P273-P299を読む
	9	財政分析①(自治体の財政分析の概要)	配布資料を読む
	10	財政分析②(沖縄県市町村の財政分析)	配布資料を読む
	11	沖縄県の財政①	内閣府HP、沖縄県HPの資料を読む
	12	沖縄県の財政②	内閣府HP、沖縄県HPの資料を読む
	13	地域振興と沖縄振興計画①	参考文献①P105-P119を読む
14	地域振興と沖縄振興計画②	参考文献①P105-P119を読む	
15	地域振興と沖縄振興計画③	参考文献①P105-P119を読む	
16	講義の総括	配布資料を復習する	
テキスト・参考文献・資料など	参考文献は以下の通りです。第一回の講義の時間にテキスト・参考文献について紹介します。 ①『国と沖縄県の財政関係』池宮城秀正編著、清文堂 ②『財政学』池宮城秀正編著、ミネルヴァ書房 ③『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス ④『地方財政白書』、総務省		
学びの手立て	①授業中の私語、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②「地域財政論Ⅰ」で地方財政の基本的なしくみを理解している前提で講義を進めます。 ③地方財政の制度を調べる場合は、新しい参考文献を利用して下さい。総務省のHPや県・市町村のHPも参考にして下さい。また、新聞報道からも財政の実情を知ることができます。		
評価	授業参加度20%、課題レポートの提出状況10%、試験60%の割合で評価します。 試験は返却して、解説をします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 パブリックファイナンス、ツーリズムビジネス論Ⅰ・Ⅱ、アジア経済論、環境資源経済論Ⅰ・Ⅱ、ビジネスエコノミクスⅠ・Ⅱなどを履修すると経済、産業についての理解がさらに深くなります。
-------	---

※ポリシーとの関連性 ツーリズム・ビジネスに係わる様々な理論とケースを学習することで、観光・サービス分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ツーリズムビジネス論 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 現代の観光産業を実質的に引っ張っていく様々なツーリズムビジネスの状況とその特徴に関して基礎的な知識を習得する。</p> <p>2. 世界の多様な観光目的地の環境と観光資源によって、ツーリズムビジネスはどのような違いがあるのかを理解する。</p>	<p>本講義はツーリズムビジネスにおいて多様な役割を果たしている主体が観光客に利便性と楽しさを伝えるためのどのような活動を行っているのかを説明します。</p>
到達目標	<p>1. 現在のツーリズムビジネスについての基礎的な知識を理解することになる。</p> <p>2. 観光目的地のツーリズムビジネスの特徴を学習することで、観光分野で活躍できるような力を得ることになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	I. 観光の重要産業：①旅行業	沖縄の旅行企業を調べる
	3	I. 観光の重要産業：②ホテル業	沖縄の高級ホテルを調べる
	4	I. 観光の重要産業：③航空輸送業	沖縄に就航する航空社を調べる
	5	I. 観光の重要産業：④テーマパーク	沖縄のテーマパークを調べる
	6	I. 観光の重要産業：⑤鉄道事業	日本の観光鉄道を調べる
	7	I. 観光の重要産業：⑤博物館・水族館・動物園	日本の重要博物館を調べる
	8	中間テスト	個別学習
	9	II. 地域主体の観光事業：①地域の観光まちづくり事業	沖縄の観光まちづくり事業を調べる
	10	II. 地域主体の観光事業：②観光地の集客イベント事業	沖縄の観光イベントを調べる
	11	II. 地域主体の観光事業：③サステナブル・ツーリズム	沖縄のEcoツーリズムを調べる
	12	II. 地域主体の観光事業：④リゾート事業	沖縄のリゾート特徴を調べる
	13	II. 地域主体の観光事業：⑤スポーツ・ツーリズムと集客都市	沖縄マラソン大会を調べる
14	II. 地域主体の観光事業：⑥インバウンドの観光事業	沖縄の観光統計を調べる	
15	学習内容のまとめ	個別学習	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>1. テキスト：高橋一夫・大津正和・吉田順一 編著『1からの観光 第1版』碩学舎、2010年。</p> <p>2. その他、読んでほしい資料は適宜授業で紹介いたします。</p>		
学びの手立て	<p>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。</p> <p>2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。</p>		
評価	<p>1. 出席・受講態度を積極的に反映します。 *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</p> <p>2. 中間テスト1回(場合によってレポートに振替)と期末テスト1回によって総合的に評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『観光マーケティング』や『サービス・マーケティング』のような科目を履修すると、さらに観光ビジネスや観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p> <p>次のステージ：『ツーリズムビジネスⅡ』</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 ツーリズム・マーケティングを学習することで、観光・サービス産業分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ツーリズムビジネス論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい ツーリズムビジネスにおいて、観光マーケティングの役割とその意義を学ぶとともに、新たな観光商品の開発・企画に関する演習を通じて観光産業で活躍できる実務的な感覚を身に付ける。	メッセージ 本講義では、日本または沖縄のツーリズムビジネスの発展に何が重要なのかを受講生と一緒に考えてみます。本講義は履修する受講生とともに日本または沖縄のツーリズムビジネスの将来について一緒に考えてみる時間です。
	到達目標 1. ツーリズムビジネスにおいて、観光マーケティングの必要性を理解できるようになる。 2. 日本または沖縄のツーリズムビジネスの将来において、新しい観光市場を創出するために必要な観光商品やサービスとは何かについて理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ツーリズム・マーケティングとは何か	授業資料を参考
	3	観光市場の細分化	授業資料を参考
	4	戦略的ポジショニングと目標市場	授業資料を参考
	5	パッケージング戦略	授業資料を参考
	6	パッケージ観光商品の調査：①調査方法(ガイダンス)	個別課題①
	7	パッケージ観光商品の調査：②個別発表	個別発表
	8	パッケージ観光商品の調査：③個別発表	個別発表
	9	新観光商品企画についてのガイダンス	グループ分け
	10	新観光商品企画：①新商品開発戦略についての概念とプロセス	グループ・ディスカッション
	11	新観光商品企画：②市場・環境分析	グループ・ディスカッション
	12	新観光商品企画：③観光市場需要予測	グループ・ディスカッション
	13	新観光商品企画の発表準備	グループ発表準備
	14	グループ発表Ⅱ	グループ発表準備
	15	グループ発表Ⅲ	グループ発表準備
	16	ツーリズム・ビジネスのまとめ	総合ディスカッション
	テキスト・参考文献・資料など 1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。		
	学びの手立て 1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。		
	評価 1. 出席・受講態度を積極的に反映します。 *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. 個別課題1回とグループ・レポート(発表)1回によって総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：『サービス・マーケティング』や『広告論』のような科目とともに履修すると、さらに観光マーケティングの面白さを感じられると思います。 次のステージ：なし。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データ解析論 I	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新任	3年	後期のオリエンテーションの時間に「問い合わせ先」についてお知らせします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	統計学についての基本的な概念について解説し、身近に使われている統計学の実例を紹介し、表計算ソフトを使用した統計処理などの演習を行います。講義の目的は統計学的な知識を身に付け、客観的な根拠に基づく判断が行える析能力を身につけることです。	身長が「高い、低い」というのは人によって違う主観的なものですが、身長「170cm」は誰の基準でも同じ客観的なものです。こうした数値をデータといい、データの集まりが統計になります。この講義ではデータや統計の基礎知識を学び、さらにその活用について考えていきましょう。
到達目標	①記述統計学の基本的な考え方について理解しましょう。 テストの点数が平均点より上か下か一喜一憂するかもしれません。しかし、点数といったデータの分布やばらつき具合を分析して、点数が良いのか悪いのか判断する必要があります。 ②推測統計学、標本調査の仕組みを理解しましょう。 世の中のデータのほとんどは一部の人を調査したもので、全員（例：日本国民全員）を調べたものではありません。しかし、推測統計学では、ある程度のデータで全体の状況を推測することができます。推測統計、標本調査の基本を身につけましょう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要、データの性質について	定性と定量の違い
	2	記述統計① 平均の意味	代表値の計算
	3	記述統計② 分散、標準偏差	標準偏差の計算
	4	記述統計③ 基準値と偏差値	基準値と偏差値の計算
	5	確率論の基礎（正規分布、確率変数、確率密度関数）	基準値と正規分布の計算
	6	母集団と標本	標準調査・抽出方法の復習
	7	大数の法則、中心基本定理	推測統計学の課題
	8	母平均の推定	母平均の推定の計算
	9	母比率の推定	母比率の推定の計算
	10	統計的仮説検定	帰無仮説・対立仮説の設定
	11	t分布、t推定	t推定の計算
	12	t検定、母平均の検定	検定統計量、p値の計算
	13	散布図、相関とは	相関関係の復習
	14	相関係数について	相関係数の計算
15	無相関の検定	無相関検定の課題	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など
演習の初めの時間に紹介します 高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年 菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年 今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年 熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年

学びの手立て
履修の心構えについて ・遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなる恐れがあります。遅れず毎回出席してください ・講義→演習→課題→解説の4段階で授業を行いますので、課題に取り組むには講義・演習にしっかり取り組む必要があります。理解を深めるためには時間外の課題を行い、解説で正誤を確かめて下さい。そうすることで試験問題を解答することができます。

評価
平常点3割・課題3割・期末試験4割を原則とします。授業の進捗状況によって評価基準を修正する場合は公表します。日々の授業態度、課題の取り組み状況、定期試験の結果が重要になります。

学びの継続
次のステージ・関連科目 類似科目：共通科目、他学部の統計・社会調査科目 関連科目：データ解析論Ⅱ、ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ 上位科目：データ解析論Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データ解析論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新任	3年	後期のオリエンテーションの時間に「問い合わせ先」についてお知らせします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文やレポートの作成において原因と結果の因果関係を主張するためには、客観的な情報やデータに基づいて論拠を示す必要があります。こうした因果関係を統計的に明らかにする手法として多変量解析があります。この講義では多変量解析の手法として一般的である重回帰分析を中心に学習します。	原因と結果といった因果関係を探るときどちらが原因でどちらが結果かがわからない場合があります。あるいは間違った原因を断定しているかもしれません。講義ではデータに基づき、客観的に関係性を特定することができます。ここで学んだ内容は、レポートや卒業論文の作成において、自分の主張を論拠づけるツールとして役立ちます。
到達目標	①回帰分析とその分析手法を理解しましょう。 ②異なる複数のデータを使うことで、相関関係や因果関係など背景や原因を明らかにしましょう。 ③分析手法の使用条件と分析により明らかにできること、できないことを理解しましょう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要	データ分析Ⅰの復習など
2	単回帰モデル、最小二乗法など	変数の定義などの学習	
3	重回帰モデルについて	Excelによる回帰分析	
4	重相関、決定係数について	重相関・決定係数の計算方法の復習	
5	自由度調整済みの決定係数	最適な回帰モデルの判別	
6	誤差項の仮定	Excelによる検定方法の復習	
7	統計的仮説検定、t検定など	Excelによる検定方法の復習	
8	信頼区間、予測について	Excelによる検定方法の復習	
9	回帰分析の応用例	演習問題の回答	
10	ダミー変数について	演習問題の回答	
11	数量化理論	演習問題の回答	
12	非線形回帰	Excelによる検定方法の復習	
13	ログ・リニア分析	Excelによる検定方法の復習	
14	ロジスティック回帰分析	Excelによる検定方法の復習	
15	定期試験		
16	講義演習のまとめ		
	テキスト・参考文献・資料など		
	演習の初めの時間に紹介します 高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年 菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年 今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年 熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年		
	学びの手立て		
	履修の心構えについて ・遅刻や欠席をすると、段階的な学習が途切れて内容が理解できなくなる恐れがあります。遅れず毎回出席してください ・講義→演習→課題→解説の4段階で授業を行いますので、課題に取り組むには講義・演習にしっかり取り組みましょう。また、課題にきちんと取り組み、解説を聞いて理解を深めてください。これによって定期試験の問題に対応することができます。		
	評価		
	平常点3割・課題3割・期末試験4割を原則とします。授業の進捗状況によって評価基準を修正する場合は、講義の時間に公表します。日々の授業態度、課題の取り組み状況、定期試験の結果が重要になります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：データ解析論Ⅰ、ビジネス情報分析Ⅰ・Ⅱ 上位科目：卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ（卒論におけるデータ分析の活用）
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーの「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基盤技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データベース	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 秀樹	2年	授業終了後に教室で、または、電子メール(p.tt1073@okiu.ac.jp)でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。	メッセージ データベースの活用、Javaによるアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。
	到達目標 関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。 SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。 データベースと連携したアプリケーションを作成できる。	

学びの準備	到達目標 関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。 SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。 データベースと連携したアプリケーションを作成できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データベースの概要	講義の復習・次回講義の予習
	2	データベースの設計	講義の復習・次回講義の予習
	3	リレーショナルデータベースの基本	講義の復習・次回講義の予習
	4	データベースのイニシャルコストとランニングコスト	講義の復習・次回講義の予習
	5	データベースとアーキテクチャ構成	講義の復習・次回講義の予習
	6	データベース管理システムとデータ定義	講義の復習・次回講義の予習
	7	データ操作 (参照)	講義の復習・次回講義の予習
	8	データ操作 (グループ化・整列)	講義の復習・次回講義の予習
	9	データ操作 (結合)	講義の復習・次回講義の予習
	10	データ操作 (挿入・更新・削除)	講義の復習・次回講義の予習
	11	データ操作 (副照会)	講義の復習・次回講義の予習
	12	トランザクション	講義の復習・次回講義の予習
	13	いろいろなデータベース	講義の復習・次回講義の予習
	14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (1)	DB連携アプリの作成
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (2)	DB連携アプリの作成	
16	総まとめ・学期末試験	講義の復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書：「ITワールド」株式会社インフォテック・サーブ、ミック、木村明治「おうちで学べる データベースのきほん」翔泳社、 参考書：株式会社アंक「SQLの絵本 第2版 データベースが好きになる新しい9つの扉」翔泳社 (2018)、 谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえないデータベース基礎の基礎」技術評論社 (2009)、 柴田 望洋「新・明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016)
-------	---

学びの実践	学びの手立て 以下の理由により、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。 ウェブプログラミングではPHPとMySQLによるウェブアプリケーションの構築を行った。本講義ではデータベース管理システムであるMySQLについてさらに深く学びます。 Javaによるアプリケーションの作成があります。そのため、Javaに関するある程度の知識が必要です。
-------	--

学びの実践	評価 出席回数が3分の2未満は不可。 講義への参加状況・調査課題 (20%)・小テスト (20%)・期末試験 (60%) の成績を重視し、総合的に行う。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論、情報処理システム論、プログラミングⅠ・Ⅱ、ウェブプログラミング
-------	--



※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーの「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、情報サービスの基盤技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	データベース	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 秀樹	2年	授業終了後に教室で、または、電子メール(p.tt1073@okiu.ac.jp)でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。	メッセージ データベースの活用、Javaによるアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。
	到達目標 関係モデルの考え方、DBMSの役割と各種機能について理解する。 SQLを用いてデータ定義、データ操作を行える。 データベースと連携したアプリケーションを作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データベースの概要	講義の復習・次回講義の予習
	2	データベースの設計	講義の復習・次回講義の予習
	3	リレーショナルデータベースの基本	講義の復習・次回講義の予習
	4	データベースのイニシャルコストとランニングコスト	講義の復習・次回講義の予習
	5	データベースとアーキテクチャ構成	講義の復習・次回講義の予習
	6	データベース管理システムとデータ定義	講義の復習・次回講義の予習
	7	データ操作 (参照)	講義の復習・次回講義の予習
	8	データ操作 (グループ化・整列)	講義の復習・次回講義の予習
	9	データ操作 (結合)	講義の復習・次回講義の予習
	10	データ操作 (挿入・更新・削除)	講義の復習・次回講義の予習
	11	データ操作 (副照会)	講義の復習・次回講義の予習
	12	トランザクション	講義の復習・次回講義の予習
	13	いろいろなデータベース	講義の復習・次回講義の予習
14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (1)	DB連携アプリの作成	
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (2)	DB連携アプリの作成	
16	総まとめ・学期末試験	講義の復習	
テキスト・参考文献・資料など 教科書：「ITワールド」株式会社インフォテック・サーブ(2017), ミック, 木村明治「おうちで学べる データベースの基本」翔泳社 参考書：株式会社アंक「SQLの絵本 第2版 データベースが好きになる新しい9つの扉」翔泳社 (2018), 谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえないデータベース基礎の基礎」技術評論社 (2009), 柴田 望洋「新・明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016)			
学びの手立て 以下の理由により、ウェブプログラミング、プログラミングⅠ・Ⅱが履修済みであることが望ましい。ウェブプログラミングではPHPとMySQLによるウェブアプリケーションの構築を行った。本講義ではデータベース管理システムであるMySQLについてさらに深く学びます。Javaによるアプリケーションの作成があります。そのため、Javaに関するある程度の知識が必要です。			
評価 出席回数が3分の2未満は不可。 講義への参加状況・調査課題 (20%)・小テスト (20%)・期末試験 (60%) の成績を重視し、総合的に行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理概論、情報処理システム論、プログラミングⅠ・Ⅱ、ウェブプログラミング
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、ITの可能性と社会課題について考えます

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ハイブリッド型人材育成特別講義	後期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	FROGS/Ryukyufrogs 畑中ひらり	1年	h. hatanaka (_AT_)frogs-corp. jp * (_AT_)の文字を@に置き換えてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>様々な産業分野がテクノロジーの発展に伴い、変化やイノベーションを求められている。2020年には小学生にプログラミングが義務つけられることが決定するなど、未来を生きる人材にとって、テクノロジーは欠かせないアイテムである。最初から難しい技術を学ぶのではなく、ワークショップや講座の中からテクノロジーの必要性や可能性に気づき、興味を持ってもらうことをねらいとしています。</p>	<p>Ryukyufrogs協賛企業やサポーターがゲストスピーカーを務めるといふ豪華ラインナップです。インプットだけでなく、体感型のワークショップもあり、楽しみながら、自分たちでも未来を創れる、変えられるということを実感してもらいたいと考えています。</p>
到達目標	<p>1) 既存産業の課題と向き合い、テクノロジーを掛け合わせることで課題解決を行うワークショップを通じて、日常に流されない問題意識を持つ自立人材を育む。 2) テクノロジーの可能性に気づくことで、技術習得に興味を湧く。 3) 文系・理系の枠を超えた、ハイブリッド人材を育む。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	本時の内容整理・振り返り
	2	テクノロジーの可能性と未来（講話）	本時の内容整理・振り返り
	3	〇〇×ITの事例紹介と各産業界の課題を考える（講話とワークショップ）	本時の内容整理・振り返り
	4	課題発表とチームビルディング（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り
	5	チームで新サービスを考える①（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り
	6	デザインワークショップ	本時の内容整理・振り返り
	7	チームで新サービスを考える②（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り
	8	中間プレゼンテーション	本時の内容整理・振り返り
	9	プレゼンテーションの基礎を学ぶ	本時の内容整理・振り返り
	10	チームで新サービスを考える③（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り
	11	プロトタイプを作るには（講義）	本時の内容整理・振り返り
	12	チームでサービスを創る①（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り
	13	チームでサービスを創る②（ワークショップ）	本時の内容整理・振り返り
14	プレゼンテーションワークショップ	本時の内容整理・振り返り	
15	最終成果報告会		
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはありませんが、スマートフォンやノートPC、タブレットなどを所有している人は持参してください。</p>		
学びの手立て	<p>インプットとアウトプットを繰り返しながら学ぶスタイルです。能動的かつ積極的に参加できる学生を希望します。何か今の自分を変えたい、何か自分で作って世の中を良くしたい、と思っている方はぜひご参加ください。定員は50名とし、登録希望者多数の場合には事前に選考を行います。初回講義時には必ず出席するようにしてください。</p>		
評価	<p>最終成果報告のクオリティ(80%)と全講座を通じ受講時の言動など(20%)を評価します。総得点の90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可とし、60%未満は不可とします。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>創ることの楽しみに気づいた学生には、県内外で行われている勉強会やイベント情報を提供し、参加を促します。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 産業および経済に関する諸課題に対する問題発見力・分析力を高めるために、経済社会における国の財政について学習します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	パブリックファイナンス	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前村 昌健	2年	授業後に教室で受け付けます。それ以外は、研究室（5号館5536）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国の財政の役割は、市場を通じては供給不能か困難である公共財を供給すること、民間部門（家計、企業）の経済活動を促す枠組みを整えることにあります。まず、国の財政の役割、しくみを学習し、次に所得税、消費税、法人税、公債といった歳入を取り上げます。その後、社会保障、公共事業といった歳出についてふれます。最後に国の借金といった財政の抱える問題を学習します。</p>	<p>経済は企業や家計のほかに、財政が関係しています。日本の財政のしくみや今後の課題を理解することが重要になってきています。</p>
到達目標	<p>①国の財政の基本的しくみが理解できる ②国の歳入の基本である税や国債、主要な歳出である社会保障、公共事業など歳出の内容を理解する ③国の借金の累増や社会保障など財政の抱える問題について理解できる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	市場と公共部門の役割①	教科書①PP1-35を読む
	2	市場と公共部門の役割②	教科書①PP1-35を読む
	3	財政のしくみ①	教科書①PP1-35を読む
	4	財政のしくみ②	教科書①PP1-35を読む
	5	歳入と租税①（所得税）	教科書①PP73-86を読む
	6	歳入と租税②（消費税、法人税）	教科書①PP121-133を読む
	7	歳入と公債について	教科書①PP143-155を読む
	8	公共支出について①（公共事業）	教科書①PP53-68を読む
	9	公共支出について②（社会保障）	教科書①PP53-68を読む
	10	財政赤字と財政の持続可能性①	教科書①PP143-155を読む
	11	財政赤字と財政の持続可能性②	教科書①PP143-155を読む
	12	社会保障と財政①（年金）	厚生労働省HP等、社会保障閲覧
	13	社会保障と財政②（医療）	厚生労働省HP等、社会保障閲覧
	14	情報化と公共部門の役割①	情報通信白書、該当部分閲覧
15	情報化と公共部門の役割②	情報通信白書、該当部閲覧	
16	講義の総括		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書、参考文献については講義の初めの時間に説明します。</p> <p>①池宮城秀正編著『財政学』ミネルヴァ書房 ②林宜嗣著『財政学』、新世社、 ③図説『日本の財政』東洋経済</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①授業中の私語、携帯電話の使用はやめて下さい。 ②経済原論Ⅰ、Ⅱで基本的な経済学の知識を理解しておくことが重要です。経済学の基本的知識を基に市場の働きを支える政府の役割、財政についての理解が深まります。 ③財務省HP、厚生労働省HPなどインターネット上にも有益な情報がありますので参考にして下さい。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>成績は、授業参加度30%、課題レポートの提出状況20%、定期試験50%の割合で評価します。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>都道府県、市町村の財政を学ぶ「地域財政論Ⅰ」、「地域財政論Ⅱ」を受講すると、経済社会及び財政の理解がさらに深まります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス英語	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	2年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスシーンに登場する様々なシチュエーションやトピックを通して英語の4 Skills (Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。国際的な職場で仕事をするを想定したアクティビティやロールプレイを取り入れ、実践的な授業を行う。またビジネスマナー、外国人対応、異文化の知識と理解を深めることを目指す。</p>	<p>【実務経験】外資・グローバル企業での英語講師経験を活かし、ビジネスに関連した実践的な英語を学び、使えるようになることを目指します。社会人になってから「ビジネス英語を取って良かった！」と思ってもらえるような役に立つ授業にしたいと思います。仕事で活かせる英語・異文化の知識を是非学んでください！</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書や授業で学んだ英単語や表現の理解ができる。</li> <li>ビジネスシーンで基本的な英語を使い、意思疎通ができる。</li> <li>ビジネスシーンで想定される問題を自分なりに考え、行動し、解決できる。</li> <li>異文化に対する理解を深める。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance & Unit 1: First meetings	Unit 1復習
	2	Unit 2: You and your company	Unit 2復習、Unit 3予習
	3	Unit 3: Visiting a client	Unit 3復習、Unit 4予習
	4	Unit 4: Business activities	Unit 4復習、Unit 5予習
	5	Unit 5: Fixing an appointment	Unit 5復習、Unit 6予習
	6	Unit 6: Requests and offers	Unit 6復習、Unit 7予習
	7	Unit 7: Company and personal history	Unit 1-7復習、
8	Unit 1-7 Review	Unit 8復習	
9	Unit 8: Making plans	Unit 8復習、Unit 9予習	
10	Unit 9: Opinions and preferences	Unit 9復習、Unit 10予習	
11	Unit 10: Directions and invitations	Unit 10復習、Unit 11予習	
12	Unit 11: Entertaining	Unit 11復習、Unit 12予習	
13	Unit 12: Saying goodbye	Unit 8-12復習、TOEIC予習	
14	TOEIC & Review	Unit 1-12 復習、TOEIC復習	
15	TOEIC & Review	Unit 1-12 復習	
16	Final Examination 期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>Business Venture Student Book (with practice for the TOEIC® Test) 緑の本です。(朝野書房やアマゾンなどで購入可) その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>【重要】受講希望者は必ず初日(オリエンテーション)に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>ほぼ毎回クイズ・小テストを行い学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。</li> <li>スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> </ul>		
評価	<p>①授業態度、授業への参加・積極性、Self-Reflection (25%) ②課題 (25%) ③クイズ・小テスト (25%) ④ 期末テスト (25%) を総合的に判断して評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日常生活に英語を取り入れる方法を自分なりに考え、工夫し、学習の継続に努めてほしい。自分の目的にあった共通英語の授業や他の英語関連の教科も積極的に受講すること。特にV-VI (英検) とVII (TOEIC) は、資格取得と同時にモチベーション向上にもなるので是非チャレンジしてほしい。英語のコミュニケーション力を更に高めるため3、4年次に「グローバルオフィスコミュニケーション」を受講することを強く勧める。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスエコノミクスⅠ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現在、企業経営とグローバル化・情報化は不可分と言える状況にあります。そこで、この授業では、国内企業がどのようなグローバル戦略をとっているか、また「情報」という新たな資源をどのように活用しているかについて理解してもらうことを目的とします。	この授業は、経済学的手法を用いて企業経営を分析するための入門に位置付けられています。経済学の知識が無くても理解できる内容に設定していますが、もし、これまでに経済学に関連する科目を履修していない場合は、この授業と並行して履修することを勧めます。
到達目標	①ビジネスエコノミクスの定義と基礎的な理論を理解し、説明することができる（確認テストと期末試験で評価） ②授業で取り上げた事例の利点と問題点の双方を知った上で、問題の解決に向けた提案ができる（授業での発表と討論レポートで評価）	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／ビジネスエコノミクスとは	授業内容の復習をしておく
	2	価格戦略と利益のしくみ	授業内容の復習をしておく
	3	様々な競争戦略とビジネスの構造	ディスカッション①準備をしておく
	4	ディスカッション①「任意の競合企業による競争戦略の違い」	授業内容の復習をしておく
	5	確認テスト／市場の理論と組織の理論	授業内容の復習をしておく
	6	情報の非対称性とは	授業内容の復習をしておく
	7	ゲーム理論と企業の戦略	ディスカッション②準備をしておく
	8	ディスカッション②「チームでゲーム理論の間を立て、クラスで解を検討する」	授業内容の復習をしておく
	9	確認テスト／貿易構造の変化	授業内容の復習をしておく
	10	国際取引と為替レート	授業内容の復習をしておく
	11	国内企業の海外展開	ディスカッション③準備をしておく
	12	ディスカッション③「任意の地場企業を海外展開させる場合の利点と問題点」	授業内容の復習をしておく
	13	IT革命と情報化社会	授業内容の復習をしておく
	14	高度情報化社会におけるビジネスの変化	授業内容の復習をしておく
15	総括／確認テストと解説	定期試験に向けた復習をしておく	
16	定期試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。 ①伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社、2004年2月 ②早稲田大学商学部ビジネス・エコノミクス研究会『入門ビジネス・エコノミクス』中央経済社、2006年5月

学びの実践	学びの手立て
	●開講期間中に確認テストとディスカッションを3回実施します。確認テストは、その回までの授業範囲を対象とするため、範囲の重複があります。一方、ディスカッションは、議論の結果をチームごとに発表してもらい、受講者に相互評価してもらいます。また、ディスカッションの結果はチームごとに「討論レポート」にまとめ、発表後に提出してもらいます。この発表と討論レポートも成績評価の対象とします。ディスカッションを行うためには事前の調査が必要となるため、授業外学習で準備をしておいてください。これを怠った場合、深い議論が行えないため、相応の減点をします。なお、ディスカッションのテーマは最新の時事問題に差し替える可能性があります。●この授業では期末試験を行います。期末試験は、授業とディスカッションで取り扱ったすべての範囲が対象であり、「持ち込み不可」なので、しっかりと復習を行い、内容の理解に努めてください。

学びの実践	評価
	①発表15%（受講者による相互評価） ②討論レポート15%（教員による評価） ③確認テスト20%（第5、9、15回の授業内） ④期末試験50%（授業で取り扱ったすべての範囲が対象。持ち込み不可）

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：経済原論Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 次のステージ：ビジネスエコノミクスⅡ

※ポリシーとの関連性 経済に関する諸課題に対する問題発見力と分析力を身につけ、近未来に対する解決力・創造力を養うための科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスエコノミクスⅡ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	3年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業は、グローバル化と情報化が企業経営に及ぼす影響をビジネスエコノミクスの手法を用いて分析できるようになることを目的とします。授業の位置付けはビジネスエコノミクスⅠの発展であり、様々な分析方法について学び、それを活用できるようになることを目指します。	ビジネスエコノミクスⅠを受講していなくても理解できる内容に設定していますが、経済学に関する知識が必要になります。もし、これまでに経済学に関連する科目を履修していない場合は、この授業と並行して履修することを勧めます。

到達目標
①ビジネスエコノミクスに関する理論を理解し、説明することができる（確認テストと期末試験で評価） ②授業で取り上げた事例の利点と問題点の双方を知った上で、問題の解決に向けた提案ができる（授業での発表と討論レポートで評価）

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／市場分析の基礎理論	授業内容の復習をしておく
	2	需要の特性	授業内容の復習をしておく
	3	費用の規定要因	ディスカッション①準備をしておく
	4	ディスカッション①「GoogleとYahooの比較分析」	授業内容の復習をしておく
	5	確認テスト／市場支配力	授業内容の復習をしておく
	6	ゲームと戦略	授業内容の復習をしておく
	7	寡占と競争	ディスカッション②準備をしておく
	8	ディスカッション②「iPhoneとGALAXYの比較分析」	授業内容の復習をしておく
	9	確認テスト／価格戦略	授業内容の復習をしておく
	10	製品戦略	授業内容の復習をしておく
	11	流通と販売促進	ディスカッション③準備をしておく
	12	ディスカッション③「アマゾンと楽天の比較分析」	授業内容の復習をしておく
	13	サプライチェーン	授業内容の復習をしておく
	14	プラットフォームの経済学	授業内容の復習をしておく
15	総括／確認テストと解説	定期試験に向けた復習をしておく	
16	定期試験		

テキスト・参考文献・資料など
テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。 ●丸山雅祥『経営の経済学 第3版』有斐閣、2017年2月

学びの手立て
●開講期間中に確認テストとディスカッションを3回実施します。確認テストは、その回までの授業範囲を対象とするため、範囲の重複があります。一方、ディスカッションは、議論の結果をチームごとに発表してもらい、受講者に相互評価してもらいます。また、ディスカッションの結果はチームごとに「討論レポート」にまとめ、発表後に提出してもらいます。この発表と討論レポートも成績評価の対象とします。ディスカッションを行うためには事前の調査が必要となるため、授業外学習で準備をしておいてください。これを怠った場合、深い議論が行えないため、相応の減点をします。なお、ディスカッションのテーマは最新の時事問題に差し替える可能性があります。●この授業では期末試験を行います。期末試験は、授業とディスカッションで取り扱ったすべての範囲が対象であり、「持ち込み不可」なので、しっかりと復習を行い、内容の理解に努めてください。

評価
①発表15%（受講者による相互評価） ②討論レポート15%（教員による評価） ③確認テスト20%（第5、9、15回の授業内） ④期末試験50%（授業で取り扱ったすべての範囲が対象。持ち込み不可）

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目：ビジネスエコノミクスⅠ、経済原論Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 次のステージ：応用ミクロ経済学Ⅰ、応用マクロ経済学Ⅰ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、ビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的にインターネットなどから経済ビジネスに関わるデータを収集し、表計算ソフト (Microsoft Excel) などの統計処理ソフトを用いた分析手法について学ぶ。	メッセージ 本講義は、パソコンを用いた演習形式で行います。授業中のみならず、授業外でも不明な点については積極的に質問するように努めてほしい。
	到達目標 ①表計算ソフトExcelによる視覚的なデータ処理の技法を身につける。 ②視覚的なデータ処理の結果を読み取る能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	推移・比較分析	当日内容の復習
	3	順位・比較分析	当日内容の復習
	4	内訳・比較分析	当日内容の復習
	5	関係分析	当日内容の復習
	6	比較・関係分析	当日内容の復習
	7	階層分析	当日内容の復習
	8	集中度・格差分析	当日内容の復習
9	中間まとめと復習	これまで学習した内容の総合復習	
10	原因の影響度分析	当日内容の復習	
11	売上傾向分析	当日内容の復習	
12	伸び率分析	当日内容の復習	
13	データの集計分析	当日内容の復習	
14	CS分析	当日内容の復習	
15	まとめと総合復習	総合復習とテスト準備	
16	テスト	テスト結果の点検	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材・資料はプリントまたはPDFファイルを配布する。		
	学びの手立て ①遅刻や無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容は時間外で学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と関係ないこと (スマートフォンの操作、講義内容と関係のないサイトの閲覧など) は減点となる。 ③疑問点や不明な点があったら、授業時間のみならず、授業時間外においても積極的に質問し、解決に努めてほしい。		
	評価 平常点：40%、テスト点：60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス情報分析 II、専門演習 I II
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、ビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的にインターネットなどから経済ビジネスに関わるデータを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法について学ぶ。	メッセージ 本講義は、パソコンを用いた演習形式で行います。授業中のみならず、中業外でも不明な点については積極的に質問するように努めてほしい。
	到達目標 ①表計算ソフトExcelによる視覚的なデータ処理の技法を身につける。 ②視覚的なデータ処理の結果を読み取る能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	推移・比較分析	当日内容の復習
	3	順位・比較分析	当日内容の復習
	4	内訳・比較分析	当日内容の復習
	5	関係分析	当日内容の復習
	6	比較・関係分析	当日内容の復習
	7	階層分析	当日内容の復習
	8	集中度・格差分析	当日内容の復習
9	中間まとめと復習	これまで学習した内容の総合復習	
10	原因の影響度分析	当日内容の復習	
11	売上傾向分析	当日内容の復習	
12	伸び率分析	当日内容の復習	
13	データの集計分析	当日内容の復習	
14	CS分析	当日内容の復習	
15	まとめと総合復習	総合復習とテスト準備	
16	テスト	テスト結果の点検	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが、教材・資料はプリントまたはPDFファイルを配布する。		
	学びの手立て ①遅刻や無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容は時間外で学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と関係ないこと（スマートフォンの操作、講義内容と関係のないサイトの閲覧など）は減点となる。 ③疑問点や不明な点があったら、授業時間のみならず、授業時間外においても積極的に質問し、解決に努めてほしい。		
	評価 平常点：40%、テスト点：60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス情報分析Ⅱ、専門演習ⅠⅡ
-------	---------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス情報分析Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	2年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、ビジネスや経済産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネット上からのビジネスおよび経済産業データの収集、表計算ソフト (Microsoft Excel) などの統計処理ソフトを用いた分析手法について学ぶ。	前期のビジネス情報分析Ⅰとは異なり、視覚的なデータ処理ではなく、数量分析や統計分析を開講し演習を行う授業です。また演習形式で行いますが、授業中のみならず、授業外でも不明な点については積極的に質問するように努めてほしい。
到達目標	①統計分析の手法を把握する。授業は統計学やデータ分析の概説部分から始まり、定義・計算の方法や背景、理由を解説します。背景や理由を知ることによって分析手法が必要な理由や応用事例を知ることができる。 ②統計分析を実践する。ただ知識として把握するだけでなく、練習問題や課題を行うことで社会などの現場やそぐ張論文のデータ分析に応用できる能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要ガイダンス	
	2	既存統計資料の収集と読み方	当日内容の復習
	3	記述統計量 (平均)	当日内容の復習
	4	記述統計量 (分散、標準偏差)	当日内容の復習
	5	記述統計量 (変動係数)	当日内容の復習
	6	時系列データの分析指標 (指数化、成長率、寄与率)	当日内容の復習
	7	単純集計と度数分布	当日内容の復習
	8	クロス集計とクロス集計表	当日内容の復習
9	散布度、散布図	当日内容の復習	
10	相関関係、疑似相関、因果関係の概念	当日内容の復習	
11	相関分析 (相関係数)	当日内容の復習	
12	相関分析 (相関比)	当日内容の復習	
13	相関分析 (連関係数)	当日内容の復習	
14	因果関係分析 (直線回帰)	当日内容の復習	
15	因果関係分析演習 (直線回帰)	復習とテスト準備	
16	テスト	テスト結果の点検	
	テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しないが、教材・資料はプリントまたはPDFファイルを配布する。 参考文献：菅民郎『らくらく図解統計分析教室』オーム社、渡辺美智子・神田智弘『実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析』秀和システムなど。	
	学びの手立て	①遅刻や無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は欠席届を提出する。欠席した講義の内容は時間外で学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と関係ないこと (スマートフォンの操作、講義内容と関係のないサイトの閲覧など) は減点となる。 ③疑問点や不明な点があったら、授業時間のみならず、授業時間外においても積極的に質問し、解決に努めてほしい。	
	評価	平常点：40%、テスト点：60%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ビジネス情報分析Ⅰ、データ解析特論ⅠⅡ 上位科目：専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文演習ⅠⅡ
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャルエコノミクス I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 預金による貯蓄に必要な基本的な考え方を理解する。 企業の投資プロジェクトに必要な基本的な考え方を理解する。 株式による貯蓄に必要な基本的な考え方を理解する。	メッセージ ファイナンスの学習は「貯める・借りる」を考える計算から始まります。 「実生活に役立つExcel計算」としてファイナンスを身につけるきっかけにしてください。
	到達目標 株式を保有して貯蓄する時のリスク・リターン計算結果を説明できる。 株式を保有して貯蓄する時の分散効果の計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済活動とファイナンス：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	現在価値と将来価値①	金額と利率を変えて試算する
	3	現在価値と将来価値②	第3回練習問題<プリント配布>
	4	NPVとIRR①	第4回練習問題<プリント配布>
	5	NPVとIRR②	第5回練習問題<プリント配布>
	6	投資収益率①	第6回練習問題<プリント配布>
	7	投資収益率②	第7回練習問題<プリント配布>
	8	学習内容の復習1	第8回配布プリントの復習
	9	期待収益率・分散・標準偏差①	公式の復習
	10	期待収益率・分散・標準偏差②	第9回との違いを確認する
	11	共分散・相関係数①	公式の復習
	12	共分散・相関係数②	第11回との違いを復習する
	13	分散効果①	分散効果の意味を復習する
	14	分散効果②	第14回練習問題<プリント配布>
15	学習内容の復習2	第15回配布プリントの復習	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など ”テキストは使用しない。資料を配布して実習を進め、解説する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]齋藤誠『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』有斐閣、2000年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。		
	学びの手立て ①履修の心構え：講義中のスマートフォンの操作は減点とする。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。 ②学びを深めるために：Excel計算とWord記述の学習内容をつなげることが重要である。Excel計算の手順、Word記述の内容を、講義時間「外」に確認しなおすことで到達目標の達成を目指す。 課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：リスクとリターン、分散効果についてExcel計算できるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているか、特にExcelファイルの作成状況を測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活で「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのもよい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 経済に関する問題発見力・分析力を養うための専門科目を提供します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャルエコノミクスⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	池宮城 尚也	3年	ikemiyagi@okiu.ac.jp, または講義終了後	

学びの準備	ねらい 株式を利用した貯蓄の諸計算を自分で実行できるようになる ファイナンスの考え方・計算に基づいて株価の変動を観察する力を身につける。 金融商品が様々な貯蓄の契約であることを理解する。	メッセージ ファイナンスの学習は「貯める・借りる」を考える計算から始まります。 「実生活に役立つExcel計算」としてファイナンスを身につけるきっかけにしてください。
	到達目標 効率的に複数の株式を保有して貯蓄する比率の計算結果を説明できる。 効率的に貯蓄の資金を預金と株式に配分する比率の計算結果を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済活動とファイナンス：イントロダクション	シラバスを読んでおく
	2	期待収益率・標準偏差(分散)相関係数①	第2回内容を別の株価データで計算
	3	期待収益率・標準偏差(分散)相関係数②	第3回内容を別の株価データで計算
	4	分散効果①	第4回内容を別の株価データで計算
	5	分散効果②	第5回内容を別の株価データで計算
	6	投資比率とポートフォリオの標準偏差①	第6回内容を別の株価データで計算
	7	投資比率とポートフォリオの標準偏差②	第7回内容を別の株価データで計算
	8	投資比率とポートフォリオの標準偏差③	第8回内容を別の株価データで計算
9	学習内容の復習1	第9回配布プリントの復習	
10	3種類のポートフォリオの比較①	第10回練習問題(配布プリント)	
11	3種類のポートフォリオの比較②	Excelシート内容の確認	
12	機会曲線	機会曲線の課題内容	
13	有効フロンティア	有効フロンティアの課題内容	
14	資本市場線	資本市場線の課題内容	
15	学習内容の復習2	課題の計算結果を理解する	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。資料を配布して実習を進め、解説する。 参考文献 [1]大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。 [2]齋藤誠『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』有斐閣、2000年。 [3]福田慎一『金融論：市場と経済政策の有効性』有斐閣、2013年。		
	学びの手立て ①履修の心構え：講義中のスマートフォンの操作は減点とする。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。欠席した講義のExcel実習は時間外学習で行うこと。遅刻・欠席が重なるとExcelファイルの作成が大幅に遅れ、実習に支障をきたすので注意すること。 ②学びを深めるために：Excel計算とWord記述の学習内容をつなげることが重要である。Excel計算の手順、Word記述の内容を、講義時間「外」に確認しなおすことで到達目標の達成を目指す。 課題の諸項目について、受講生の達成度を報告し、解説する時間を設ける。		
	評価 期末テスト60%：到達目標の達成度を測る。 提出課題20%：リスクとリターン、分散効果についてExcel計算できるかを測る。 平常点20%：履修の心構えを満たしているか、特にExcelファイルの作成状況を測る。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習した内容を、将来の実生活で「貯める・借りる」ときの問題解決に役立ててもらいたい。 証券外務員やファイナンシャルプランナー技能士の資格にチャレンジするのもよい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングにおける基礎知識を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング理論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい データの表現形式、データ構造とアルゴリズムなど、情報処理技術の基礎的な内容を修得する。	メッセージ 2017年度以降の入学生は、上級情報処理士の資格取得、基本情報技術者試験 午前試験免除制度の適用に必要な科目です。 プログラミングの基本を本講義では学ぶが、入学時のベースがかなり異なるため、今までに全く学んだことがない者は予習・復習を必ず行うこと。それでも、わからない場合は授業外に質問すること。
	到達目標 探索や整列など基本的なアルゴリズムを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス・データの表現
	2	基数と基数変換
	3	データの表現形式：〈文字データ／数値データ〉
	4	データの表現形式：〈誤差／シフト演算〉
	5	ファイルとレコード
	6	配列／リスト
	7	データ探索処理
	8	データ整列処理
	9	さまざまなアルゴリズム
	10	ソフトウェアの分類
	11	OSの基本と構成
	12	OSの管理機能
	13	情報セキュリティの概念
	14	情報セキュリティ技術
15	さまざまなセキュリティ対策	
16	総まとめ・期末試験	
	時間外学習の内容	
	次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習／次回講義の予習	
	当該講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など	
	テキスト：「ITワールド」インフォテック・サーブ（2018） 参考文献：・石田保輝，宮崎修一「アルゴリズム図鑑 絵で見てわかる26のアルゴリズム」翔泳社（2017） ・アंक「アルゴリズムの絵本」翔泳社（2003） ・アंक「OSの仕組みの絵本」翔泳社（2011） ・杉山行浩「Javaで学ぶデータ構造とアルゴリズム」東京電機大学出版局（2012） ・近藤嘉雪「定本Javaプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」ソフトバンククリエイティブ（2011）	
	学びの手立て	
	予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献，またWeb上の資料を積極的に利用するようにしてください。	
	評価	
	試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)，講義中の課題(30%)，分野別確認テスト(10%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」，8割以上「優」，7割以上「良」，6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義形式：プログラミング理論，情報処理システム論，情報通信ネットワーク論 演習形式：プログラミングI・II，ウェブプログラミング，データベース，情報処理システム演習，ロボットシミュレーション
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報通信技術を学ぶ上での基本となり、続く情報系列に配置される講義、演習、卒業論文に役立つ基礎力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	1年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、 オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習は、基本的なプログラミング技術の習得を目指します。プログラミング言語としてJavaを採用していますが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮します。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム言語とは、その概要と仕組みを説明できる。</li> <li>・画面出力・入力プログラムを実装できる。</li> <li>・基本的な演算プログラムを実装できる。</li> <li>・条件分岐・反復処理を利用したプログラムを実装できる。</li> <li>・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装できる。</li> </ul>	<p>プログラミングは情報技術を学ぶ上での基本となります。プログラミング技術の習得がなければ続く情報系の「専門演習基礎」を履修することが難しくなることに十分留意しながら、きちんとした学習姿勢で毎回の講義に取り組んでもらいたいと考えます。</p> <p>【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、実務領域までを念頭においたプログラミングの知識、技術を演習する。</p>

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>プログラミング言語とJava</td><td>配布資料の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>変数における識別子と型</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>3</td><td>変数における宣言と利用</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>4</td><td>式と演算子</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>5</td><td>演算子の優先順位と型変換</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>6</td><td>関係演算子とif文</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>7</td><td>if-else文とswitch文</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>8</td><td>for文とwhile文</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>9</td><td>do-while文</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>10</td><td>配列</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>11</td><td>多次元配列</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>12</td><td>オブジェクト指向とクラスの基礎的理解</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>13</td><td>フィールドとメソッド</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>14</td><td>オブジェクトの作成</td><td>教科書の読み込みと理解</td></tr> <tr><td>15</td><td>オブジェクトの利用</td><td>演習課題への真摯な取り組み</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	プログラミング言語とJava	配布資料の読み込みと理解	2	変数における識別子と型	教科書の読み込みと理解	3	変数における宣言と利用	演習課題への真摯な取り組み	4	式と演算子	教科書の読み込みと理解	5	演算子の優先順位と型変換	演習課題への真摯な取り組み	6	関係演算子とif文	教科書の読み込みと理解	7	if-else文とswitch文	演習課題への真摯な取り組み	8	for文とwhile文	教科書の読み込みと理解	9	do-while文	演習課題への真摯な取り組み	10	配列	教科書の読み込みと理解	11	多次元配列	演習課題への真摯な取り組み	12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解	教科書の読み込みと理解	13	フィールドとメソッド	演習課題への真摯な取り組み	14	オブジェクトの作成	教科書の読み込みと理解	15	オブジェクトの利用	演習課題への真摯な取り組み	16	期末試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	プログラミング言語とJava	配布資料の読み込みと理解																																																			
2	変数における識別子と型	教科書の読み込みと理解																																																			
3	変数における宣言と利用	演習課題への真摯な取り組み																																																			
4	式と演算子	教科書の読み込みと理解																																																			
5	演算子の優先順位と型変換	演習課題への真摯な取り組み																																																			
6	関係演算子とif文	教科書の読み込みと理解																																																			
7	if-else文とswitch文	演習課題への真摯な取り組み																																																			
8	for文とwhile文	教科書の読み込みと理解																																																			
9	do-while文	演習課題への真摯な取り組み																																																			
10	配列	教科書の読み込みと理解																																																			
11	多次元配列	演習課題への真摯な取り組み																																																			
12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解	教科書の読み込みと理解																																																			
13	フィールドとメソッド	演習課題への真摯な取り組み																																																			
14	オブジェクトの作成	教科書の読み込みと理解																																																			
15	オブジェクトの利用	演習課題への真摯な取り組み																																																			
16	期末試験																																																				
テキスト・参考文献・資料など																																																					
学びの手立て																																																					
評価																																																					

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度前期のプログラミングⅡに臨む場合、2ヵ月の期間が空きますので、それまでは自主的にプログラムの実装や情報収集に励み、滞りなく受講できるよう努めてもらいたいと考えます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	1 年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的なプログラミング技術の習得を目指す。Java言語をベースとして、手続き型プログラミングの基礎的な理解を目指す。</p>	<p>プログラミングは情報技術の基礎中の基礎です。プログラミング技術の習得なしに情報系に進むことはあり得ません。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム言語とは何か、その概要と仕組みを理解し、説明できる。</li> <li>・統合開発環境を利用することができる。</li> <li>・画面出力・入力プログラムを実装することができる。</li> <li>・基本的な演算プログラムを実装することができる。</li> <li>・条件分岐・反復処理を利用したプログラムを実装できる。</li> <li>・1次元配列および2次元配列の仕組みを理解し、実装することができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・Javaをはじめよう	ガイダンスの理解・課題の実施
	2	画面時文字を表示しよう (1) Javaプログラムの作成と実行	教科書 pp. 1-23・課題の実施
	3	画面時文字を表示しよう (2) 画面への表示とストリーム	教科書 pp. 1-23・課題の完了
	4	変数を使おう (1) 型	教科書 pp. 25-49・課題の実施
	5	変数を使おう (2) 初期化と代入	教科書 pp. 25-49・課題の完了
	6	プログラムの流れと分岐 (1) if文	教科書 pp. 51-91・課題の実施
	7	プログラムの流れと分岐 (2) アルゴリズム	教科書 pp. 51-91・課題の完了
	8	プログラムの流れと繰り返し (1) do文	教科書 pp. 93-139・課題の実施
	9	プログラムの流れと繰り返し (2) 多重ループ	教科書 pp. 93-139・課題の完了
	10	基本型と演算 (1) 基本型と参照型	教科書 pp. 141-175・課題の実施
	11	基本型と演算 (2) 演算と型	教科書 pp. 141-175・課題の完了
	12	配列 (1) 配列と多次元配列	教科書 pp. 177-219・課題の実施
	13	配列 (2) 配列の操作と拡張for文	教科書 pp. 177-219・課題の完了
14	メソッド (1) 配列を扱うメソッド	教科書 pp. 221-265・課題の実施	
15	メソッド (2) 多重定義	教科書 pp. 221-265・課題の完了	
16	期末試験	試験勉強・採点後の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・明解Java 入門」ソフトバンククリエイティブ (2016)</li> <li>・「ITワールド」インフォテック・サーブ (2018)</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ (2017)</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014)</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報系の基礎であるため、皆出席を原則とする。(欠席が多い場合には不可となる。)</li> <li>・課題(締め切り厳守)を提出しない者には期末試験の受験を認めない。</li> <li>・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、空いた時間はすべてプログラミングの自習に費やす程度の気概を要する。</li> </ul>		
評価	各課題 (30%)、各演習 (30%)、期末試験 (40%)		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度前期のプログラミングⅡに臨む場合、2ヵ月の期間が空くので、その間は自主的にプログラムの実装や情報収集に励み、滞りなく受講できるよう努めること。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	1年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 実際のソフトウェア開発スキルの修得を目指す。 プログラミング言語にはJavaを用いる。 Javaの文法をきちんと理解した上で、基本的なプログラムを読み書きできるようにすることを旨とする。	メッセージ 履修後はJavaプログラミング能力認定試験に挑戦することを期待する。
	到達目標 Javaに関する基本的な知識を有し、簡単なプログラムが書ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション, 画面に文字を表示しよう	次回講義の予習
	2	変数(1): 型・初期化	当該講義の復習/次回講義の予習
	3	変数(2): キーボードからのデータ取得	当該講義の復習/次回講義の予習
	4	プログラムの流れの分岐(1): if文による条件分岐	当該講義の復習/次回講義の予習
	5	プログラムの流れの分岐(2): 論理演算子・条件演算子	当該講義の復習/次回講義の予習
	6	プログラムの流れの分岐(3): switch文による条件分岐	当該講義の復習/次回講義の予習
	7	プログラムの流れの繰り返し(1): do文, while文による繰り返し	当該講義の復習/次回講義の予習
	8	プログラムの流れの繰り返し(2): for文による繰り返し	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	プログラムの流れの繰り返し(3): 多重ループ・break文とcontinue文	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	基本形と演算	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	配列(1): 配列の基本	当該講義の復習/次回講義の予習
	12	配列(2): 多次元配列	当該講義の復習/次回講義の予習
	13	メソッド(1): メソッドの基本	当該講義の復習/次回講義の予習
	14	メソッド(2): 配列を扱うメソッド	当該講義の復習/次回講義の予習
15	メソッド(3): メソッドの多重定義	当該講義の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト: 柴田望洋「新・明解Java入門編」ソフトバンククリエイティブ(2016) 「ITワールド」インフォテック・サーブ(2018) 参考書籍: 柴田望洋, 由梨 かつお「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ(2017) アンク「プログラミングの絵本」翔泳社(2016) アンク「Javaの絵本第3版」翔泳社(2016) リンダ・リウカス「ルビオのぼうけん こんにちは!プログラミング」翔泳社(2016)		
	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、演習課題(40%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目: プログラミング理論, データベース, ロボットプログラミング 次のステージ: プログラミングII, ウェブプログラミング
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	2年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的なプログラミング技術の習得を目指す。Java言語をベースとして、オブジェクト指向プログラミングの基礎的な理解を目指す。</p>	<p>プログラミングは情報技術の基礎中の基礎です。プログラミング技術の習得なしに情報系に進むことはあり得ません。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> <li>・クラス変数とクラスメソッドの仕組みを理解し、利用・開発できる。</li> <li>・パッケージの仕組みを理解し、利用・開発できる。</li> <li>・クラスの派生と多相性の仕組みを理解し、活用できる。</li> <li>・抽象クラスの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> <li>・インタフェースの仕組みを理解し、利用・開発ができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・プログラミングⅠの復習	ガイダンスの理解・教科書の復習
	2	クラスの基本（1）クラス・クラス型変数・メンバアクセス演算子	教科書 pp. 267-297・課題の実施
	3	クラスの基本（2）フィールドとインスタンス変数	教科書 pp. 267-297・課題の完了
	4	日付クラスの作成（1）アクセッサ（ゲッターとセッター）	教科書 pp. 299-333・課題の実施
	5	日付クラスの作成（2）文字列化とtoStringメソッド	教科書 pp. 299-333・課題の完了
	6	クラス変数とクラスメソッド（1）クラス変数（静的フィールド）	教科書 pp. 335-361・課題の実施
	7	クラス変数とクラスメソッド（2）静的初期化子とインスタンス初期化子	教科書 pp. 335-361・課題の完了
	8	パッケージ（1）パッケージ・型インポート宣言（単一／オンデマンド）	教科書 pp. 363-385・課題の実施
	9	パッケージ（2）パッケージとアクセス制御	教科書 pp. 363-385・課題の完了
	10	クラスの派生と多相性（1）派生による資産の継承	教科書 pp. 387-423・課題の実施
	11	クラスの派生と多相性（2）参照型のキャスト（アップ／ダウン）	教科書 pp. 387-423・課題の完了
	12	抽象クラス（1）抽象メソッド	教科書 pp. 425-451・課題の実施
	13	抽象クラス（2）文書化コメント	教科書 pp. 425-451・課題の完了
14	インタフェース	教科書 pp. 453-469・課題の実施	
15	期末試験	試験勉強および復習	
16	総括	課題・教科書の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・明解Java 入門」ソフトバンククリエイティブ（2016）</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ（2017）</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス（2014）</li> <li>・アंक「Javaの絵本 第3版」翔泳社（2016）</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定した教科書の第1章から第7章までの内容は、前もって完全に理解しておくこと。</li> <li>・情報系の基礎であるため、皆出席を原則とする。（欠席が多い場合には不可となる。）</li> <li>・課題（締め切り厳守）を提出しない者には期末試験の受験を認めない。</li> <li>・講義を受けるだけでは、プログラミング能力は決して身に付かない。本講義の受講期間は、空いた時間はすべてプログラミングの自習に費やす程度の気概を要する。</li> </ul>		
評価	各課題（30%），各演習（30%），期末試験（40%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>情報コースに進むには、まずプログラミングⅡで十分に基礎を身に付けるべきである。但し、プログラミングⅡまではあくまで基礎でしかないため、今後は自身でプログラミングの学習を進める必要がある。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、プログラミングに関する基礎技術を学びます。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。	メッセージ プログラミングⅠを履修済みの者、もしくは、同等の知識を有している者のみが登録することができる。また、履修後はJavaプログラミング能力認定試験に挑戦することを期待する。
	到達目標 Javaに関する一般的な知識を有し、小規模なプログラムが適切に書ける。オブジェクト指向についての一般的な概念を理解している。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・プログラミングⅠの復習	次回講義の予習
	2	メソッド（１）：配列を扱うメソッド	当該講義の復習／次回講義の予習
	3	メソッド（２）：多重定義	当該講義の復習／次回講義の予習
	4	クラス（１）：クラスの基本定義	当該講義の復習／次回講義の予習
	5	クラス（２）：日付クラスの作成	当該講義の復習／次回講義の予習
	6	クラス（３）：クラス型のフィールド	当該講義の復習／次回講義の予習
	7	クラス（４）：クラス変数	当該講義の復習／次回講義の予習
	8	クラス（５）：クラスメソッド	当該講義の復習／次回講義の予習
	9	クラス（６）：クラス初期化子とインスタンス初期化子	当該講義の復習／次回講義の予習
	10	パッケージ	当該講義の復習／次回講義の予習
	11	クラスの派生と多相性（１）：継承	当該講義の復習／次回講義の予習
	12	クラスの派生と多相性（２）：多相性	当該講義の復習／次回講義の予習
	13	抽象クラス（１）：抽象クラスの定義	当該講義の復習／次回講義の予習
	14	抽象クラス（２）：抽象性をもつ非抽象性メソッドの設計	当該講義の復習／次回講義の予習
	15	インタフェース・例外処理	当該講義の復習
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：柴田望洋「新・明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2016） 「ITワールド」インフォテック・サーブ（2018） 参考書籍：柴田望洋、由梨 かおる「新・解きながら学ぶJava」ソフトバンククリエイティブ（2017） アンク「プログラミングの絵本」翔泳社（2016） アンク「Javaの絵本第3版」翔泳社（2016） リンダ・リウカス「ルビオのぼうけん こんにちは！プログラミング」翔泳社（2016）
-------	---

学びの実践	学びの手立て 「履修の心構え」 遅刻・欠席をしないこと。演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」 指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。
-------	--

学びの実践	評価 試験及び成績の規程に基づき出席回数が3分の2未満は試験を受けられない。 評価は期末試験(60%)、演習課題(40%)の合計得点により行う。 総得点の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：プログラミング理論、プログラミングⅠ、ウェブプログラミング、データベース、ロボットプログラミング
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習は、情報通信技術を学ぶ上での基本となり、続く情報系列に配置される講義、演習、卒業論文に役立つ基礎力を養成します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミングⅡ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、 オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、プログラミングⅠにおいて、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指していく。よって原則として、プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学びながら、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングⅠの学習範囲を習得している。</li> <li>・オブジェクト指向についての基本的な事柄が理解できる。</li> <li>・オブジェクトとクラスの理解に基づいた実装ができる。</li> <li>・パッケージ、派生と多相性、抽象クラスを実装できる。</li> </ul>	<p>プログラミングは情報技術を学ぶ上での基本となります。プログラミング技術の習得がなければ続く情報系の「専門演習基礎」を履修することが難しくなることに十分留意しながら、きちんとした学習姿勢で毎回の講義に取り組んでもらいたいと考えます。</p> <p>【実務経験】 応用アプリケーション研究開発の経験を活かし、実務領域までを念頭においたプログラミングの知識、技術を演習する。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解と次回講義の予習
	2	構造化プログラミングの復習①	配布資料の読み込みと理解
	3	構造化プログラミングの復習②	配布資料の読み込みと理解
	4	オブジェクト指向の基本的理解	配布資料の読み込みと理解
	5	クラスの基本①	教科書の読み込みと理解
	6	クラスの基本②	教科書の読み込みと理解
	7	単純なクラスの実装	演習課題への真摯な取り組み
	8	クラス変数とクラスメソッド①-理解	教科書の読み込みと理解
	9	クラス変数とクラスメソッド②-実装	課題への真摯な取り組み
	10	パッケージ①-理解	教科書の読み込みと理解
	11	パッケージ②-実装	演習課題への真摯な取り組み
	12	クラスの派生と多相性①-理解	教科書の読み込みと理解
	13	クラスの派生と多相性②-実装	演習課題への真摯な取り組み
	14	抽象クラス①-理解	教科書の読み込みと理解
15	抽象クラス②-実装	演習課題への真摯な取り組み	
16	学期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田 望洋「新・明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2016)</li> <li>・柴田 望洋ほか「新・解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2017)</li> <li>・中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014)</li> </ul> <p>また理解の手助けとなる資料を随時配布します。</p>
----	--

学びの手立て	<p>① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に「欠席届け」を提出してください。</p> <p>② 講義において、求められる課題(宿題)の提出期限は、必ず守るようにしてください。</p> <p>③ 配布される参考資料そしてデータファイルは、毎回の講義に持参してください。</p> <p>④ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。</p> <p>⑤ 演習に関する疑問は放置せず、演習中に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解決してください。</p>
--------	--

評価	<p>学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(10%)、課題レポート(20%)、タイピング(10%)、学期末試験(60%)の総合評価とします。</p> <p>また毎回の演習内容は、互いに密接に関連しているため可能な限り出席してもらいたいと思います。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習においてプログラミングの基礎力を習得したことを前提とし、その展開として「ウェブプログラミング」、「情報処理システム演習」、「データベース」、「UIデザイン論」、「ビジュアル情報処理」の履修を推奨します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	2年	講義終了時に対応します。	

学びの準備	ねらい 「簿記 I」は簿記入門を扱っており、簿記会計の基礎となる教科である。「なぜそうなるのか」「どうして、こうするのか」常に考えながら原理・原則を学講義としたい。	メッセージ 簿記を初めて学習する人達が、簿記を正しく、かつ楽しみながら理解できるように、簿記の基礎原理・原則に基づいてわかりやすく講義をすすめて行く。
	到達目標 簿記の基礎的な知識を有し、特にサービス等における基本的な記帳処理ができる。	

学びの準備	到達目標 簿記の基礎的な知識を有し、特にサービス等における基本的な記帳処理ができる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	複式簿記の意義と目的	
	2	資産・負債・純資産	練習問題
	3	貸借対照表	同上
	4	収益・費用と損益計算書	同上
	5	取引と勘定	同上
	6	仕訳・転記	同上
	7	仕訳・転記	同上
	8	試算表	同上
	9	精算表	同上
	10	決算(その1)	同上
	11	決算(その1)	同上
	12	現金・預金	同上
	13	現金・預金	同上
	14	商品売買の処理	同上
	15	商品売買の処理	同上
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開校時に決定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト(90%) 授業の参加度(10%)
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 簿記 II を続けて受講することにより、簿記検定試験3級の範囲となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	2年	講義終了時に対応します。	

学びの準備	ねらい 「簿記Ⅰ」は簿記入門を扱っており、簿記会計の基礎となる教科である。「なぜそうなるのか」「どうして、こうするのか」常に考えながら原理・原則を学講義としたい。	メッセージ 簿記を初めて学習する人達が、簿記を正しく、かつ楽しみながら理解できるように、簿記の基礎原理・原則に基づいてわかりやすく講義をすすめて行く。
	到達目標 簿記の基礎的な知識を有し、特にサービス等における基本的な記帳処理ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	複式簿記の意義と目的	
	2	資産・負債・純資産	練習問題
	3	貸借対照表	同上
	4	収益・費用と損益計算書	同上
	5	取引と勘定	同上
	6	仕訳・転記	同上
	7	仕訳・転記	同上
	8	試算表	同上
	9	精算表	同上
	10	決算(その1)	同上
	11	決算(その1)	同上
	12	現金・預金	同上
	13	現金・預金	同上
	14	商品売買の処理	同上
15	商品売買の処理	同上	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開校時に決定する。		
	学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。		
	評価 期末テスト(90%) 授業の参加度(10%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 簿記Ⅱを続けて受講することにより、簿記検定試験3級の範囲となる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	2年	講義終了時に対応します。	

学びの準備	ねらい 簿記Ⅰで学んだ簿記の基礎を踏まえ、更に進んだ簿記システム理論と記帳技術を講義する。つまり、「簿記Ⅰ」が入門編で、「簿記Ⅱ」は初級編となる。	メッセージ 企業は簿記会計の知識を有した人材を強く求めており、多数の学生の受講を望む。
	到達目標 小規模企業における経営者又は経理担当者として、最低限必要な簿記に関する知識を有し、かつ簡易な実務処理ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	簿記Ⅰのまとめ	
	2	商品売買	練習問題
	3	売掛金・買掛金元帳	同上
	4	手形	同上
	5	手形記入帳	同上
	6	その他の債権・債務	同上
	7	有価証券	同上
	8	有価証券	同上
9	固定資産	同上	
10	固定資産	同上	
11	資本金と引出金	同上	
12	税金	同上	
13	決算(その2)	同上	
14	決算(その2)	同上	
15	決算(その2)	同上	
16	期末テスト	同上	
	テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開校時に決定する。		
	学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。		
	評価 期末テスト(90%) 授業の参加度(10%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 簿記検定2級の勉強に進むことを望む。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-外間 礼子	2年	講義終了時に対応します。	

学びの準備	ねらい 簿記Ⅰで学んだ簿記の基礎を踏まえ、更に進んだ簿記システム理論と記帳技術を講義する。つまり、「簿記Ⅰ」が入門編で、「簿記Ⅱ」は初級編となる。	メッセージ 企業は簿記会計の知識を有した人材を強く求めており、多数の学生の受講を望む。
	到達目標 小規模企業における経営者又は経理担当者として、最低限必要な簿記に関する知識を有し、かつ簡易な実務処理ができる。	

学びの準備	到達目標 小規模企業における経営者又は経理担当者として、最低限必要な簿記に関する知識を有し、かつ簡易な実務処理ができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	簿記Ⅰのまとめ	
	2	商品売買	練習問題
	3	売掛金・買掛金元帳	同上
	4	手形	同上
	5	手形記入帳	同上
	6	その他の債権・債務	同上
	7	有価証券	同上
	8	有価証券	同上
	9	固定資産	同上
	10	固定資産	同上
	11	資本金と引出金	同上
	12	税金	同上
	13	決算(その2)	同上
	14	決算(その2)	同上
	15	決算(その2)	同上
16	期末テスト	同上	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『簿記の技法とシステム』同文館出版 問題集は開校時に決定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 欠席・遅刻しないこと。 あせらず、コツコツ学ぶこと。 復習に重点をおくこと。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト(90%) 授業の参加度(10%)
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 簿記検定2級の勉強に進むことを望む。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア論	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	3年	ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	情報とメディア、コミュニケーションとメディアテクノロジーとの関係を中心に講義を行う。特にマルチメディアの特性について考察し、その利用による効果を考える。情報の表現、つまり各種メディアをコンピュータで処理するためのデータの表現方法や、マルチメディア情報を取り扱う上での基礎知識、マルチメディアとインターネットを活用したビジネスについての説明も行う。	テキストだけでなく、実際にサービスが行われている画面やコンテンツ、CGアニメーションや特撮のメイキング紹介を用いる事で、視覚と聴覚の両方で情報を感じてもらえる講義を行う。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツを構成する要素の成立ちと技術について理解する事で、サービスやコンテンツの提案ができるようになる。</li> <li>インターネットを活用したビジネスモデルの内容と動向を学ぶ事で、新しいプランの提案ができるようになる。</li> </ul>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス マルチメディアとは	講義概要の確認
	2	コミュニケーションと情報	テキスト内容の事前確認
	3	インターネットとマルチメディア	同上
	4	マルチメディアの構成要素（1）音声情報	同上
	5	マルチメディアの構成要素（2）画像情報	同上
	6	マルチメディアの構成要素（3）映像情報	同上
	7	CG作成技術について（1）グラフィックソフト、CAD	テキスト内容の事前確認、試験準備
	8	中間試験	
	9	CG作成技術について（2）3Dモデリングソフト	テキスト内容の事前確認
	10	CG作成技術について（3）アニメーション	同上
	11	CG、特撮作品についての紹介、解説	特撮に関するコンテンツ鑑賞（題材自由）
	12	マルチメディアの発達をもたらす社会（1）	同上
	13	マルチメディアの発達をもたらす社会（2）	同上
	14	マルチメディアの発達をもたらす社会（3）	同上
15	最終試験	テキスト内容の事前確認、試験準備	
16	試験解答・総括		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>第三版 入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル ～公益財団法人 画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）～  <a href="https://www.cgarts.or.jp/book/multimedia/index.html">https://www.cgarts.or.jp/book/multimedia/index.html</a></p> <p>併せて、各講義の2日前までにpdfファイルを沖国大ポータル授業共有フォルダにアップロードする</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>講義に使用するテキストは、各回のテーマに関連した参考となるコンテンツやwebサイトのURLを記載したPDFファイルを用いる。可能な学生はインターネットにアクセスできるノートPC、タブレットなどで随時内容が確認しながらの受講をお願いしたい。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>試験および出席状況を総合的に判断し評価する。          中間試験45%、期末試験45%、平常点10%</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>普段から映画やゲーム、webコンテンツなどに積極的に、継続的に触れ、ハードやインフラの進化によりどのように表現が変わっていくのかを実感してほしい。</p>
-------	---



※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーにおける「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、UIデザインの基礎技術を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	UIデザイン概論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大山 健治	2年	k.ooyama (アットマーク) okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、UI（ユーザーインターフェースデザイン）の概念と手法について理解し、その機能と役割について学ぶ。また、デザインの基礎となる色彩設計および心理的効果、管理手法等、情報の視覚化とデザインについて理解を深める。	メッセージ ユーザー視点に立ったデザインやユーザー体験について理解し、技術や手法を応用した創造力や問題解決力を身につけてほしい。
	到達目標 ・ユーザーインターフェースデザインに関する基本的な概念と役割について理解する。 ・ユーザー視点に立った、デザインプロセスやユーザー体験について深く理解しデザイン手法について学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	ユーザーインターフェースとデザイン	基本概念の理解および講義の復習
	3	デザイン概論	基本概念の理解および講義の復習
	4	デザイン (1) 視覚と色彩	基本概念の理解および講義の復習
	5	デザイン (2) 情報と図像、構成	基本概念の理解および講義の復習
	6	デザイン (3) 社会とデザイン	基本概念の理解および講義の復習
	7	情報アーキテクチャと構造	基本概念の理解および講義の復習
	8	インターフェースデザインと心理 (1) 記憶、知覚、処理	基本概念の理解および講義の復習
	9	インターフェースデザインと心理 (2) 思考と選択	基本概念の理解および講義の復習
	10	ユーザーと行動	基本概念の理解および講義の復習
	11	ナビゲーションモデル	基本概念の理解および講義の復習
	12	ユーザーインターフェースデザインとコンセプト	基本概念の理解および講義の復習
	13	ユーザーインターフェースデザインとデザインプロセス	基本概念の理解および講義の復習
14	ユーザーインターフェースデザインの視覚化	基本概念の理解および講義の復習	
15	ユーザーエクスペリエンス	基本概念の理解および講義の復習	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など 教科書及びテキストについては、初回講義時に周知する。 参考書：「誰のためのデザイン？」D.A.Norman著、野島久雄訳、新曜社、「人間中心設計」黒須正明著、近代科学社			
学びの手立て 欠席した場合は、必ず欠席届を提出すること。 資料、参考書等をもとに講義を進めるため、講義内容を理解するためのノート記述を行うこと。			
評価 講義内で課題レポートの提出（80％）、平常点（20％）を総合的に評価する。 総合評価が90％以上を秀、80％以上を優、70％以上を良、60％以上を可、59％以下を不可とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ウェブデザイン演習、情報リテラシー演習、ゲーム開発演習、コンテンツマネジメント論
-------	--

※ポリシーとの関連性

諸課題に対する問題発見力・分析力そして解決力・創造力、および情報技術の基礎となるプログラミング能力の習得に関連する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ロボットシミュレーション	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	曹 真	3年	m. sou@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LEGO MINDSTORMSを用いた移動自律ロボットを題材として、チームによる課題解決に取り組む。</li> <li>・センサからの外部入力に応じたロボットの制御に、メンバーとの協力を以て臨むことで、プログラミング能力・協調性・課題解決能力の向上を図る。</li> </ul>	<p>ロボットを構想の通りに制御するには多くの試行錯誤と創意工夫が必要になります。実行結果と粘り強く向き合い、チームのメンバーと知恵を出し合い、自ら積極的に行動することで、ロボット制御の基本および協働性・課題解決能力を身に付けましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで課題を共有し、協力して解決に臨むことができる。</li> <li>・ロボットの構造・動作の仕組みが説明できる。</li> <li>・自作のロボットを実装・稼働させることができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ガイダンスの理解
	2	ロボットの基礎	課題の提出
	3	チームビルディング	チームの確立
	4	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (1)	ロボット・プログラムの製作
	5	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (2)	ロボット・プログラムの製作
	6	プロジェクト1 ロボットの製作・モーターの制御 (3)	ロボット・プログラムの製作
	7	プロジェクト1 走行会	プロジェクトの反省・ロボット整頓
	8	プロジェクト2 ライントレース (1)	ロボット・プログラムの製作
	9	プロジェクト2 ライントレース (2)	ロボット・プログラムの製作
	10	プロジェクト2 ライントレース (3)	ロボット・プログラムの製作
	11	プロジェクト2 走行会	プロジェクトの反省・ロボット整頓
	12	プロジェクト3 自由課題 (1)	ロボット・プログラムの製作
	13	プロジェクト3 自由課題 (2)	ロボット・プログラムの製作
14	プロジェクト3 自由課題 (3)	ロボット・プログラムの製作	
15	プロジェクト3 試行会	プロジェクトの反省・ロボット整頓	
16	総括	課題の理解・提出	
テキスト・参考文献・資料など	講義にて指定する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1週目に出席しない場合には登録を取り消す。</li> <li>・ある程度のシステム開発の知識、プログラミング技術が必要なため情報処理システム論、プログラミング理論、ウェブプログラミング、プログラミング I・II を履修済みであることが望ましい。</li> <li>・チームの和を貴ぶこと。</li> </ul>		
評価	課題 (10%) , 各プロジェクト成果(各30%, 合計90%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	センサと制御に関する技術は利用価値が高い。将来的に使う機会があれば、本講義で学んだことをもとに、更なる研鑽を望む。